

# 原 子 力 施 設 環 境 放 射 線 調 査 報 告 書

(平成28年度第3四半期報)

青 森 県



## ま え が き

青森県は、原子力施設周辺における住民の安全確保及び環境の保全を図るため、平成元年 4 月から原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング計画に基づき、日本原燃株式会社とともに環境放射線等の調査を、平成 15 年 4 月から東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング計画に基づき、東北電力株式会社とともに環境放射線の調査を、平成 20 年 4 月からリサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング計画に基づき、リサイクル燃料貯蔵株式会社とともに環境放射線の事前調査を実施しています。

県内の原子力施設の状況として、原子燃料サイクル施設については、平成 18 年 3 月 31 日から六ヶ所再処理工場においてアクティブ試験(使用済燃料による総合試験)を、東通原子力発電所については、平成 23 年 2 月 6 日から第 4 回定期検査を実施しています。リサイクル燃料備蓄センターについては、平成 22 年 8 月末から工事を開始し、平成 25 年 8 月 29 日に使用済燃料貯蔵建屋本体が完成しています。

本報告書は、平成 28 年度第 3 四半期について、青森県及び各事業者が実施した原子力施設周辺における空間放射線及び環境試料中の放射能濃度等の調査結果をとりまとめたものです。

平成 29 年 5 月

青 森 県



# 目 次

〔原子燃料サイクル施設〕

1. 調査概要	3
(1)実施者	3
(2)期間	3
(3)内容	3
(4)測定方法	3
2. 調査結果	6
(1)空間放射線	6
(2)環境試料中の放射能	11
(3)環境試料中のフッ素	19
資 料	
1. 青森県実施分測定結果	23
(1)空間放射線量率測定結果	24
①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果	24
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	25
②モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果	26
③モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果	27
(2)積算線量測定結果(RPLD)	28
(3)大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果	29
(4)大気中の気体状 $\beta$ 放射能測定結果(クリプトン-85換算)	30
(5)大気中のヨウ素-131測定結果	31
(6)環境試料中の放射能測定結果	32
(7)大気中の水蒸気状トリチウム測定結果	36
(8)大気中の気体状フッ素測定結果	37
(9)環境試料中のフッ素測定結果	37
(10)気象観測結果	38
①風速・気温・湿度・降水量・積雪深	38
②大気安定度出現頻度表	39
③風配図	40
2. 事業者実施分測定結果	41
(1)空間放射線量率測定結果	42
①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果	42
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果	43
(2)積算線量測定結果(RPLD)	44
(3)大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果	45
(4)大気中の気体状 $\beta$ 放射能測定結果(クリプトン-85換算)	46
(5)大気中のヨウ素-131測定結果	47

(6) 環境試料中の放射能測定結果 .....	48
(7) 大気中の水蒸気状トリチウム測定結果 .....	50
(8) 大気中の気体状フッ素測定結果 .....	50
(9) 環境試料中のフッ素測定結果 .....	51
(10) 気象観測結果 .....	52
① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深 .....	52
② 大気安定度出現頻度表 .....	53
③ 風配図 .....	54
3. 原子燃料サイクル施設操業状況(事業者報告) .....	55
(1) ウラン濃縮工場の操業状況 .....	56
(2) 低レベル放射性廃棄物埋設センターの操業状況 .....	58
(3) 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの操業状況 .....	60
(4) 再処理工場の操業状況 .....	61
参考資料 .....	65
1. モニタリングポスト測定結果 .....	66
(1) 再処理事業所モニタリングポスト測定結果 .....	66
(2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト測定結果 .....	68
2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果 .....	69
3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果 .....	70
4. 気象観測結果 .....	72
4. 原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング実施要領 .....	75
5. 空間放射線等測定地点図及び環境試料の採取地点図 .....	87

[東通原子力発電所]

1. 調査概要 .....	93
(1) 実施者 .....	93
(2) 期間 .....	93
(3) 内容 .....	93
(4) 測定方法 .....	93
2. 調査結果 .....	96
(1) 空間放射線 .....	96
(2) 環境試料中の放射能 .....	101

資 料

1. 青森県実施分測定結果 .....	109
(1) 空間放射線量率測定結果 .....	111
① モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果 .....	111
(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果 .....	112

②モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果 .....	113
(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果 .....	114
③モニタリングカーによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果 .....	115
(2) 積算線量測定結果 (RPLD) .....	116
(3) 大気浮遊じん中の全 $\beta$ 放射能測定結果 .....	117
(4) 大気中のヨウ素-131測定結果 .....	117
(5) 環境試料中の放射能測定結果 .....	118
(6) 気象観測結果 .....	120
①風速・気温・湿度・降水量・積雪深 .....	120
②大気安定度出現頻度表 .....	122
③風配図 .....	123
2. 事業者実施分測定結果 .....	125
(1) 空間放射線量率測定結果 .....	126
①モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果 .....	126
(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果 .....	126
(2) 積算線量測定結果 (RPLD) .....	127
(3) 環境試料中の放射能測定結果 .....	128
(4) 気象観測結果 .....	130
①降水量・積雪深 .....	130
3. 東通原子力発電所の運転状況 (事業者報告) .....	131
(1) 発電所の運転保守状況 .....	132
(2) 放射性物質の放出状況 .....	133
参考資料 .....	134
1. モニタリングポスト測定結果 .....	135
2. 排気筒モニタ測定結果 .....	136
3. 放水口モニタ測定結果 .....	136
4. 気象観測結果 .....	137
4. 東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施要領 .....	139
5. 空間放射線の測定地点図及び環境試料の採取地点図 .....	149

[リサイクル燃料備蓄センター]

1. 調査概要 .....	157
(1) 実施者 .....	157
(2) 期間 .....	157
(3) 内容 .....	157
(4) 測定方法 .....	157
2. 調査結果 .....	159
(1) 空間放射線 .....	159
(2) 環境試料中の放射能 .....	161

資 料

1. 青森県実施分測定結果 .....	165
(1) 空間放射線量率測定結果 .....	166
① モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果 .....	166
(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果 .....	166
(2) 積算線量測定結果 (RPLD) .....	167
(3) 環境試料中の放射能測定結果 .....	167
(4) 気象観測結果 .....	167
① 降水量・積雪深 .....	167
2. 事業者実施分測定結果 .....	169
(1) 空間放射線量率測定結果 .....	170
① モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果 .....	170
(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果 .....	170
(2) 積算線量測定結果 (RPLD) .....	171
(3) 環境試料中の放射能測定結果 .....	171
(4) 気象観測結果 .....	171
① 降水量・積雪深 .....	171
3. リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング実施要領 .....	173
4. 空間放射線の測定地点図及び環境試料の採取地点図 .....	179

[評価方法等]

1. 原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法 .....	185
2. 東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング結果の評価方法 .....	191
3. 測定結果に基づく線量算出要領 .....	197
4. 自然放射線等による線量算出要領 .....	205



# 原子燃料サイクル施設

表中の記号(資料 3. 原子燃料サイクル施設操業状況を除く)

—: モニタリング対象外を示す。

△: 今四半期の分析対象外を示す。

ND: 定量下限値未満を示す。分析室等で実施する環境試料中放射性核種の分析測定については、測定条件や精度を一定の水準に保つため、試料・核種毎に定量下限値を定めている(原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング実施要領 4.数値の取扱方法(5)別表 1、(6)別表 2 参照)。

\*: 検出限界以下を示す。モニタリングステーションにおいて自動的に採取・測定している大気浮遊じん中の全アルファ及び全ベータ放射能については、測定条件(採取空気量等)が変動するため、測定値が計数誤差の 3 倍以下の場合を検出限界以下としている。

#: 平常の変動幅を外れた測定値を示す。

# 1 調査概要

## (1) 実施者

青森県原子力センター

日本原燃株式会社

## (2) 期間

平成 28 年 10 月～12 月(平成 28 年度第 3 四半期)

## (3) 内容

調査内容は、表 1-1、表 1-2(1) 及び表 1-2(2) に示すとおりである。

## (4) 測定方法

『原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング実施要領』による(「資料」参照)。

表 1-1 空間放射線

測定項目		測定頻度	地点数			
			区分	青森県	事業者	
空間放射線量率	モニタリングステーション	連続	施設周辺地域	5	3	
			比較対照(青森市)	1	-	
	モニタリングポスト	連続	施設周辺地域	6	-	
	モニタリングカー	定点測定	1回/3箇月	施設周辺地域	23	-
				比較対照(青森市)	1	-
	走行測定	1回/3箇月	施設周辺地域	9ルート	-	
RPLDによる積算線量		3箇月積算	施設周辺地域	23	13	
			比較対照(青森市)	1	-	

表 1-2(1) 環境試料中の放射能及びフッ素(モニタリングステーション)

試料の種類		測定頻度	地点数							
			青森県				事業者			
			全α・全β放射能	β放射能	ヨウ素-131	フッ素	全α・全β放射能	β放射能	ヨウ素-131	フッ素
施設周辺地域	大気浮遊じん	1回/週	5	-	-	-	3	-	-	-
	大気	連続	-	5	-	-	-	3	-	-
			-	-	-	1	-	-	-	3
		1回/週	-	-	5	-	-	-	3	-
比較対照(青森市)	大気浮遊じん	1回/週	1	-	-	-	-	-	-	-
	大気	連続	-	1	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	1	-	-	-	-
		1回/週	-	-	1	-	-	-	-	-

- ・モニタリングステーション  
空間放射線量率測定器、ダストモニタ等の連続モニタ及び積算線量計を備えた野外測定設備
- ・モニタリングポスト  
空間放射線量率測定器及び積算線量計を備えた野外測定設備
- ・モニタリングポイント  
積算線量計を備えた野外測定設備

表1-2(2) 環境試料中の放射能及びフッ素(機器分析等)

試料の種類	青森県											事業者														
	地	検体数										地	検体数													
		γ線放出核種	トリチウム	炭素-14	ストロンチウム-90	ヨウ素-129	プルトニウム-241	プルトニウム-244	アメリシウム-241	アメリシウム-244	キュリウム-244		ウラン	フッ素	γ線放出核種	トリチウム	炭素-14	ストロンチウム-90	ヨウ素-129	プルトニウム-241	プルトニウム-244	アメリシウム-241	アメリシウム-244	キュリウム-244	ウラン	フッ素
陸上試料	大気浮遊じん	5	5	-	-	5	-	5	-	-	1	-	3	3	-	-	3	-	3	-	-	3	-	3	-	
	大気(水蒸気状)	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大気(粒子状・気体状)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
	雨	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	降下物	1	3	-	-	△	-	△	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	河川	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	2	△	△	△	-	△	-	△	-	△	-	△	-	△	
	湖沼	3	4	4	-	2	-	-	-	-	-	3	2	4	4	-	4	-	4	-	4	-	4	-	4	
	水道	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	4	4	4	-	4	-	4	-	4	-	-	-	-	
	井戸	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2	2	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	河底	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	△	△	-	-	△	-	△	-	-	-	△	-	△	
	湖底	3	3	-	-	3	-	3	3	3	2	2	1	1	-	-	1	-	1	1	1	1	1	1	1	
	表土	△	△	-	-	△	△	△	△	△	△	-	△	△	-	-	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	牛乳(原乳)	4	4	-	-	4	-	-	-	-	2	2	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	△	-	△	
	精米	3	3	-	3	3	-	3	-	-	2	1	3	3	-	3	3	-	3	-	-	-	2	-	2	
野菜	ハクサイ、キャベツ	2	2	-	2	2	-	2	-	-	1	-	1	1	-	1	1	-	1	-	1	-	1	-	1	
	ダイコン	1	1	-	1	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ナガイモ、ハレイショ	1	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	1	-	1	-	1	-	1	
牧草	△	△	-	-	△	-	△	-	-	△	△	△	△	△	-	△	-	△	-	△	-	△	-	△	△	
デントコーン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	
淡水産食品	ワカサギ	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	
	シジミ	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
指標生物	松葉	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
海洋試料	海	3	3	3	-	3	-	3	-	-	-	-	3	3	3	-	3	-	3	-	3	-	-	-	-	
	海底	3	3	-	-	3	-	3	3	3	-	-	1	1	-	-	1	-	1	1	1	1	-	-	-	
	海産食品	ヒラメ、カレイ	1	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	△	△	△	-	△	-	△	-	△	-	-	-	-
		イカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	-	-	△	-	△	-	-	-	-	-	-
		ホタテ、アワビ	△	△	-	-	△	-	△	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
		ヒラツメガニ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	-	-	△	-	△	-	-	-	-	-	-
		ウニ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	-	-	△	-	△	-	-	-	-	-	-
	コンブ	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	△	△	-	-	△	-	△	-	△	-	-	-	-	
指標生物	チガイソ	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ムラサキインコガイ	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
比較対照(青森市)	大気浮遊じん	1	1	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大気(水蒸気状)	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	大気(粒子状・気体状)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	表土	△	△	-	-	△	△	△	△	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	精米	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
指標生物	松葉	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計	51	47	24	8	36	△	28	6	6	12	14	30	27	22	5	27	△	23	2	2	13	12				
		181										133														

・プルトニウムはプルトニウム-239+240である。  
 ・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計である。

## 2 調査結果

平成28年度第3四半期(平成28年10月～12月)における環境放射線等の調査結果は、これまでと同じ水準<sup>※1</sup>であった。

原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

### (1) 空間放射線

モニタリングステーション、モニタリングポスト及びモニタリングカーによる空間放射線量率測定並びにRPLD(蛍光ガラス線量計)による積算線量測定を実施した。

#### ① 空間放射線量率(NaI)

##### (a) モニタリングステーション(図2-1)及びモニタリングポスト(図2-2)

各測定局における今四半期の平均値は21～33 nGy/h、最大値は47～93 nGy/h、最小値は15～30 nGy/hであり、月平均値は21～34 nGy/hであった。

平常の変動幅<sup>※2</sup>を上回った測定値は、すべて降雨等<sup>※3</sup>によるものと考えられる。このうち、砂子又局において過去の測定値<sup>※4</sup>の範囲を上回った測定値があったが、降雨雪とともに落下した天然放射性核種の影響と考えられる。

##### (b) モニタリングカー(図2-3)

定点測定における測定値は13～21 nGy/h、走行測定における測定値は13～24 nGy/hであり、過去の測定値<sup>※4</sup>の範囲内であった。

#### ② RPLDによる積算線量(図2-4)

測定値は84～112  $\mu$ Gy/91日であり、すべて平常の変動幅の範囲内であった。

---

※1:「概ねこれまでと同じ水準」

・「これまでと同じ水準」は、測定結果について、平常の変動幅の範囲内である場合及び範囲を外れた要因が、降雨、降雪等の気象要因、医療・産業に用いる放射性同位元素の影響等と判断される場合を示す。

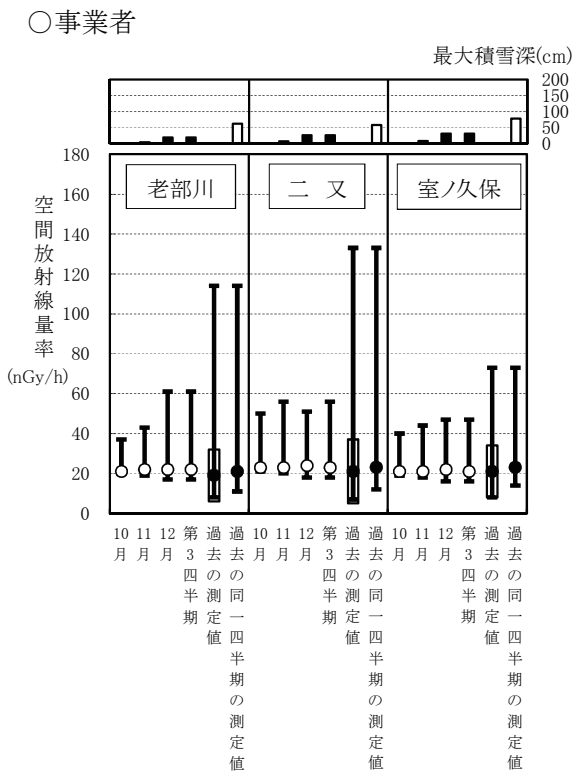
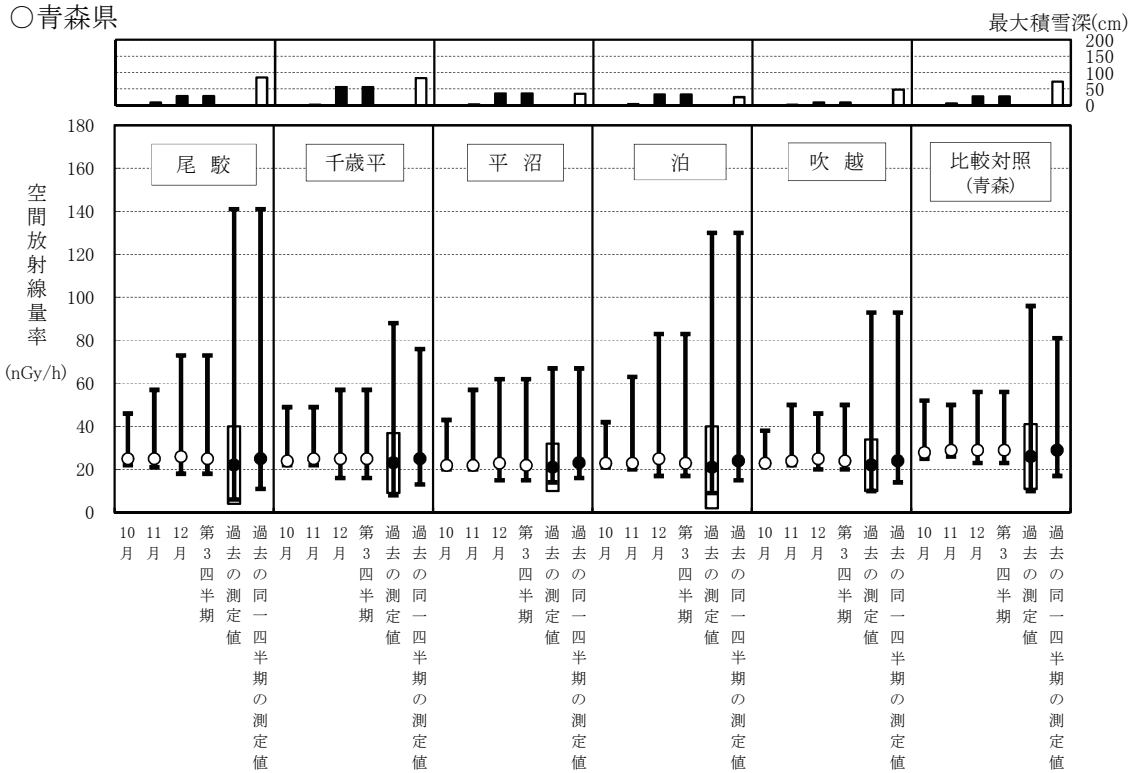
・「概ねこれまでと同じ水準」は、県内外の原子力施設からの影響により、一部の測定値が平常の変動幅を上回ったが、全体的にはこれまでと同じ水準(住民等の線量が法令に定める周辺監視区域外の線量限度(年間1ミリシーベルト)を十分に下回るような水準にあること)と判断される場合を示す。

※2:「平常の変動幅」は、空間放射線量率(モニタリングステーション及びモニタリングポスト)については「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」、RPLDによる積算線量については「過去の測定値」の「最小値～最大値」。

※3:「降雨等」とは、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などである。空間放射線量率は、降雨雪時に雨や雪に取り込まれて地表面に落下したラドンの壊変生成物の影響により上昇し、積雪により大地からの放射線が遮へいされることにより低下する。また、医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響により測定値が上昇することがある。

※4:「過去の測定値」は空間放射線については前年度までの5年間(平成23～27年度)の測定値。

図2-1 モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果



凡例

測定値は1時間値。

過去の測定値  
平成23～27年度の測定値。

平常の変動幅  
平成23～27年度の測定値の「平均値±標準偏差の3倍」。

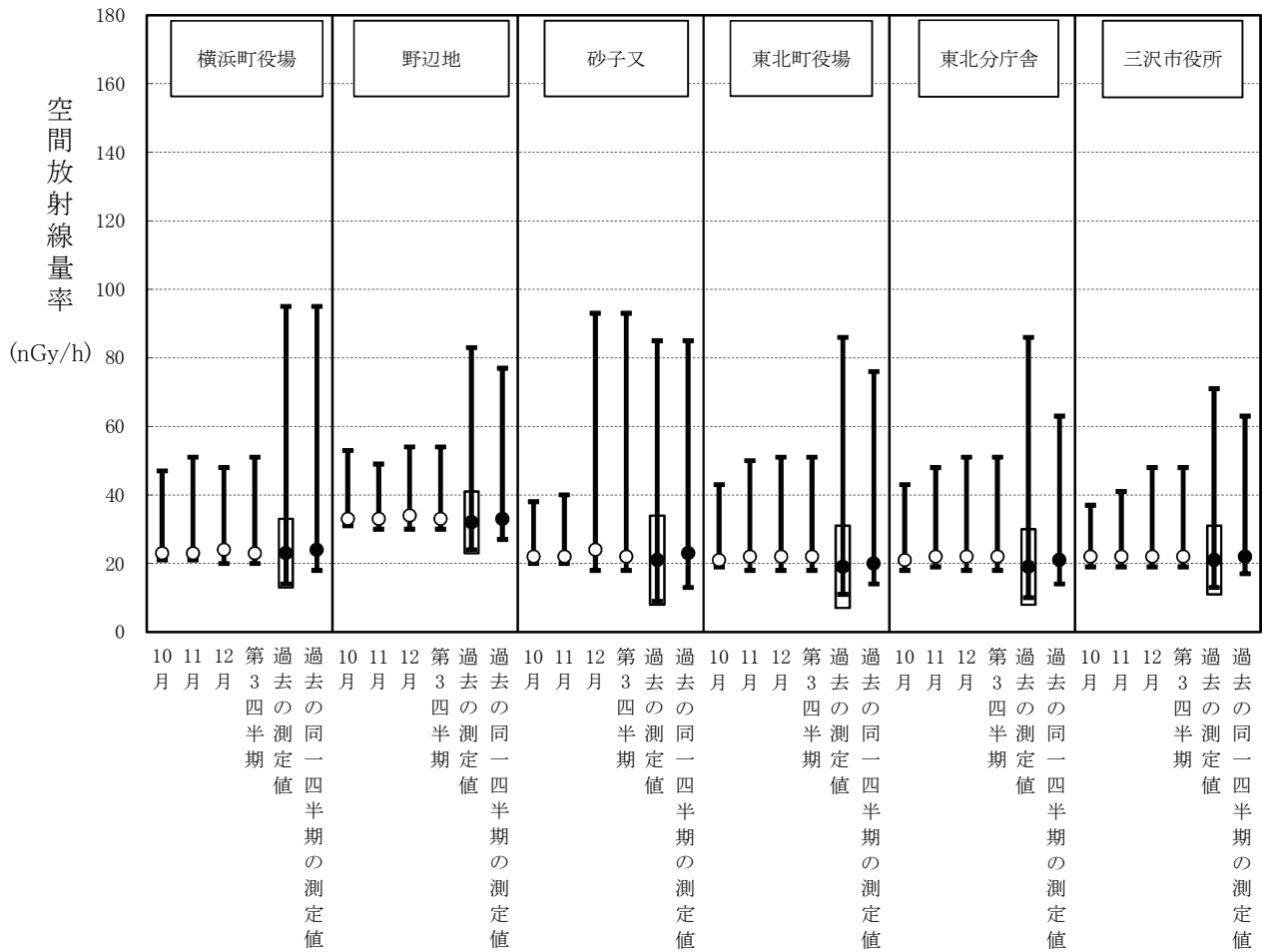
過去の同一四半期の測定値  
平成23～27年度の測定値のうち、同一四半期の測定値。

ただし、平沼局及び泊局については平成27年度の測定値。

過去の変動幅の最大値とその測定年月

青森県			事業者		
測定局	最大値 (nGy/h)	測定年月	測定局	最大値 (nGy/h)	測定年月
尾駁	141	平成27年12月	老部川	114	平成27年12月
千歳平	88	平成25年8月	二又	133	平成27年12月
平沼	67	平成27年12月	室ノ久保	73	平成27年12月
泊	130	平成27年12月	いずれも降雨等によるものと考えられる。		
吹越	93	平成27年12月			
比較対照(青森)	96	平成25年2月			

図2-2 モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果



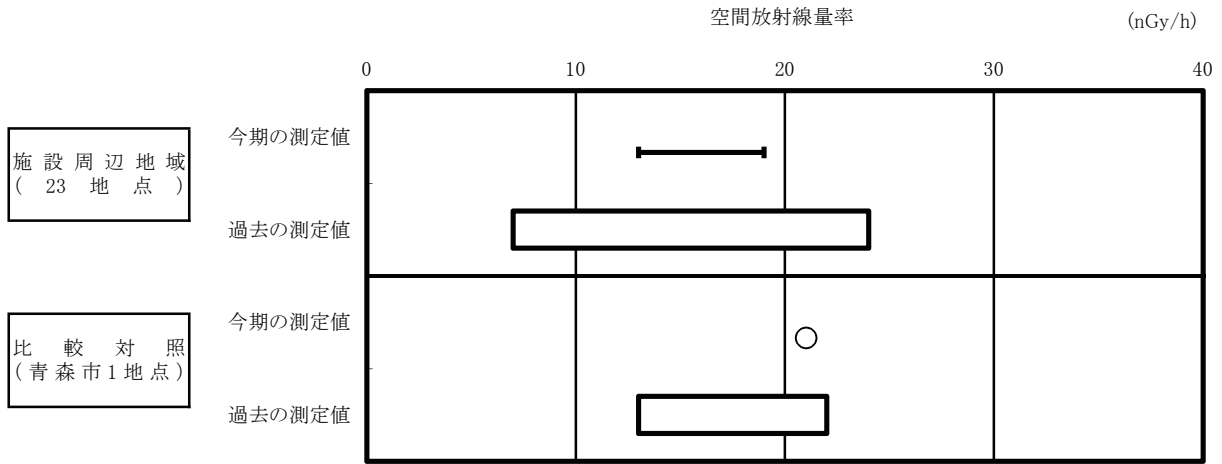
凡例	過去の測定値の最大値とその測定年月	
	測定局	測定年月
<p>測定値は1時間値。</p> <p>過去の測定値 平成23～27年度の測定値。</p> <p>平常の変動幅 平成23～27年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。</p> <p>過去の同一四半期の測定値 平成23～27年度の測定値のうち、同一四半期の測定値。</p> <p>ただし、野辺地局及び三沢市役所局についてはそれぞれ平成24～27年度の測定値。</p>	横浜町役場	平成27年12月
	野辺地	平成27年1月
	砂子又	平成24年12月
	東北町役場	平成25年2月
	東北分庁舎	平成25年8月
	三沢市役所	平成25年8月

いずれも降雨等によるものと考えられる。

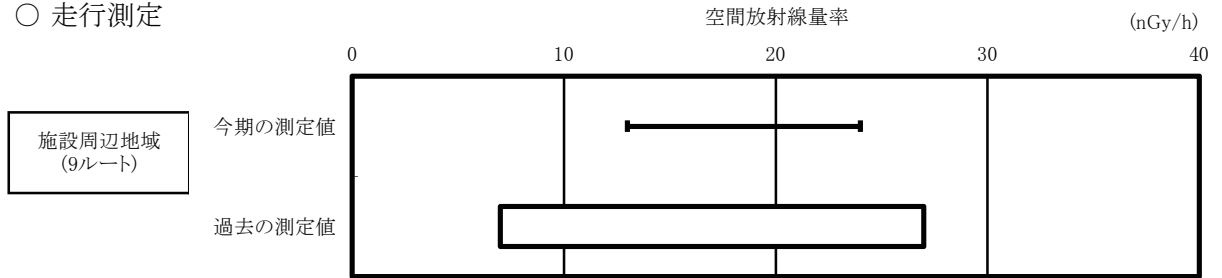


図2-3 モニタリングカーによる空間放射線量率測定結果

○ 定点測定



○ 走行測定

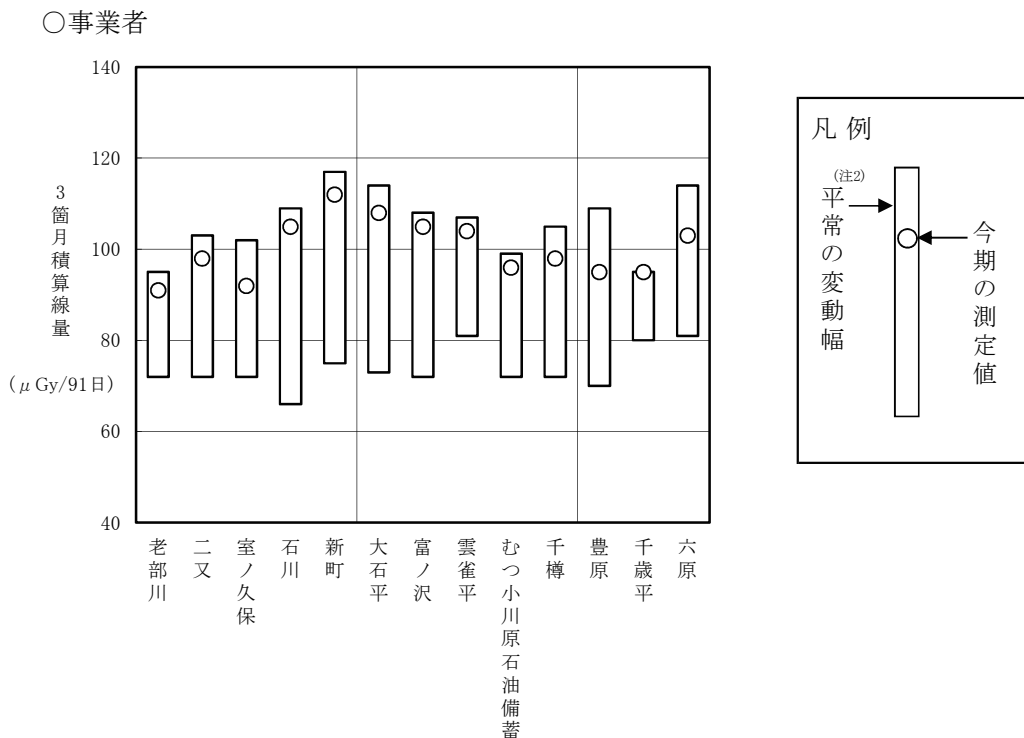
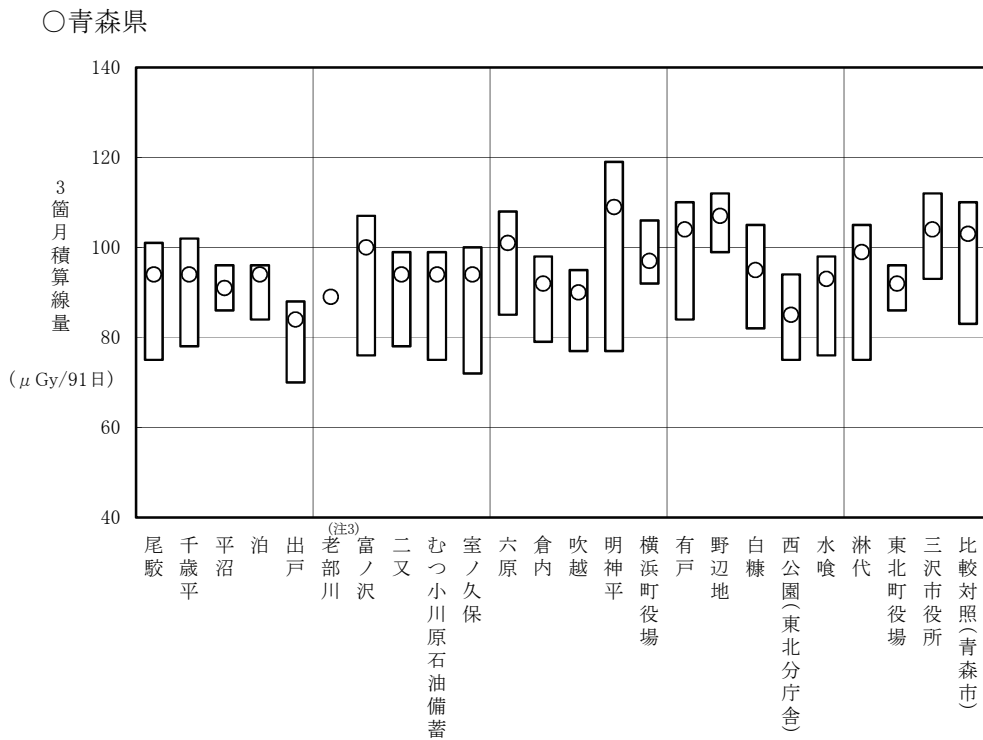


凡例		最小値	最大値
今期の測定値	→	┌───┐	└───┘
過去の測定値	→	┌───┐	└───┘
		○	

測定値  
 定点測定については10分値。  
 走行測定については500 m毎の平均値。

過去の測定値  
 平成23～27年度の測定値。

図2-4 RPLDによる積算線量測定結果<sup>(注1)</sup>



(注1) 測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。

(注2) 「平常の変動幅」は平成23～27年度の3箇月積算線量測定値の「最小値～最大値」。

ただし、平沼及び泊については平成27年度、野辺地については平成24～27年度、千歳平(事業者)については平成26年7月～平成28年3月の3箇月積算線量測定値の「最小値～最大値」。

(注3) 老部川については、平成28年度第2四半期の測定期間中に測定場所を移動した。平常の変動幅については平成28年度第3四半期から新たにデータの蓄積を行い、1年間以上のデータが蓄積された時点で平常の変動幅として用いる。

## (2) 環境試料中の放射能

大気浮遊じん中の全 $\alpha$  (アルファ)及び全 $\beta$  (ベータ)放射能測定、大気中の気体状 $\beta$ 放射能測定、大気中のヨウ素-131測定、機器分析及び放射化学分析を実施した。

### ① 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定<sup>※5</sup>(表2-1)

測定値は、全 $\alpha$ 放射能が $0.024 \sim 0.14 \text{ mBq/m}^3$ 、全 $\beta$ 放射能が $0.28 \sim 1.3 \text{ mBq/m}^3$ であり、いずれも平常の変動幅<sup>※6</sup>の範囲内であった。

### ② 大気中の気体状 $\beta$ 放射能測定(表2-2)

測定値はすべてNDであり、平常の変動幅の範囲内であった。

### ③ 大気中のヨウ素-131測定(表2-3)

測定値はすべてNDであり、平常の変動幅の範囲内であった。

### ④ 機器分析及び放射化学分析

$\gamma$  (ガンマ)線放出核種については、ゲルマニウム半導体検出器による機器分析を、トリチウム、炭素-14、ストロンチウム-90、プルトニウム、アメリシウム-241、キュリウム-244及びウランについては、放射化学分析を実施した。ヨウ素-129については、今期の分析対象外である。

#### ○ $\gamma$ 線放出核種分析(表2-4)

セシウム-137の測定値は、湖底土が $4 \sim 9 \text{ Bq/kg}$ 乾、その他はすべてNDであり、平常の変動幅の範囲内であった。

その他の人工放射性核種については、すべてNDであった。

#### ○ トリチウム分析(表2-5)

測定値はすべてNDであり、平常の変動幅の範囲内であった。

#### ○ 炭素-14分析(表2-6)

精米の放射能濃度<sup>※7</sup>が $86 \sim 89 \text{ Bq/kg}$ 生、比放射能<sup>※7</sup>が $0.23 \sim 0.24 \text{ Bq/g}$ 炭素であり、ハクサイ・キャベツの放射能濃度が $5 \sim \#10 \text{ Bq/kg}$ 生、比放射能が $0.23 \sim 0.24 \text{ Bq/g}$ 炭素、ダイコンの放射能濃度が $\#6 \text{ Bq/kg}$ 生、比放射能が $0.23 \text{ Bq/g}$ 炭素、ナガイモの放射能濃度が $16, 17 \text{ Bq/kg}$ 生、比放射能が $0.23 \text{ Bq/g}$ 炭素であった。このうち、キャベツ(横浜町)の放射能濃度は $\#10 \text{ Bq/kg}$ 生、ダイコン(出戸)の

※5:168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。

※6:「平常の変動幅」は、環境試料中の放射能については、調査を開始した年度から前年度までの測定値の「最小値～最大値」。

※7:炭素-14の比放射能は、試料中の炭素1gに含まれる炭素-14の放射能量(Bq)であり、施設からの影響を評価する指標となる。放射能濃度(Bq/kg生)は、比放射能(Bq/g炭素)に試料中の炭素量(g炭素/kg生)を乗じて求められるため、比放射能が等しい場合でも、試料中の炭素量(g炭素/kg生)によって変動する。なお、試料中の炭素量(新鮮重量当たりの炭素量)は、水分含有量によって変動することがある。

放射能濃度は#6 Bq/kg生であり、平常の変動幅を上回ったが、比放射能は平常の変動幅の範囲内であった。これらは、これまでより試料中の水分含有量が少なく、炭素量の割合が多かったためと考えられる。

○ スロンチウム-90 分析(表 2-7)

井戸水がND ~ 3.8 mBq/l、ハクサイ・キャベツがND ~ 0.15 Bq/kg 生、ダイコンが0.16 Bq/kg 生、ナガイモがND、0.04 Bq/kg 生、チガインが0.05 Bq/kg 生、その他はすべて ND であり、平常の変動幅の範囲内であった。

○ プルトニウム分析(表 2-9)

湖底土が0.23 ~ 0.90 Bq/kg 乾、海底土が0.25 ~ 0.54 Bq/kg 乾、アワビが0.002 Bq/kg 生、コンブが0.003 Bq/kg 生、その他はすべて ND であり、平常の変動幅の範囲内であった。

○ アメリカシウム-241 分析(表 2-10)

湖底土が0.13 ~ 0.33 Bq/kg 乾、海底土が0.10 ~ 0.21 Bq/kg 乾であり、平常の変動幅の範囲内であった。

○ キュリウム-244 分析(表 2-11)

測定値は、これまでと同様にすべて ND であった。

○ ウラン分析(表 2-12)

湖沼水が47 ~ 64 mBq/l、湖底土が73 ~ 120 Bq/kg乾、ワカサギが0.03 Bq/kg生、松葉が0.02、0.03 Bq/kg生、その他はすべて ND であり、平常の変動幅の範囲内であった。

表2-1 大気浮遊じん中の全α及び全β放射能測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

実施者	測定局	測定値		平常の変動幅	
		全α	全β	全α	全β
青森県	尾駸	0.036 ~ 0.094	0.57 ~ 1.2	* ~ 0.24	* ~ 1.7
	千歳平	0.043 ~ 0.077	0.58 ~ 1.1	* ~ 0.21	* ~ 1.6
	平沼	0.040 ~ 0.11	0.59 ~ 1.1	* ~ 0.23	* ~ 1.7
	泊	0.026 ~ 0.089	0.52 ~ 1.2	* ~ 0.19	* ~ 1.5
	吹越	0.024 ~ 0.083	0.59 ~ 1.3	* ~ 0.28	* ~ 1.4
	比較対照(青森)	0.038 ~ 0.10	0.60 ~ 1.2	* ~ 0.22	* ~ 1.6
事業者	老部川	0.036 ~ 0.084	0.34 ~ 0.78	* ~ 0.22	* ~ 1.1
	二又	0.041 ~ 0.14	0.28 ~ 0.71	* ~ 0.37	* ~ 1.3
	室ノ久保	0.029 ~ 0.079	0.41 ~ 0.90	* ~ 0.21	* ~ 1.3

- ・168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。
- ・「平常の変動幅」は尾駸局及び二又局については平成元～27年度、それ以外は平成2～27年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる測定値は平常の変動幅の設定に用いていない(平成23年度報付16参照)。

表2-2 大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

実施者	測定局	定量下限値	測定値	平常の変動幅	(参考)	
					定量下限値以上となった時間数 (うち、平常の変動幅を上回った時間数)	アクティブ試験開始前の測定値の範囲
青森県	尾駸	2	ND	ND ~ 9	0(0)	ND
	千歳平		ND	ND ~ 4	0(0)	ND
	平沼		ND	ND	0(0)	ND
	泊		ND	ND ~ 2	0(0)	ND
	吹越		ND	ND ~ 11	0(0)	ND
	比較対照(青森)		ND	ND	0(0)	ND
事業者	老部川	2	ND	ND ~ 3	0(0)	ND
	二又		ND	ND ~ 8	0(0)	ND
	室ノ久保		ND	ND ~ 6	0(0)	ND

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・「平常の変動幅」は平成6～27年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は平成6～17年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2-3 大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

実施者	測定局	定量下限値	測定値	平常の変動幅
青森県	尾駸	0.2	ND	ND
	千歳平		ND	ND
	平沼		ND	ND
	泊		ND	ND
	吹越		ND	ND
	比較対照(青森)		ND	ND
事業者	老部川	0.2	ND	ND
	二又		ND	ND
	室ノ久保		ND	ND

- ・「平常の変動幅」の期間は、青森県実施分については平成17～27年度の測定値の「最小値～最大値」。事業者実施分については平成10～27年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる測定値は平常の変動幅の設定に用いていない(平成22年度報付10及び平成23年度報付16参照)。

表2-4 γ線放出核種分析結果

試料の種類		単位	定量 下限値	セシウム - 137				平常の変動幅	
				青 森 県		事 業 者			
				検体数	測 定 値	検体数	測 定 値		
陸  上  試  料	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	0.02	5	ND	3	ND	ND	
	降下物(月間)	Bq/m <sup>2</sup>	0.2	3	ND	-	-	ND ~ 0.7	
	河川水	mBq/l	6	2	ND	△	△	ND	
	湖沼水			4	ND	4	ND	ND	
	水道水			1	ND	4	ND	ND	
	井戸水			1	ND	2	ND	ND	
	河底土	Bq/kg 乾	3	2	ND	△	△	ND ~ 12	
	湖底土			4	3	4~9	1	4	ND ~ 55
	表土			3	△	△	△	△	ND ~ 36
	牛乳(原乳)	Bq/l	0.4	4	ND	2	ND	ND	
	精米	Bq/kg 生	0.4	3	ND	3	ND	ND ~ 1.0	
	野 菜			ハクサイ、キャベツ	2	ND	1	ND	ND
				ダイコン	1	ND	-	-	ND
				ナガイモ、パレイヨ	1	ND	1	ND	ND
	牧草			△	△	△	△	ND ~ 1.1	
	デントコーン			-	-	△	△	ND	
	食 水 産 品			ワカサギ	1	ND	1	ND	ND
				シジミ	1	ND	-	-	ND
指標生物				1	ND	-	-	ND	
海  洋  試  料	海水			mBq/l	6	3	ND	3	ND
	海底土	Bq/kg 乾	3	3	ND	1	ND	ND	
	海 産 食 品	ヒラメ	Bq/kg 生	0.4	1	ND	△	△	ND
		イカ			-	-	△	△	ND
		ホタテ、アワビ			△	△	1	ND	ND
		ヒラツメガニ			-	-	△	△	ND
		ウニ			-	-	△	△	ND
		コンブ			1	ND	△	△	ND
指 標 生 物	チガイソ	1	ND	-	-	ND			
	ムラサキイコガイ	1	ND	-	-	ND			
比 較 対 照  (青 森 市)	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	0.02	1	ND	-	-	ND	
	表土	Bq/kg 乾	3	△	△	-	-	ND ~ 7	
	指標生物	Bq/kg 生	0.4	1	ND	-	-	ND	
計		-	-	47	-	27	-	-	

・測定対象核種はマンガン-54、コバルト-60、ルテニウム-106、セシウム-134、セシウム-137、セリウム-144、ベリリウム-7、カリウム-40、ビスマス-214、アクチニウム-228。

・「平常の変動幅」は平成元~27年度の測定値の「最小値~最大値」。ただし、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる測定値については平常の変動幅の設定に用いていない(平成22年度報付10、平成23年度報付16、平成24年度報付10、平成25年度報付7、平成26年度報付5及び平成27年度報付8参照)。

表2-5 トリチウム分析結果

試料の種類		単位	定 量 下 限 値	青 森 県		事 業 者		平 常 の 変 動 幅	参 考
				検体数	測定値	検体数	測定値		アクティブ 試験開始前の 測定値の範囲
陸上試料	大気(水蒸気状)	mBq/m <sup>3</sup>	40	6	ND	9	ND	ND	ND
	雨 水	Bq/l	2	3	ND	-	-	ND	ND
	河 川 水			2	ND	△	△	ND ~ 2	ND ~ 2
	湖 沼 水			4	ND	4	ND	ND ~ 3	ND
	水 道 水			1	ND	4	ND	ND ~ 3	ND ~ 3
	井 戸 水			1	ND	2	ND	ND ~ 3	ND ~ 3
海洋試料	海 水	Bq/l	2	3	ND	3	ND	ND	ND
	海産 食品	ヒラメ (自由水) Bq/kg 生	2	1	ND	△	△	ND ~ 3	ND
比較対照 (青森市)	大気(水蒸気状)	mBq/m <sup>3</sup>	40	3	ND	-	-	ND	ND
計		-	-	24	-	22	-	-	-

- ・「平常の変動幅」は平成元～27年度の測定値の「最小値～最大値」。ヒラメ(自由水)については平成10～27年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は平成元～17年度の測定値の「最小値～最大値」。ヒラメ(自由水)については平成10～17年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2-6 炭素-14分析結果

試料の種類		単位	定 量 下 限 値	青 森 県		事 業 者		平 常 の 変 動 幅	参 考	
				検体数	測定値	検体数	測定値		アクティブ 試験開始前の 測定値の範囲	
陸上試料	精 米	Bq/kg 生	2	3	86～89	3	86～89	85 ~ 110	87 ~ 110	
		Bq/g 炭素	0.004		0.23～ 0.24		0.23～ 0.24	0.23 ~ 0.26	0.23 ~ 0.26	
	野 菜	ハクサイ、 キャベツ	Bq/kg 生	2	2	6, #10	1	5	3 ~ 7	3 ~ 7
			Bq/g 炭素	0.004		0.23, 0.24		0.23	0.23 ~ 0.27	0.24 ~ 0.25
		ダイコン	Bq/kg 生	2	1	#6	-	-	4 ~ 5	4
			Bq/g 炭素	0.004		0.23		-	0.23 ~ 0.24	0.24
	ナガイモ、 パレイシヨ	Bq/kg 生	2	1	17	1	16	14 ~ 21	16 ~ 18	
		Bq/g 炭素	0.004		0.23		0.23	0.23 ~ 0.26	0.24 ~ 0.25	
比較対照 (青森市)	精 米	Bq/kg 生	2	1	87	-	-	87 ~ 97	88 ~ 97	
		Bq/g 炭素	0.004		0.23		-	0.23 ~ 0.26	0.24 ~ 0.26	
計		-	-	8	-	5	-	-	-	

- ・「平常の変動幅」は精米については平成7～27年度の測定値の「最小値～最大値」。野菜については平成17～27年度の測定値の「最小値～最大値」。
- ・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は精米については平成7～17年度の測定値の「最小値～最大値」。野菜については平成17年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2-7 ストロンチウム-90 分析結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅	
			検体数	測定値	検体数	測定値		
陸  上	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	0.004	5	ND	3	ND	ND
	降下物(年間)	Bq/m <sup>2</sup>	0.08	△	△	-	-	0.10 ~ 0.26
	河川水	mBq/l	0.4	-	-	△	△	0.4 ~ 2.5
	湖沼水		2	2	ND	4	ND	ND ~ 3
	水道水	0.4	0.4	1	ND	4	ND	ND ~ 1.5
	井戸水			1	ND	2	ND, 3.8	ND ~ 28
	河底土	Bq/kg 乾	0.4	-	-	△	△	ND ~ 0.6
	湖底土			3	ND	1	ND	ND ~ 6.2
	表土			△	△	△	△	ND ~ 9.1
	牛乳(原乳)	Bq/l	0.04	4	ND	2	ND	ND ~ 0.08
精米	Bq/kg 生	0.04	3	ND	3	ND	ND	
野菜			ハクサイ、キャベツ	2	0.05, 0.15	1	ND	ND ~ 0.87
			ダイコン	1	0.16	-	-	0.09 ~ 0.81
菜			ナガレ、パセリ	1	0.04	1	ND	ND ~ 0.24
			牧草	△	△	△	△	ND ~ 2.5
デントコーン			-	-	△	△	0.06 ~ 0.72	
食淡水産品			ワカサギ	1	ND	1	ND	ND ~ 0.08
			シジミ	1	ND	-	-	ND ~ 0.08
海  洋  試 料	海水	mBq/l	2	3	ND	3	ND	ND ~ 3
	海底土	Bq/kg 乾	0.4	3	ND	1	ND	ND ~ 0.5
	海産物	Bq/kg 生	0.04	1	ND	△	△	ND
				-	-	△	△	ND
				△	△	1	ND	ND
	食品	ヒラメ	-	-	△	△	ND ~ 0.28	
		ウニ	-	-	△	△	ND	
		コンブ	1	ND	△	△	ND ~ 0.14	
指標生物	チガイソ	1	0.05	-	-	ND ~ 0.09		
	ムラサキイソガイ	1	ND	-	-	ND		
比較対照 (青森市)	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	0.004	1	ND	-	-	ND
	表土	Bq/kg 乾	0.4	△	△	-	-	0.4 ~ 2.3
計		-	-	36	-	27	-	-

・「平常の変動幅」は平成元~27年度の測定値の「最小値~最大値」。ただし、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる測定値については平常の変動幅の設定に用いていない(平成23年度報付16参照)。



表2-8 ヨウ素-129 分析結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅	
			検体数	測定値	検体数	測定値		
陸上試料	表 土	Bq/kg 乾	5	△	△	△	△	ND
比較対照 (青森市)	表 土			△	△	-	-	ND
計		-	-	△	-	△	-	-

・「平常の変動幅」は、平成10～27年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2-9 プルトニウム分析結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅		
			検体数	測定値	検体数	測定値			
陸  上  試  料	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	0.0002	5	ND	3	ND	ND	
	降下物(年間)	Bq/m <sup>2</sup>	0.004	△	△	-	-	ND ~ 0.029	
	河川水	mBq/l	0.02	-	-	△	△	ND	
	湖沼水			-	-	4	ND	ND	
	水道水			-	-	4	ND	ND	
	河底土	Bq/kg 乾	0.04	-	-	△	△	ND ~ 0.07	
	湖底土			3	0.23~0.82	1	0.90	0.23 ~ 8.0	
	表土			△	△	△	△	ND ~ 0.79	
	精米	Bq/kg 生	0.002	3	ND	3	ND	ND	
	野菜			ハクサイ、キャベツ	2	ND	1	ND	ND
				ダイコン	1	ND	-	-	ND
	菜			ナガイモ、パインヨ	1	ND	1	ND	ND
				牧草	△	△	-	-	ND
	食料			ワカサギ	1	ND	1	ND	ND
		シジミ	1	ND	-	-	ND		
海  洋  試  料	海水	mBq/l	0.02	3	ND	3	ND	ND	
	海底土	Bq/kg 乾	0.04	3	0.29~0.54	1	0.25	0.11 ~ 0.90	
	海産物	ヒラメ	Bq/kg 生	0.002	1	ND	△	△	ND
		イカ			-	-	△	△	ND
	食品	ホタテ、アワビ			△	△	1	0.002	ND ~ 0.022
		ヒラツメガニ			-	-	△	△	ND
		ウニ			-	-	△	△	ND ~ 0.005
	指標生物	コンブ			1	0.003	△	△	ND ~ 0.007
		チガイソ			1	ND	-	-	ND ~ 0.017
	ムラサキイノガイ	1			ND	-	-	ND ~ 0.005	
比較対照 (青森市)	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>			0.0002	1	ND	-	-
	表土	Bq/kg 乾	0.04	△	△	-	-	ND ~ 0.21	
計		-	-	28	-	23	-	-	

・プルトニウムはプルトニウム-239+240。

・「平常の変動幅」は平成元～27年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2-10 アメリシウム-241 分析結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅	
			検体数	測定値	検体数	測定値		
陸上試料	湖底土	Bq/kg乾	0.04	3	0.13~0.33	1	0.33	0.12 ~ 1.1
	表土			△	△	△	△	ND ~ 0.25
海洋試料	海底土			3	0.10~0.21	1	0.10	ND ~ 0.34
比較対照 (青森市)	表土			△	△	-	-	0.04 ~ 0.10
計		-	-	6	-	2	-	-

・「平常の変動幅」は平成14~27年度の測定値の「最小値~最大値」。

表2-11 キュリウム-244 分析結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅	
			検体数	測定値	検体数	測定値		
陸上試料	湖底土	Bq/kg乾	0.04	3	ND	1	ND	ND
	表土			△	△	△	△	ND
海洋試料	海底土			3	ND	1	ND	ND
比較対照 (青森市)	表土			△	△	-	-	ND
計		-	-	6	-	2	-	-

・「平常の変動幅」は平成14~27年度の測定値の「最小値~最大値」。

表2-12 ウラン分析結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅	
			検体数	測定値	検体数	測定値		
陸	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	0.0004	1	ND	3	ND	ND ~ 0.0035
	降下物(年間)	Bq/m <sup>2</sup>	0.008	△	△	-	-	0.63 ~ 3.4
上	河川水	mBq/l	2	-	-	△	△	ND ~ 10
	湖沼水			-	-	4	47~64	5 ~ 78
	河底土	Bq/kg乾	0.8	-	-	△	△	2.7 ~ 29
	湖底土			2	73, 120	1	100	52 ~ 140
試料	表土	Bq/kg生	0.02	△	△	△	△	5.4 ~ 95
	牛乳(原乳)			Bq/l	0.02	2	ND	△
	精米	Bq/kg生	0.02	2	ND	2	ND	ND
				野	1	ND	1	ND
	菜	ダイコン	1	ND	-	-	ND	
		ナガレ、パレ、イヨ	-	-	1	ND	ND	
	牧草	△	△	△	△	ND ~ 0.60		
	淡水産食品	ワカサギ	-	-	1	0.03	0.03 ~ 0.10	
	指標生物	松葉	1	0.03	-	-	0.03 ~ 0.11	
	比較対照 (青森市)	大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	0.0004	1	ND	-	-
表土		Bq/kg乾	0.8	△	△	-	-	17 ~ 38
指標生物		松葉	Bq/kg生	0.02	1	0.02	-	-
計		-	-	12	-	13	-	-

・ウランはウラン-234、ウラン-235及びウラン-238の合計。

・「平常の変動幅」は平成元~27年度の測定値の「最小値~最大値」。

### (3) 環境試料中のフッ素

モニタリングステーションにおける大気中の気体状フッ素測定及び環境試料中のフッ素測定を実施した。

#### ① 大気中の気体状フッ素(表 2-13)

測定値は、これまでと同様にすべて ND であった。

#### ② 環境試料中のフッ素(表 2-14)

湖沼水が 0.4 ～ 0.6 mg/l、河底土が 55、98 mg/kg 乾、湖底土が 110 ～ 180 mg/kg 乾、ワカサギが 15 mg/kg 生、その他はすべて ND であり、平常の変動幅<sup>※8</sup>の範囲内であった。

---

※8:「平常の変動幅」は、環境試料中のフッ素については、調査を開始した年度から前年度までの測定値の「最小値～最大値」。

表2-13 大気中の気体状フッ素測定結果(HF モニタによる連続測定)

(単位:ppb)

実施者	測定局	定量 下限値	測定値	平常の変動幅
青森県	尾駸	0.04	ND	ND
	比較対照(青森)		ND	ND
事業者	老部川		ND	ND
	二又		ND	ND
	室ノ久保		ND	ND

・「平常の変動幅」は尾駸局及び二又局については平成元～27年度、それ以外は平成2～27年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2-14 環境試料中のフッ素測定結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青森県		事業者		平常の変動幅		
			検体数	測定値	検体数	測定値			
陸上試料	大気(粒子状・気体状)	μg/m <sup>3</sup>	0.03	1	ND	2	ND	ND	
	河川水	mg/l	0.1	2	ND	△	△	ND	
	湖沼水			3	0.4～0.6	4	0.5～0.6	ND～0.9	
	河底土	mg/kg乾	5	2	55, 98	△	△	33～150	
	湖底土			2	110, 180	1	180	10～200	
	表土			-	-	△	△	230～390	
	牛乳(原乳)	mg/l	0.1	2	ND	△	△	ND～0.1	
	精米	mg/kg生	0.1	1	ND	2	ND	ND～0.6	
	野菜			ハクサイ	-	-	1	ND	ND～0.4
				ナガイモ、パレイヨ	-	-	1	ND	ND～0.1
	牧草			△	△	△	△	ND～0.5	
	淡水産食品			ワカサギ	-	-	1	15	4.7～30
	比較対照(青森市)	大気(粒子状・気体状)	μg/m <sup>3</sup>	0.03	1	ND	-	-	ND
計		-	-	14	-	12	-	-	

・「平常の変動幅」は平成元～27年度の測定値の「最小値～最大値」。

# 資 料

核種等の記号及び名称

$^3\text{H}$ ,H-3	: トリチウム
$^7\text{Be}$ ,Be-7	: ベリリウム-7
$^{14}\text{C}$ ,C-14	: 炭素-14
$^{40}\text{K}$ ,K-40	: カリウム-40
$^{51}\text{Cr}$ ,Cr-51	: クロム-51
$^{54}\text{Mn}$ ,Mn-54	: マンガン-54
$^{59}\text{Fe}$ ,Fe-59	: 鉄-59
$^{58}\text{Co}$ ,Co-58	: コバルト-58
$^{60}\text{Co}$ ,Co-60	: コバルト-60
$^{65}\text{Zn}$ ,Zn-65	: 亜鉛-65
$^{85}\text{Kr}$ ,Kr-85	: クリプトン-85
$^{90}\text{Sr}$ ,Sr-90	: スترونチウム-90
$^{95}\text{Zr}$ ,Zr-95	: ジルコニウム-95
$^{95}\text{Nb}$ ,Nb-95	: ニオブ-95
$^{103}\text{Ru}$ ,Ru-103	: ルテニウム-103
$^{106}\text{Ru}$ ,Ru-106	: ルテニウム-106
$^{125}\text{Sb}$ ,Sb-125	: アンチモン-125
$^{129}\text{I}$ ,I-129	: ヨウ素-129
$^{131}\text{I}$ ,I-131	: ヨウ素-131
$^{134}\text{Cs}$ ,Cs-134	: セシウム-134
$^{137}\text{Cs}$ ,Cs-137	: セシウム-137
$^{140}\text{Ba}$ ,Ba-140	: バリウム-140
$^{140}\text{La}$ ,La-140	: ランタン-140
$^{144}\text{Ce}$ ,Ce-144	: セリウム-144
$^{154}\text{Eu}$ ,Eu-154	: ユロピウム-154
$^{214}\text{Bi}$ ,Bi-214	: ビスマス-214
$^{228}\text{Ac}$ ,Ac-228	: アクチニウム-228
U	: ウラン
$^{234}\text{U}$ ,U-234	: ウラン-234
$^{235}\text{U}$ ,U-235	: ウラン-235
$^{238}\text{U}$ ,U-238	: ウラン-238
$^{239+240}\text{Pu}$ ,Pu-239+240	: プルトニウム-239+240
$^{241}\text{Pu}$ ,Pu-241	: プルトニウム-241
$^{241}\text{Am}$ ,Am-241	: アメリシウム-241
$^{244}\text{Cm}$ ,Cm-244	: キュリウム-244
Pu( $\alpha$ )	: アルファ線を放出するプルトニウム
Am( $\alpha$ )	: アルファ線を放出するアメリシウム
Cm( $\alpha$ )	: アルファ線を放出するキュリウム
F	: フッ素

## 1. 青森県実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
尾 駁	10月	25	46	22	2.9	4	0	4	4~40 (22±18)	6~141	11~141 (25)	
	11月	25	57	21	4.8	19	0	19				
	12月	26	73	18	7.7	37	0	37				
	第3四半期	25	73	18	5.5	60	0	60				
千歳平	10月	24	49	22	2.7	7	0	7	9~37 (23±14)	8~88	13~76 (25)	
	11月	25	49	22	3.5	15	0	15				
	12月	25	57	16	6.6	41	0	41				
	第3四半期	25	57	16	4.6	63	0	63				
平 沼	10月	22	43	20	2.8	13	0	13	10~32 (21±11)	14~67	16~67 (23)	
	11月	22	57	20	4.0	24	0	24				
	12月	23	62	15	6.9	66	0	66				
	第3四半期	22	62	15	4.9	103	0	103				
泊	10月	23	42	21	3.2	3	0	3	2~40 (21±19)	9~130	15~130 (24)	
	11月	23	63	20	4.1	6	0	6				
	12月	25	83	17	7.7	35	0	35				
	第3四半期	23	83	17	5.5	44	0	44				
吹 越	10月	23	38	22	2.2	4	0	4	10~34 (22±12)	10~93	14~93 (24)	
	11月	24	50	22	3.3	21	0	21				
	12月	25	46	20	4.8	55	0	55				
	第3四半期	24	50	20	3.6	80	0	80				
比較 対照 (青森)	10月	28	52	25	2.4	2	0	2	11~41 (26±15)	10~96	17~81 (29)	
	11月	29	50	26	3.2	11	0	11				
	12月	29	56	23	5.0	27	0	27				
	第3四半期	29	56	23	3.7	40	0	40				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成23~27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ただし、平沼局及び泊局については平成27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。



(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
尾 駁	10月	62	80	59	2.7	
	11月	62	90	57	4.3	
	12月	63	105	56	6.8	
	第3四半期	62	105	56	4.9	
千 歳 平	10月	68	90	64	2.6	
	11月	68	89	64	3.2	
	12月	68	98	60	6.0	
	第3四半期	68	98	60	4.2	
平 沼	10月	63	83	60	2.6	
	11月	63	96	60	3.7	
	12月	64	99	57	6.2	
	第3四半期	63	99	57	4.5	
泊	10月	61	78	57	3.0	
	11月	61	96	57	3.8	
	12月	63	116	55	7.0	
	第3四半期	62	116	55	5.1	
吹 越	10月	62	75	59	2.1	
	11月	62	86	59	3.0	
	12月	64	82	58	4.4	
	第3四半期	63	86	58	3.4	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

②モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
横浜町役場	10月	23	47	21	2.7	12	0	12	13~33 (23±10)	14~95	18~95 (24)	
	11月	23	51	21	3.0	14	0	14				
	12月	24	48	20	4.9	56	0	56				
	第3四半期	23	51	20	3.7	82	0	82				
野辺地	10月	33	53	31	2.1	7	0	7	23~41 (32±9)	24~83	27~77 (33)	
	11月	33	49	30	2.1	9	0	9				
	12月	34	54	30	4.1	62	0	62				
	第3四半期	33	54	30	3.0	78	0	78				
砂子又	10月	22	38	20	2.2	5	0	5	8~34 (21±13)	9~85	13~85 (23)	
	11月	22	40	20	2.6	6	0	6				
	12月	24	93	18	8.3	59	0	59				
	第3四半期	22	93	18	5.3	70	0	70				
東北町役場	10月	21	43	19	3.0	17	0	17	7~31 (19±12)	11~86	14~76 (20)	
	11月	22	50	18	3.6	22	0	22				
	12月	22	51	18	4.8	52	0	52				
	第3四半期	22	51	18	3.9	91	0	91				
東北分庁舎	10月	21	43	18	2.9	23	0	23	8~30 (19±11)	10~86	14~63 (21)	
	11月	22	48	19	3.2	18	0	18				
	12月	22	51	18	5.0	55	0	55				
	第3四半期	22	51	18	3.8	96	0	96				
三沢市役所	10月	22	37	19	2.6	17	0	17	11~31 (21±10)	13~71	17~63 (22)	
	11月	22	41	19	2.8	18	0	18				
	12月	22	48	19	3.6	28	0	28				
	第3四半期	22	48	19	3.1	63	0	63				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成23~27年度の測定値の「最小値~最大値」。  
ただし、野辺地局及び三沢市役所局については平成24~27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

③モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果

ア 定点測定

測定地点		測定年月日	測定値 (nGy/h)	積雪深 (cm)	備考
六ヶ所村	石川	H28.10.17	17	0	
	出戸	〃	15	0	
	老部川	H28.12.12	13	11	
	尾駸	H28.12.20	17	0	
	沖付	H28.12.12	14	7	
	新納屋	H28.12.20	13	4	
	新栄	〃	17	0	
	市柳沼東畔	H28.11.24	17	0	
	八森	H28.12.12	15	20	
	六原	〃	13	29	
	笹崎	〃	19	16	
	千歳平	〃	17	15	
	豊原	〃	15	13	
	千樽	〃	16	5	
	尾駸沼南畔	〃	19	14	
弥栄平	〃	19	12		
清掃センター	〃	16	5		
富ノ沢	〃	17	13		
横浜町	第一明神平	H28.11.30	19	3	
	第二明神平	〃	14	1	
	はまなす公園	H28.12.12	13	15	
野辺地町	上目ノ越	〃	16	6	
	北砂沼	H28.11.22	13	0	
青森市	比較対照 (青森市)	〃	21	0	

- ・測定値は10分値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

イ 走行測定

走行ルート	測定年月日	測定値の範囲 (nGy/h)	備考
ルートA(千歳～平沼)	H28.11.24	14 ～ 22	
ルートB(平沼～石川)	H28.10.17	13 ～ 21	
ルートC(猿子沢～新納屋)	H28.12.12	13 ～ 23	
ルートD(尾駸～中吹越)	H28.12.20	13 ～ 22	
ルートE(中吹越～目ノ越)	H28.11.30	14 ～ 19	
ルートF(目ノ越～室ノ久保)	〃	15 ～ 20	
ルートG(二又～上弥栄)	H28.12.12	16 ～ 19	
ルートH(森の踏切～沖付)	〃	16 ～ 24	
ルートI(弥栄平～千歳)	〃	13 ～ 17	

- ・測定値は500 m毎の平均値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

(2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3箇月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
六ヶ所村	尾 駁	H28. 9.28~H28.12.27 (90)	94	75 ~ 101	
	千 歳 平	〃	94	78 ~ 102	
	平 沼	〃	91	86 ~ 96	
	泊	〃	94	84 ~ 96	
	出 戸	〃	84	70 ~ 88	
	老 部 川	〃	89	- ※	
	富 ノ 沢	〃	100	76 ~ 107	
	二 又	〃	94	78 ~ 99	
	むつ小川原石油備蓄	〃	94	75 ~ 99	
	室 ノ 久 保	〃	94	72 ~ 100	
	六 原	〃	101	85 ~ 108	
倉 内	〃	92	79 ~ 98		
横 浜 町	吹 越	〃	90	77 ~ 95	
	明 神 平	〃	109	77 ~ 119	
	横 浜 町 役 場	〃	97	92 ~ 106	
野 辺 地 町	有 戸	〃	104	84 ~ 110	
	野 辺 地	〃	107	99 ~ 112	
東 通 村	白 糠	〃	95	82 ~ 105	
東 北 町	西 公 園 ( 東 北 分 庁 舎 )	〃	85	75 ~ 94	
	水 喰	〃	93	76 ~ 98	
	淋 代	〃	99	75 ~ 105	
	東 北 町 役 場	〃	92	86 ~ 96	
三 沢 市	三 沢 市 役 所	〃	104	93 ~ 112	
青 森 市	比較対照(青森市)	〃	103	83 ~ 110	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成23~27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。  
ただし、平沼及び泊については平成27年度、野辺地については平成24~27年度の3箇月積算線量測定値の「最小値~最大値」。
- ※:老部川については、平成28年度第2四半期の測定期間中に測定場所を移動した。平常の変動幅については平成28年度第3四半期から新たにデータの蓄積を行い、1年間以上のデータが蓄積された時点で平常の変動幅として用いる。

(3)大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	全 $\alpha$			全 $\beta$			備考
			平均	最大	最小	平均	最大	最小	
尾 駁	H28.10.3~H28.10.31	4	0.060	0.087	0.036	0.91	1.1	0.64	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.072	0.085	0.051	0.82	1.2	0.57	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.068	0.094	0.040	0.96	1.1	0.85	
	第3四半期	13	0.067	0.094	0.036	0.92	1.2	0.57	
千 歳 平	H28.10.3~H28.10.31	4	0.062	0.077	0.045	0.89	1.1	0.63	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.054	0.069	0.043	0.84	1.1	0.58	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.061	0.070	0.047	0.92	1.1	0.75	
	第3四半期	13	0.059	0.077	0.043	0.89	1.1	0.58	
平 沼	H28.10.3~H28.10.31	4	0.063	0.11	0.040	0.87	1.0	0.59	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.062	0.078	0.050	0.81	1.1	0.61	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.060	0.081	0.046	0.94	1.1	0.71	
	第3四半期	13	0.062	0.11	0.040	0.88	1.1	0.59	
泊	H28.10.3~H28.10.31	4	0.056	0.069	0.044	0.89	1.0	0.62	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.047	0.061	0.035	0.80	1.2	0.52	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.048	0.089	0.026	0.89	1.2	0.68	
	第3四半期	13	0.050	0.089	0.026	0.86	1.2	0.52	
吹 越	H28.10.3~H28.10.31	4	0.052	0.077	0.029	0.91	1.1	0.59	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.058	0.083	0.042	0.88	1.3	0.61	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.053	0.082	0.024	0.99	1.3	0.83	
	第3四半期	13	0.054	0.083	0.024	0.93	1.3	0.59	
比較対照 (青森市)	H28.10.3~H28.10.31	4	0.064	0.10	0.038	0.93	1.1	0.60	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.059	0.075	0.045	0.90	1.2	0.63	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.060	0.098	0.043	1.0	1.2	0.82	
	第3四半期	13	0.061	0.10	0.038	0.95	1.2	0.60	

- ・168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。
- ・平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、その時の検出限界値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

## (4) 大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定局	測定月	平均	最大	最小	平常の変動幅	(参考)		備考
						定量下限値以上となった時間数 〔うち、平常の変動幅を上回った時間数〕	アクティブ試験開始前の測定値の範囲	
尾 駁	10月	ND	ND	ND	ND~9	0 (0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0 (0)		
	12月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
千 歳 平	10月	ND	ND	ND	ND~4	0 (0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0 (0)		
	12月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
平 沼	10月	ND	ND	ND	ND	0 (0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0 (0)		
	12月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
泊	10月	ND	ND	ND	ND~2	0 (0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0 (0)		
	12月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
吹 越	10月	ND	ND	ND	ND~11	0 (0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0 (0)		
	12月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0 (0)		
比較対照 (青森)	10月	ND	ND	ND	ND	0 (0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0 (0)		
	12月	ND	ND	ND		0 (0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0 (0)		

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。
- ・「平常の変動幅」は、平成6~27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は、平成6~17年度の測定値の「最小値~最大値」。

## (5)大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
尾 駁	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
千 歳 平	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
平 沼	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
泊	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
吹 越	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
比較対照 (青 森)	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	

・測定値は試料採取日に補正した値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。

(6)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析									
				<sup>54</sup> Mn	<sup>60</sup> Co	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac
大気浮遊じん	尾 駁	H28.10.3~ H29.1.2	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.0	ND	-	-
	千 歳 平	H28.10.3~ H29.1.2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.0	ND	-	-
	平 沼	H28.10.3~ H29.1.2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.0	ND	-	-
	泊	H28.10.3~ H29.1.2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.0	ND	-	-
	横 浜 町	H28.10.3~ H29.1.2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.0	ND	-	-
	比較対照 (青森市)	H28.10.3~ H29.1.2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.1	ND	-	-
雨 水	千 歳 平	H28.9.30~ H28.10.31	Bq/ℓ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		H28.10.31~ H28.11.30		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		H28.11.30~ H28.12.28		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
降 下 物	千 歳 平	H28.9.30~ H28.10.31	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	130	ND	-	-
		H28.10.31~ H28.11.30		ND	ND	ND	ND	ND	ND	270	ND	-	-
		H28.11.30~ H28.12.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	350	ND	-	-
河 川 水	老 部 川 上 流	H28.10.6	mBq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
	老 部 川 下 流	H28.10.6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-
湖 沼 水	尾 駁 沼	H28.10.19	トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
	尾 駁 沼	H28.12.14		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
	鷹 架 沼	H28.10.26		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-
	小川原湖	H28.10.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	550	-	-
水 道 水	尾 駁	H28.10.13	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	
井 戸 水	尾 駁	H28.10.13	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	160	-	-	
河 底 土	老 部 川 上 流	H28.10.6	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	74	ND	ND
	老 部 川 下 流	H28.10.6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	160	ND	ND
湖 底 土	尾 駁 沼	H28.10.19	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	4	ND	ND	270	ND	ND
	鷹 架 沼	H28.10.26		ND	ND	ND	ND	9	ND	ND	230	ND	ND
	小川原湖	H28.10.28		ND	ND	ND	ND	5	ND	ND	180	ND	ND
牛 乳 (原 乳)	二 又	H28.10.11	Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	51	-	-
	庄 内	H28.10.11		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	50	-	-
	横 浜 町	H28.10.11		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	51	-	-
	東 北 町	H28.10.13		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	47	-	-



放射化学分析								備 考
<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>90</sup> Sr	<sup>129</sup> I	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	U	
-	-	ND	-	ND	-	-	ND	
-	-	ND	-	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	-	-	-	
-	-	ND	-	ND	-	-	ND	
ND	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	-	-	-	-	-	-	
ND	-	ND	-	-	-	-	-	塩分 17
ND	-	ND	-	-	-	-	-	塩分 17
ND	-	-	-	-	-	-	-	塩分 11
ND	-	-	-	-	-	-	-	(海水の塩分は約35)
ND	-	ND	-	-	-	-	-	
ND	-	ND	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	ND	-	0.82	0.33	ND	120	
-	-	ND	-	0.55	0.25	ND	73	
-	-	ND	-	0.23	0.13	ND	-	
-	-	ND	-	-	-	-	ND	
-	-	ND	-	-	-	-	ND	
-	-	ND	-	-	-	-	-	
-	-	ND	-	-	-	-	-	

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析										
				<sup>54</sup> Mn	<sup>60</sup> Co	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	
精米	二又	H28.9.20	Bq/kg生 <sup>14</sup> Cについては 上:Bq/kg生 下:Bq/g炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	24	—	—	
	千樽	H28.10.19		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	23	—	—	
	野辺地町	H28.10.10		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	33	—	—	
	比較対照 (青森市)	H28.9.24		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ハクサイ	出戸	H28.11.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	75	—	—	
ダイコン	出戸	H28.10.26		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	68	—	—	
ナガイモ	東北町	H28.11.29		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	120	—	—	
キャベツ	横浜町	H28.11.10		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	68	—	—	
ワカサギ	尾駁沼	H28.10.19		Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	110	—	—
シジミ	小川原湖	H28.10.19			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	7	—	—
松葉	尾駁	H28.10.17	ND		ND	ND	ND	ND	ND	71	56	—	—	
	比較対照 (青森市)	H28.10.18	ND		ND	ND	ND	ND	ND	85	77	—	—	
海水	放出口近 付出口	H28.10.12	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	放出口北 地放出口	H28.10.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
	放出口南 地放出口	H28.10.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	
海底土	放出口近 付出口	H28.10.12	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	230	ND	ND	
	放出口北 地放出口	H28.10.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	170	ND	ND	
	放出口南 地放出口	H28.10.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	170	ND	ND	
魚(ヒラメ)類	六ヶ所村 前面海域	H28.10.18	Bq/kg生 トリチウム については 上:Bq/kg生 下:Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	140	—	—	
海藻類 (コンブ)	六ヶ所村 前面海域	H28.10.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	310	—	—	
海藻類 (チガイソ)	六ヶ所村 前面海域	H28.10.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	230	—	—	
貝 (ムラサキイソコカイ)	六ヶ所村 前面海域	H28.10.21		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	28	—	—	

・ Uは、<sup>234</sup>U、<sup>235</sup>U及び<sup>238</sup>Uの合計。

・ 機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は試料採取日に補正した値。

・ ヒラメ(六ヶ所村前面海域)は東通原子力発電所環境放射線等調査試料を兼ねる。

放射化学分析								備考
<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>90</sup> Sr	<sup>129</sup> I	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	U	
—	87 0.23	ND	—	ND	—	—	ND	
—	89 0.24	ND	—	ND	—	—	ND	
—	86 0.23	ND	—	ND	—	—	—	
—	87 0.23	—	—	—	—	—	—	
—	6 0.23	0.15	—	ND	—	—	ND	
—	6 0.23	0.15	—	ND	—	—	ND	
—	17 0.23	0.04	—	ND	—	—	—	
—	10 0.24	0.05	—	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	0.03	
—	—	—	—	—	—	—	0.02	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	0.51	0.21	ND	—	
—	—	ND	—	0.54	0.18	ND	—	
—	—	ND	—	0.29	0.10	ND	—	
ND ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	0.003	—	—	—	
—	—	0.05	—	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	ND	—	—	—	

(7)大気中の水蒸気状トリチウム測定結果

測定地点	採取期間	測定値		大気中水分量 (g/m <sup>3</sup> )	(参考)アクティブ試験開始前の測定値の範囲		備考
		大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	水分中濃度 (Bq/l)		大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	水分中濃度 (Bq/l)	
尾 駁	H28. 9.30 ~ H28.10.31	ND	ND	7.7			
	H28.10.31 ~ H28.11.30	ND	ND	4.7	ND	ND~2	
	H28.11.30 ~ H28.12.28	ND	ND	4.0			
横 浜 町	H28. 9.30 ~ H28.10.31	ND	ND	7.8			
	H28.10.31 ~ H28.11.30	ND	ND	4.8	ND	ND	
	H28.11.30 ~ H28.12.28	ND	ND	4.2			
比 較 対 照 ( 青 森 市 )	H28. 9.30 ~ H28.10.31	ND	ND	7.7			
	H28.10.31 ~ H28.11.30	ND	ND	5.0	ND	ND~2	
	H28.11.30 ~ H28.12.28	ND	ND	4.2			

- ・測定値は試料採取日に補正した値。
- ・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は、尾駁については平成元~17年度の測定値の「最小値~最大値」。  
横浜町及び比較対照(青森市)については平成2~17年度の測定値の「最小値~最大値」。

## (8) 大気中の気体状フッ素測定結果

(単位:ppb)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
尾 駁	10月	ND	ND	ND	
	11月	ND	ND	ND	
	12月	ND	ND	ND	
	第3四半期	ND	ND	ND	
比較対照 (青森)	10月	ND	ND	ND	
	11月	ND	ND	ND	
	12月	ND	ND	ND	
	第3四半期	ND	ND	ND	

## (9) 環境試料中のフッ素測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	測定値	備考
大 気	尾 駁	H28.10.7~ H28.10.14	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	ND	
	比較対照 (青森市)	H28.10.7~ H28.10.14		ND	
河 川 水	老部川上流	H28.10.6		ND	
	老部川下流	H28.10.6		ND	
湖 沼 水	尾 駁 沼	H28.10.19	mg/l	0.6	塩分 17
	尾 駁 沼	H28.12.14		0.6	塩分 17
	鷹 架 沼	H28.10.26		0.4	塩分 11 (海水の塩分は約35)
河 底 土	老部川上流	H28.10.6	mg/kg乾	55	
	老部川下流	H28.10.6		98	
湖 底 土	尾 駁 沼	H28.10.19		180	
	鷹 架 沼	H28.10.26		110	
牛乳(原乳)	二 又	H28.10.11	mg/l	ND	
	庄 内	H28.10.11		ND	
精 米	二 又	H28.9.20	mg/kg生	ND	

・「大気」の測定値は粒子状フッ素及び気体状フッ素の合計。

## (10) 気象観測結果

### ① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(℃)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
尾 駁	10月	3.0	12.2	12.2	22.9	0.8	73	39	107.5	0	0	0	0	0
	11月	3.1	10.0	4.6	14.8	-3.5	73	43	86.5	0	9	0	0	21
	12月	3.2	11.0	1.7	13.3	-5.9	74	44	152.0	4	28	0	17	85
	第3四半期	3.1	12.2	6.2	22.9	-5.9	73	39	346.0	1	28	0	6	85
千 歳 平	10月	2.9	9.2	12.2	22.7	0.5	67	34	89.0	0	0	0	0	0
	11月	2.9	8.2	4.7	14.4	-3.1	72	33	70.0	0	2	0	1	40
	12月	3.1	9.0	1.6	12.2	-6.5	74	37	157.0	13	56	0	19	83
	第3四半期	3.0	9.2	6.2	22.7	-6.5	71	33	316.0	4	56	0	7	83
平 沼	10月	—	—	—	—	—	—	—	66.0	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	44.5	0	3	0	0	0
	12月	—	—	—	—	—	—	—	128.0	6	37	0	4	35
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	238.5	2	37	0	1	35
泊	10月	—	—	—	—	—	—	—	89.0	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	71.0	0	4	0	0	0
	12月	—	—	—	—	—	—	—	182.5	2	33	0	3	25
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	342.5	1	33	0	1	25
吹 越	10月	—	—	—	—	—	—	—	73.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	48.0	0	2	0	0	11
	12月	—	—	—	—	—	—	—	122.5	1	9	0	6	48
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	244.0	0	9	0	2	48
比 較 対 照 (青森市)	10月	—	—	—	—	—	—	—	101.0	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	57.5	0	6	0	0	8
	12月	—	—	—	—	—	—	—	129.5	3	27	0	13	72
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	288.0	1	27	0	5	72

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、平成23～27年度の平均値及び最大値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

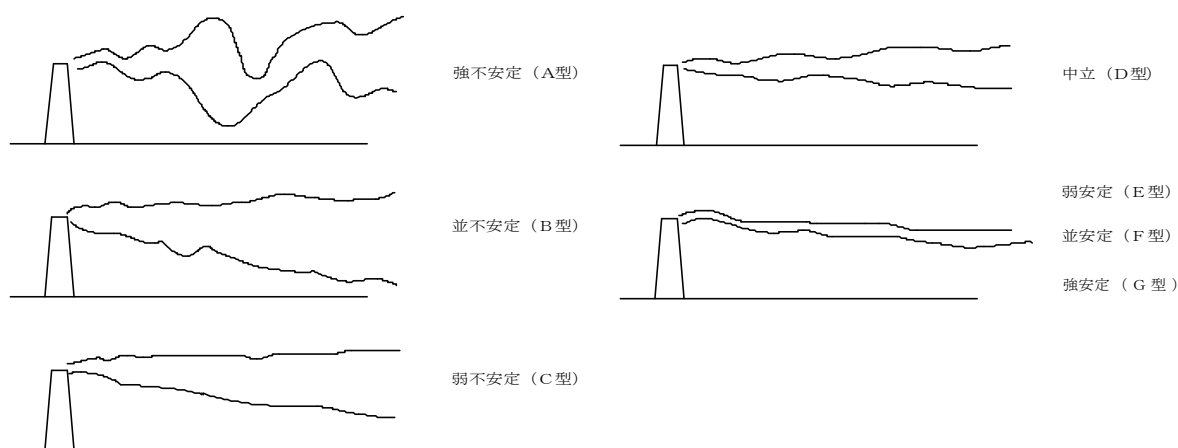
測定局	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
尾 駁	10月	6 (0.8)	22 (3.0)	42 (5.7)	8 (1.1)	31 (4.2)	16 (2.2)	409 (55.5)	17 (2.3)	20 (2.7)	166 (22.5)	737 (100)	
	11月	2 (0.3)	14 (1.9)	35 (4.9)	7 (1.0)	11 (1.5)	0 (0.0)	477 (66.3)	20 (2.8)	14 (1.9)	140 (19.4)	720 (100)	
	12月	0 (0.0)	5 (0.7)	24 (3.2)	11 (1.5)	20 (2.7)	12 (1.6)	509 (68.4)	20 (2.7)	21 (2.8)	122 (16.4)	744 (100)	
	第3 四半期	8 (0.4)	41 (1.9)	101 (4.6)	26 (1.2)	62 (2.8)	28 (1.3)	1,395 (63.4)	57 (2.6)	55 (2.5)	428 (19.4)	2,201 (100)	
千歳平	10月	4 (0.5)	27 (3.7)	45 (6.1)	12 (1.6)	40 (5.4)	23 (3.1)	432 (58.5)	23 (3.1)	29 (3.9)	104 (14.1)	739 (100)	
	11月	0 (0.0)	13 (1.8)	32 (4.4)	9 (1.3)	24 (3.3)	13 (1.8)	482 (66.9)	22 (3.1)	27 (3.8)	98 (13.6)	720 (100)	
	12月	0 (0.0)	5 (0.7)	16 (2.2)	10 (1.3)	33 (4.4)	26 (3.5)	529 (71.1)	21 (2.8)	35 (4.7)	69 (9.3)	744 (100)	
	第3 四半期	4 (0.2)	45 (2.0)	93 (4.2)	31 (1.4)	97 (4.4)	62 (2.8)	1,443 (65.5)	66 (3.0)	91 (4.1)	271 (12.3)	2,203 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

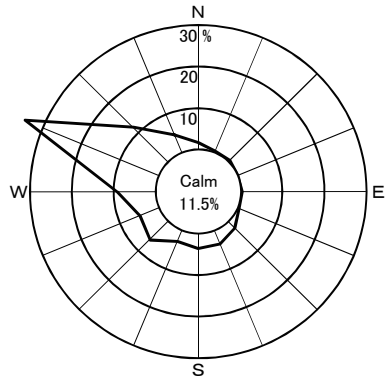
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)

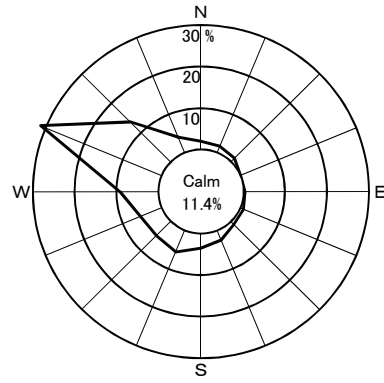


大気安定度と煙の型との模式図

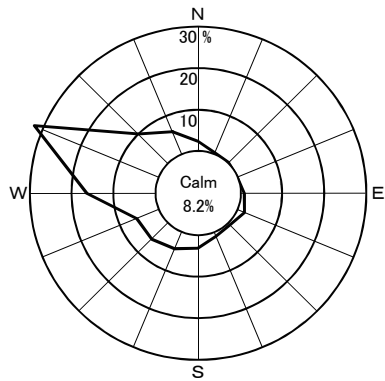
③ 風配図  
尾 駁



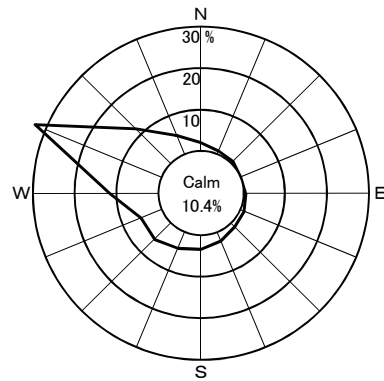
(10月)



(11月)

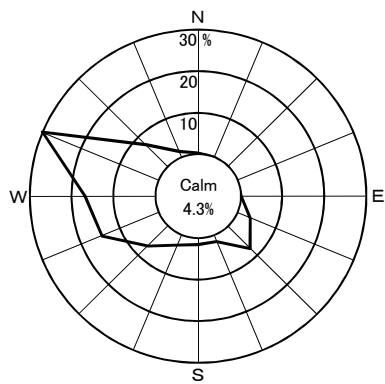


(12月)

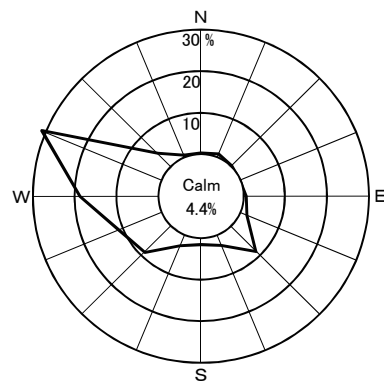


(第3四半期)

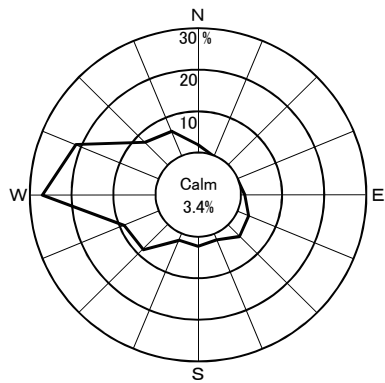
千 歳 平



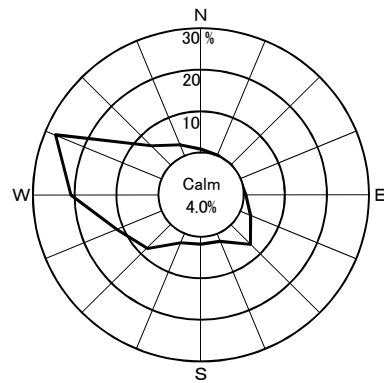
(10月)



(11月)



(12月)



(第3四半期)

Calm: 風速0.4 m/sec以下



## 2. 事業者実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数(単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数(単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
老部川	10月	21	37	20	2.3	5	0	5	6~32 (19±13)	8~114	11~114 (21)	
	11月	22	43	19	3.4	21	0	21				
	12月	22	61	17	5.9	46	0	46				
	第3四半期	22	61	17	4.2	72	0	72				
二又	10月	23	50	21	2.7	2	0	2	5~37 (21±16)	7~133	12~133 (23)	
	11月	23	56	20	4.1	16	0	16				
	12月	24	51	18	5.9	37	0	37				
	第3四半期	23	56	18	4.5	55	0	55				
室ノ久保	10月	21	40	19	2.2	4	0	4	8~34 (21±13)	8~73	14~73 (23)	
	11月	21	44	18	3.1	10	0	10				
	12月	22	47	16	5.4	35	0	35				
	第3四半期	21	47	16	3.8	49	0	49				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値」の範囲は、平成23~27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値」の範囲は、「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。  
また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である原子燃料サイクル施設に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考)モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
老部川	10月	56	70	52	2.4	
	11月	56	77	53	3.5	
	12月	57	97	52	6.1	
	第3四半期	56	97	52	4.3	
二又	10月	56	79	53	2.7	
	11月	56	86	52	4.1	
	12月	57	84	51	6.0	
	第3四半期	56	86	51	4.5	
室ノ久保	10月	53	70	50	2.3	
	11月	54	72	50	3.1	
	12月	54	81	49	5.5	
	第3四半期	54	81	49	4.0	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

## (2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間 (日数)	3箇月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
六ヶ所村	老 部 川	H28. 9.28~H28.12.27 (90)	91	72 ~ 95	
	二 又	〃	98	72 ~ 103	
	室 ノ 久 保	〃	92	72 ~ 102	
	石 川	〃	105	66 ~ 109	
	新 町	〃	112	75 ~ 117	
	大 石 平	〃	108	73 ~ 114	
	富 ノ 沢	〃	105	72 ~ 108	
	雲 雀 平	〃	104	81 ~ 107	
	むつ小川原石油備蓄	〃	96	72 ~ 99	
	千 樽	〃	98	72 ~ 105	
	豊 原	〃	95	70 ~ 109	
	千 歳 平	〃	95	80 ~ 95	
	六 原	〃	103	81 ~ 114	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
  - ・「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
  - ・「平常の変動幅」は平成23~27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。
- ただし、千歳平については、平成26年7月~平成28年3月の3箇月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。

(3)大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能測定結果(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	全 $\alpha$			全 $\beta$			備考
			平均	最大	最小	平均	最大	最小	
老部川	H28.10.3~H28.10.31	4	0.062	0.084	0.039	0.56	0.67	0.34	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.062	0.067	0.055	0.59	0.77	0.45	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.054	0.083	0.036	0.64	0.78	0.45	
	第3四半期	13	0.059	0.084	0.036	0.60	0.78	0.34	
二又	H28.10.3~H28.10.31	4	0.089	0.14	0.046	0.52	0.66	0.28	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.079	0.090	0.059	0.50	0.69	0.32	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.068	0.13	0.041	0.58	0.71	0.49	
	第3四半期	13	0.078	0.14	0.041	0.54	0.71	0.28	
室ノ久保	H28.10.3~H28.10.31	4	0.051	0.079	0.029	0.61	0.73	0.44	
	H28.10.31~H28.11.28	4	0.057	0.068	0.047	0.60	0.90	0.41	
	H28.11.28~H29.1.2	5	0.045	0.078	0.029	0.72	0.83	0.56	
	第3四半期	13	0.051	0.079	0.029	0.65	0.90	0.41	

- ・168時間集じん終了後72時間放置、1時間測定。
- ・平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

## (4)大気中の気体状β放射能測定結果(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定局	測定月	平均	最大	最小	平常の変動幅	(参考)		備考
						定量下限値以上となった時間数 (うち、平常の変動幅を上回った時間数)	アクティブ試験開始前の測定値の範囲	
老部川	10月	ND	ND	ND	ND~3	0(0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0(0)		
	12月	ND	ND	ND		0(0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0(0)		
二又	10月	ND	ND	ND	ND~8	0(0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0(0)		
	12月	ND	ND	ND		0(0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0(0)		
室ノ久保	10月	ND	ND	ND	ND~6	0(0)	ND	
	11月	ND	ND	ND		0(0)		
	12月	ND	ND	ND		0(0)		
	第3四半期	ND	ND	ND		0(0)		

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。また、すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし、「ND」と表示する。
- ・「平常の変動幅」は、平成6~27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は、平成6~17年度の測定値の「最小値~最大値」。

## (5)大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定地点	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
老 部 川	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
二 又	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
室ノ久保	H28.10.3 ~ H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31 ~ H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28 ~ H29.1.4	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	

・測定値は試料採取日に補正した値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。

(6)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析									
				<sup>54</sup> Mn	<sup>60</sup> Co	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac
大気浮遊じん	老部川	H28.10.3~ H29.1.2	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.8	ND	—	—
	二又	H28.10.3~ H29.1.2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	2.8	ND	—	—
	室ノ久保	H28.10.3~ H29.1.2		ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.0	ND	—	—
湖沼水	尾駁沼1	H28.10.18	mBq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
	尾駁沼1	H28.12.6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
	尾駁沼2	H28.10.18		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
	尾駁沼2	H28.12.6		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
水道水	尾駁	H28.10.25	mBq/ℓ トリチウムについては Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
	千歳平	H28.10.25		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
	平沼	H28.10.26		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
	二又	H28.10.26		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
井戸水	尾駁1	H28.10.13	mBq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	160	—	—
	尾駁2	H28.10.13		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
湖底土	尾駁沼	H28.10.18	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	4	ND	ND	270	ND	ND
牛乳(原乳)	豊原	H28.10.4	Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	47	—	—
	六原	H28.10.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	50	—	—
精米	二又	H28.9.25	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	30	—	—
	戸鎖	H28.10.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	30	—	—
	平沼	H28.9.25		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	31	—	—
ハクサイ	千樽	H28.10.19	上:Bq/kg生 下:Bq/g炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	83	—	—
ナガイモ	平沼	H28.11.15		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	130	—	—
ワカサギ	尾駁沼	H28.10.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	110	—	—
海水	放出口近	H28.10.12	mBq/ℓ トリチウムについては Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
	放出5km点	H28.10.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
	北地放出5km点	H28.10.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—
海底土	放出口近	H28.10.12	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	190	ND	ND
貝類(アワビ)	六ヶ所海域	H28.11.2	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	73	—	—

・Uは、<sup>234</sup>U、<sup>235</sup>U及び<sup>238</sup>Uの合計。

・機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は、試料採取日に補正した値。



放射化学分析								備考
<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>90</sup> Sr	<sup>129</sup> I	<sup>239+240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am	<sup>244</sup> Cm	U	
—	—	ND	—	ND	—	—	ND	
—	—	ND	—	ND	—	—	ND	
—	—	ND	—	ND	—	—	ND	
ND	—	ND	—	ND	—	—	47	塩分 18
ND	—	ND	—	ND	—	—	63	塩分 20
ND	—	ND	—	ND	—	—	51	塩分 17
ND	—	ND	—	ND	—	—	64	塩分 20 (海水の塩分は約35)
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	—	—	—	—	
ND	—	3.8	—	—	—	—	—	
—	—	ND	—	0.90	0.33	ND	100	
—	—	ND	—	—	—	—	—	
—	—	ND	—	—	—	—	—	
—	<sup>87</sup> 0.24	ND	—	ND	—	—	ND	
—	<sup>89</sup> 0.24	ND	—	ND	—	—	ND	
—	<sup>86</sup> 0.23	ND	—	ND	—	—	—	
—	<sup>5</sup> 0.23	ND	—	ND	—	—	ND	
—	<sup>16</sup> 0.23	ND	—	ND	—	—	ND	
—	—	ND	—	ND	—	—	0.03	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
ND	—	ND	—	ND	—	—	—	
—	—	ND	—	0.25	0.10	ND	—	
—	—	ND	—	0.002	—	—	—	

(7)大気中の水蒸気状トリチウム測定結果

測定地点	採取期間	測定値		大気中水分量 (g/m <sup>3</sup> )	(参考)アクティブ試験 開始前の測定値の範囲		備考
		大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	水分中濃度 (Bq/l)		大気中濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )	水分中濃度 (Bq/l)	
老部川	H28. 9.30 ~ H28.10.31	ND	ND	8.1			
	H28.10.31 ~ H28.11.30	ND	ND	5.1	ND	ND	
	H28.11.30 ~ H28.12.28	ND	ND	4.3			
二又	H28. 9.30 ~ H28.10.31	ND	ND	7.6			
	H28.10.31 ~ H28.11.30	ND	ND	4.4	ND	ND	
	H28.11.30 ~ H28.12.28	ND	ND	3.8			
室ノ久保	H28. 9.30 ~ H28.10.31	ND	ND	8.4			
	H28.10.31 ~ H28.11.30	ND	ND	5.2	ND	ND	
	H28.11.30 ~ H28.12.28	ND	ND	4.4			

・測定値は試料採取日に補正した値。

・「アクティブ試験開始前の測定値の範囲」は、平成10～17年度の測定値の「最小値～最大値」。

(8)大気中の気体状フッ素測定結果

(単位:ppb)

測定局	測定月	平均	最大	最小	備考
老部川	10月	ND	ND	ND	
	11月	ND	ND	ND	
	12月	ND	ND	ND	
	第3四半期	ND	ND	ND	
二又	10月	ND	ND	ND	
	11月	ND	ND	ND	
	12月	ND	ND	ND	
	第3四半期	ND	ND	ND	
室ノ久保	10月	ND	ND	ND	
	11月	ND	ND	ND	
	12月	ND	ND	ND	
	第3四半期	ND	ND	ND	

## (9)環境試料中のフッ素測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	測定値	備考
大気	二又	H28.10.11～ H28.10.21	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	ND	
	室ノ久保	H28.10.11～ H28.10.21		ND	
湖沼水	尾駁沼1	H28.10.18	mg/l	0.6	塩分 18
	尾駁沼1	H28.12.6		0.6	塩分 20
	尾駁沼2	H28.10.18		0.5	塩分 17
	尾駁沼2	H28.12.6		0.6	塩分 20 (海水の塩分は約35)
湖底土	尾駁沼	H28.10.18	mg/kg乾	180	
精米	二又	H28.9.25	mg/kg生	ND	
	戸鎖	H28.10.4		ND	
ハクサイ	千樽	H28.10.19		ND	
ナガイモ	平沼	H28.11.15		ND	
ワカサギ	尾駁沼	H28.10.24		15	

・「大気」の測定値は粒子状フッ素及び気体状フッ素の合計。

## (10)気象観測結果

### ①風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(℃)			湿度(%)		降水量(mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
老部川	10月	—	—	—	—	—	—	—	102.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	74.0	0	5	0	0	10
	12月	—	—	—	—	—	—	—	158.0	2	19	0	7	62
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	334.5	1	19	0	2	62
二又	10月	2.4	8.8	11.5	22.2	-3.3	80	48	102.0	0	0	0	0	0
	11月	3.1	11.2	4.0	14.7	-5.4	84	54	71.0	0	7	0	0	17
	12月	3.2	10.9	1.4	13.8	-8.2	87	54	132.0	3	26	0	12	58
	第3四半期	2.9	11.2	5.7	22.2	-8.2	84	48	305.0	1	26	0	4	58
室ノ久保	10月	—	—	—	—	—	—	—	104.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	72.0	0	8	0	0	15
	12月	—	—	—	—	—	—	—	155.5	5	31	0	14	78
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	332.0	2	31	0	5	78

・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。

・積雪深における「過去の値」は、前年度までの5年間(平成23～27年度)の同一時期の平均値及び最大値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

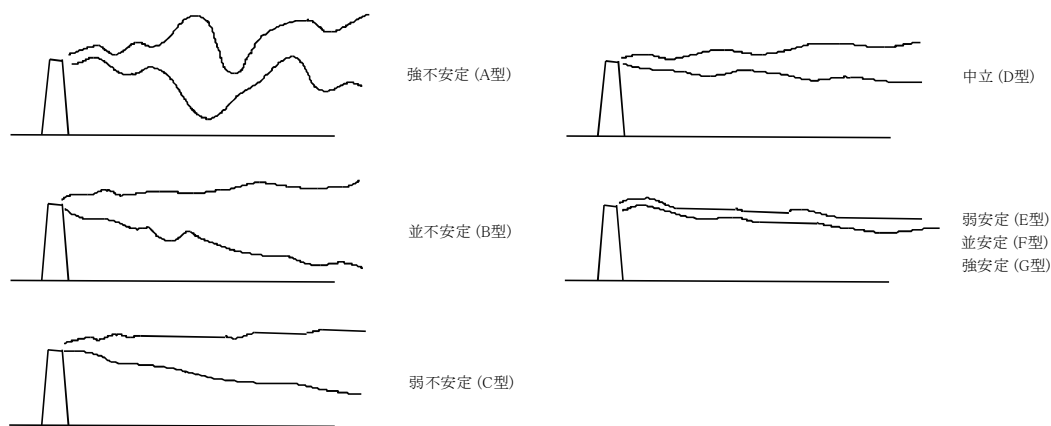
測定局	分類	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
	測定月												
二又	10月	10 (1.3)	28 (3.8)	37 (5.0)	10 (1.3)	33 (4.4)	12 (1.6)	407 (54.7)	30 (4.0)	17 (2.3)	160 (21.5)	744 (100)	
	11月	0 (0.0)	13 (1.8)	20 (2.8)	6 (0.8)	16 (2.2)	5 (0.7)	517 (72.2)	10 (1.4)	3 (0.4)	126 (17.6)	716 (100)	
	12月	0 (0.0)	7 (0.9)	16 (2.2)	6 (0.8)	20 (2.7)	10 (1.3)	539 (72.7)	21 (2.8)	9 (1.2)	113 (15.2)	741 (100)	
	第3 四半期	10 (0.5)	48 (2.2)	73 (3.3)	22 (1.0)	69 (3.1)	27 (1.2)	1463 (66.5)	61 (2.8)	29 (1.3)	399 (18.1)	2201 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.02 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

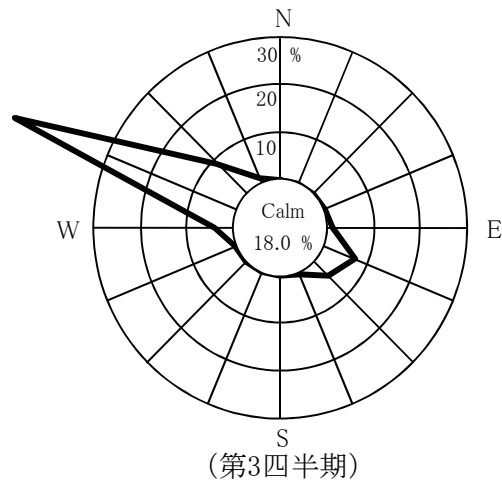
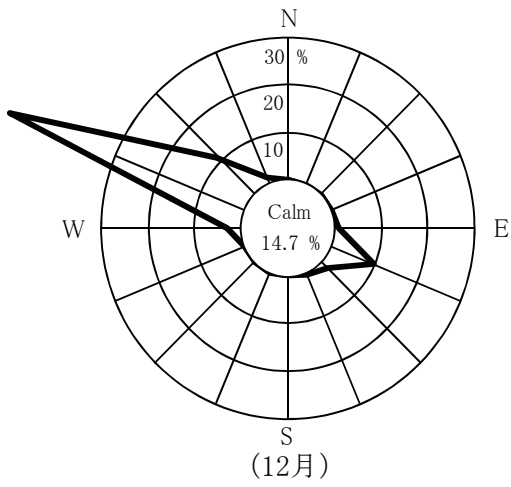
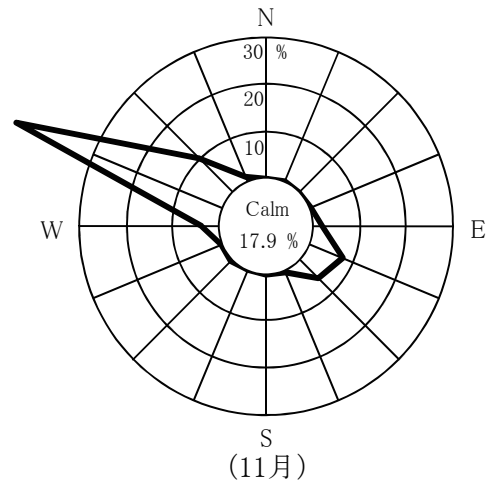
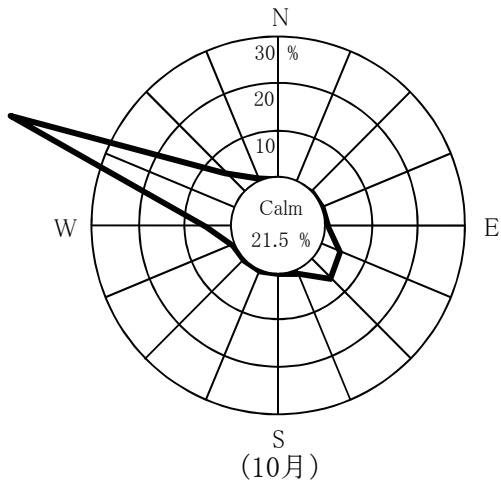
・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」



大気安定度と煙の型との模式

③風配図

二 又



Calm: 風速0.4 m/sec以下

### 3. 原子燃料サイクル施設操業状況

( 事 業 者 報 告 )

#### 表中の記号

- \* : 検出限界未満 (放射能の分析)
- \*\* : 分析値が読み取れる限度を下回っている場合 (フッ素分析)
- / : 放出実績なし

(1) ウラン濃縮工場の操業状況

① 運転状況及び主要な保守状況(平成28年10月～平成28年12月)

運 転 状 況	運転単位	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月
	RE-1A	※1		
	RE-1B	※2		
	RE-1C	※3		
	RE-1D	※4		
	RE-2A	※5		
	RE-2B	※6		
	RE-2C	※7		
主要な保守状況		加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・カスケード設備 ・UF <sub>6</sub> 処理設備 ・均質・フレンディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・搬送設備 ・放射線監視・測定設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・UF <sub>6</sub> 処理設備 ・均質・フレンディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・搬送設備 ・放射線監視・測定設備 ・管理区域 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備 ・検査設備及び計量設備 ・貯蔵設備	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・カスケード設備 ・UF <sub>6</sub> 処理設備 ・均質・フレンディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・放射線監視・測定設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備 ・検査設備及び計量設備 ・貯蔵設備
備考	<p>・運転単位 第一期分(RE-1):150トンSWU/年×4運転単位 第二期分(RE-2):150トンSWU/年×3運転単位</p> <p>※1 RE-1A:生産運転停止中(H12. 4. 3～)            ※2 RE-1B:生産運転停止中(H14. 12. 19～)            ※3 RE-1C:生産運転停止中(H15. 6. 30～)            ※4 RE-1D:生産運転停止中(H17. 11. 30～)            ※5 RE-2A:150tSWU/年のうち、75tSWU/年は生産運転中(H25. 5. 21～)            ※6 RE-2B:生産運転停止中(H22. 12. 15～)            ※7 RE-2C:生産運転停止中(H20. 2. 12～)</p>			



② 放射性物質及びフッ素化合物の放出状況(平成28年10月～平成28年12月)

(a)ウラン濃縮施設

放射性廃棄物等の種類		測定箇所	平均濃度	管理目標値
ウラン	気体	排気口 A	* (Bq/cm <sup>3</sup> )	2×10 <sup>-8</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
	液体	処理水ピット	* (Bq/cm <sup>3</sup> )	1×10 <sup>-3</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
フッ素化合物	気体(HF)	排気口 A	** (mg/m <sup>3</sup> )	0.1 (mg/m <sup>3</sup> )
	液体(F)	処理水ピット	** (mg/ℓ)	1 (mg/ℓ)
備考		ウランの検出限界濃度は次のとおりである。 気体 : 2×10 <sup>-9</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下 液体 : 1×10 <sup>-4</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下  フッ素化合物の測定値の読み取れる限度は次のとおりである。 気体 : 4×10 <sup>-3</sup> (mg/m <sup>3</sup> ) 以下 液体 : 0.1 (mg/ℓ)		

(b)その他施設(研究開発棟)

放射性廃棄物等の種類		測定箇所	平均濃度	管理目標値
ウラン	気体	排気口 B	* (Bq/cm <sup>3</sup> )	2×10 <sup>-8</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
	液体	処理水ピット	* (Bq/cm <sup>3</sup> )	1×10 <sup>-3</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
フッ素化合物	気体(HF)	排気口 B	** (mg/m <sup>3</sup> )	0.1 (mg/m <sup>3</sup> )
	液体(F)	処理水ピット	** (mg/ℓ)	1 (mg/ℓ)
備考		ウランの検出限界濃度は次のとおりである。 気体 : 2×10 <sup>-9</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下 液体 : 1×10 <sup>-4</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> ) 以下  フッ素化合物の測定値の読み取れる限度は次のとおりである。 気体 : 4×10 <sup>-3</sup> (mg/m <sup>3</sup> ) 以下 液体 : 0.1 (mg/ℓ)		

(2) 低レベル放射性廃棄物埋設センターの操業状況

① 廃棄物受入れ・埋設数量及び主要な保守状況(平成28年10月～平成28年12月)

	28年10月	28年11月	28年12月	四半期合計	合計	前年度末 合計
受入れ 数量	1,920本	1,664本	1,520本	5,104本	10,472 本 295,235 本	284,763 本
埋設 数量	1,720本	1,160本	960本	3,840本	8,880 本 292,379 本	283,499 本
主要な 保守状 況	実績なし	廃棄物埋設施設保安規定に基づく吊り上げ高さ検査 ・2号埋設クレーン	実績なし			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合計欄の上段は年度合計、下段は累積合計を示す。</li> <li>・ 受入れ数量:廃棄体を低レベル廃棄物管理建屋に搬入した本数</li> <li>・ 埋設数量 :廃棄体を埋設設備に定置した本数</li> </ul>					

② 放射性物質の放出状況(平成28年10月～平成28年12月)

放射性廃棄物の種類		測定の箇所	平均濃度	管理目標値	
気体	H-3	排気口C	／ (Bq/cm <sup>3</sup> )	5×10 <sup>-4</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )	
	Co-60	排気口C	／ (Bq/cm <sup>3</sup> )	3×10 <sup>-7</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )	
	Cs-137	排気口C	／ (Bq/cm <sup>3</sup> )	1×10 <sup>-6</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )	
液体	H-3	サンプルタンク	／ (Bq/cm <sup>3</sup> )	6×10 <sup>0</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )	
	Co-60	サンプルタンク	／ (Bq/cm <sup>3</sup> )	1×10 <sup>-2</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )	
	Cs-137	サンプルタンク	／ (Bq/cm <sup>3</sup> )	7×10 <sup>-3</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )	
備考					

③ 地下水中の放射性物質の濃度の測定結果(平成 28 年 10 月～平成 28 年 12 月)

測定項目 測定の箇所	H-3 (Bq/cm <sup>3</sup> )		Co-60 (Bq/cm <sup>3</sup> )		Cs-137 (Bq/cm <sup>3</sup> )	
	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値
地下水監視設備(1)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(2)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(3)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(4)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(5)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(6)	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備(7)	*	*	*	*	*	*
法に定める濃度限度	6 × 10 <sup>1</sup>		2 × 10 <sup>-1</sup>		9 × 10 <sup>-2</sup>	
備考	<p>・法に定める濃度限度：「核燃料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示」(平成 27 年原子力規制委員会告示第 8 号)</p> <p>検出限界濃度は次のとおりである。</p> <p>H-3 : 6 × 10<sup>-1</sup> (Bq/cm<sup>3</sup>) 以下</p> <p>Co-60 : 1 × 10<sup>-3</sup> (Bq/cm<sup>3</sup>) 以下</p> <p>Cs-137 : 7 × 10<sup>-4</sup> (Bq/cm<sup>3</sup>) 以下</p>					

(3) 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの操業状況

① 廃棄物受入れ・管理数量及び主要な保守状況(平成 28 年 10 月～平成 28 年 12 月)

	四半期合計	年度合計	累積合計	前年度末合計
ガラス固化体受入れ数量	132 本	132 本	1,830 本	1,698 本
ガラス固化体管理数量	28 本	28 本	1,726 本	1,698 本
主要な保守状況	廃棄物管理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・収納管排気設備の入口圧力の測定等を行う計測制御設備 ・廃水貯槽の漏えい水の検知装置			
備考	・ガラス固化体受入れ数量:ガラス固化体受入建屋に搬入した本数 ・ガラス固化体管理数量:ガラス固化体を貯蔵ピットに収納した本数			

② 放射性物質の放出状況(平成 28 年 10 月～平成 28 年 12 月)

放射性廃棄物の種類		測定の箇所	平均濃度	管理目標値
気体	放射性ルテニウム	排気口 D	* (Bq/cm <sup>3</sup> )	1×10 <sup>-7</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
	放射性セシウム	排気口 D	* (Bq/cm <sup>3</sup> )	9×10 <sup>-7</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )
備考		検出限界濃度は次に示すとおりである。 放射性ルテニウム :1×10 <sup>-8</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )以下 放射性セシウム :4×10 <sup>-9</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )以下		

(4) 再処理工場の操業状況

① 使用済燃料受入れ量、再処理量及び在庫量並びに主要な保守状況

(平成 28 年 10 月～平成 28 年 12 月)

		四半期合計	年度合計	累積合計	前年度末合計
受入れ量	PWR 燃料集合体	0 体 0 t・UPr	0 体 0 t・UPr	3,942 体 約 1,690 t・UPr	3,942 体 約 1,690 t・UPr
	BWR 燃料集合体	22 体 約 4 t・UPr	22 体 約 4 t・UPr	9,829 体 約 1,703 t・UPr	9,807 体 約 1,699 t・UPr
再処理量	PWR 燃料集合体	0 体 0 t・UPr	0 体 0 t・UPr	456 体 約 206 t・UPr	456 体 約 206 t・UPr
	BWR 燃料集合体	0 体 0 t・UPr	0 体 0 t・UPr	1,246 体 約 219 t・UPr	1,246 体 約 219 t・UPr
在庫量 (12 月末)	PWR 燃料集合体			3,486 体 約 1,484 t・UPr	3,486 体 約 1,484 t・UPr
	BWR 燃料集合体			8,583 体 約 1,484 t・UPr	8,561 体 約 1,480 t・UPr
主要な保守状況		<p>再処理施設保安規定に基づく施設定期自主検査                      使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設、プール水浄化・冷却設備、安全冷却水系(使用済燃料の受入れ及び貯蔵用)、再処理施設(使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設に限る)全体、せん断処理・溶解廃ガス処理設備、溶解設備、分配設備、精製施設、プルトニウム精製設備、高レベル廃液ガラス固化設備、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備、酸及び溶媒の回収施設、第 2 酸回収系、前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備、前処理建屋換気設備、精製建屋換気設備、液体廃棄物の廃棄施設、気体廃棄物の廃棄施設、固体廃棄物の廃棄施設、安全圧縮空気系、安全冷却水系、補給水設備、非常用所内電源系統、漏えい検知装置等、放射線管理施設、その他再処理設備の附属施設</p>			
備考		<p>・「t・UPr」:照射前金属ウラン質量換算                      ・受入れ量及び再処理量のウラン量については端数処理しているため、必ずしも一致しない。</p>			

② 製品の生産量(実績)(平成28年10月～平成28年12月)

	生産量	
	ウラン製品 (ウラン酸化物製品)	プルトニウム製品 (ウラン・プルトニウム混合酸化物製品)
四半期	約 2 t・U	0 kg
累計	約 366 t・U	約 6,656 kg
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウラン製品量は、ウラン酸化物製品の金属ウランの質量換算とする。なお、ウラン試験に用いた金属ウラン(51.7 t・U)は、ウラン製品には含めていない。</li> <li>プルトニウム製品量は、ウラン・プルトニウム混合酸化物の金属ウラン及び金属プルトニウム(1:1)の合計質量換算とする。</li> </ul>	

③ 放射性物質の放出状況(平成28年10月～平成28年12月)

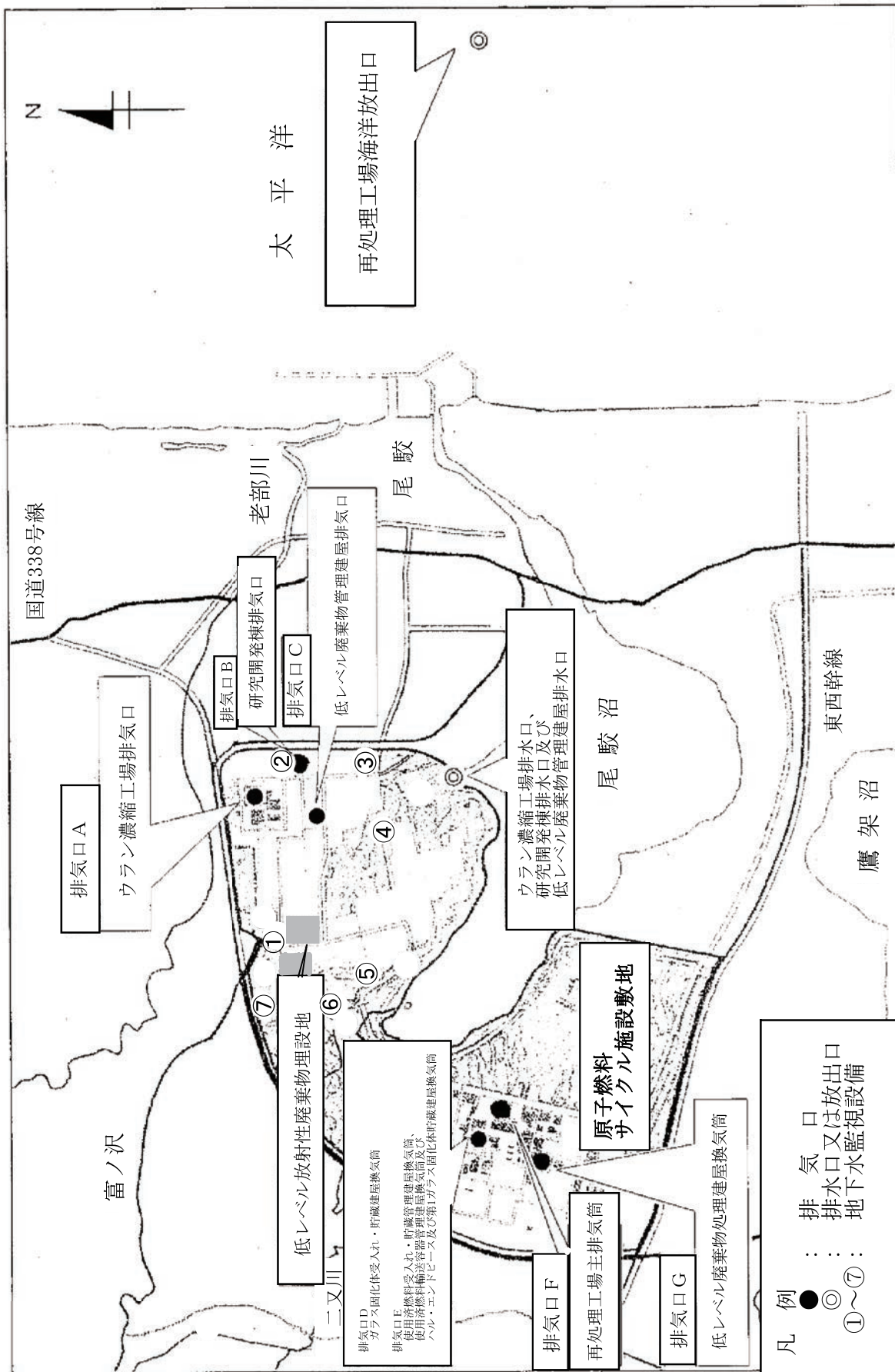
(a)放射性液体廃棄物の放射性物質の放出量

核種 (測定箇所)	放出量					年間放出 管理目標値
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度合計	
H-3 (放出前貯槽)	$4.3 \times 10^9$ (Bq)	$3.1 \times 10^{10}$ (Bq)	$1.2 \times 10^9$ (Bq)	/	$3.6 \times 10^{10}$ (Bq)	$1.8 \times 10^{16}$ (Bq)
I-129 (放出前貯槽)	$6.2 \times 10^5$ (Bq)	$4.4 \times 10^6$ (Bq)	$1.9 \times 10^6$ (Bq)	/	$6.9 \times 10^6$ (Bq)	$4.3 \times 10^{10}$ (Bq)
I-131 (放出前貯槽)	*	*	*	/	*	$1.7 \times 10^{11}$ (Bq)
その他α線を 放出する核種 (放出前貯槽)	*	*	*	/	*	$3.8 \times 10^9$ (Bq)
その他α線を 放出しない核種 (放出前貯槽)	*	*	*	/	*	$2.1 \times 10^{11}$ (Bq)
備考	<p>放射性物質の放出量(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排水量(cm<sup>3</sup>)を乗じて求めている。</p> <p>検出限界濃度は次に示すとおりである。</p> <p>H-3 : <math>2 \times 10^{-1}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下                      I-129 : <math>2 \times 10^{-3}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下                      I-131 : <math>2 \times 10^{-2}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下                      その他α線を放出する核種 : <math>4 \times 10^{-3}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下                      その他α線を放出しない核種 : <math>4 \times 10^{-2}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下</p>					

## (b) 放射性気体廃棄物の放射性物質の放出量

核種 (測定箇所)	放出量					年間放出 管理目標値														
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度合計															
Kr-85 (排気口 E, F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/	* (Bq)	$3.3 \times 10^{17}$ (Bq)														
H-3 (排気口 E, F, G)	$3.4 \times 10^{10}$ (Bq)	$3.3 \times 10^{10}$ (Bq)	$3.1 \times 10^{10}$ (Bq)	/	$9.9 \times 10^{10}$ (Bq)	$1.9 \times 10^{15}$ (Bq)														
C-14 (排気口 F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/	* (Bq)	$5.2 \times 10^{13}$ (Bq)														
I-129 (排気口 E, F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/	* (Bq)	$1.1 \times 10^{10}$ (Bq)														
I-131 (排気口 F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/	* (Bq)	$1.7 \times 10^{10}$ (Bq)														
その他 $\alpha$ 線を 放出する核種 (排気口 E, F, G)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/	* (Bq)	$3.3 \times 10^8$ (Bq)														
その他 $\alpha$ 線を 放出しない核種 (排気口 E, F, G)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/	* (Bq)	$9.4 \times 10^{10}$ (Bq)														
備考	<p>放射性物質の放出量(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排気量(cm<sup>3</sup>)を乗じて求めている。</p> <p>排気口 E は、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気筒、ハル・エンドピース及び第1ガラス固化体貯蔵建屋換気筒、使用済燃料輸送容器管理建屋換気筒の排気口であり、これらのうちいずれかの排気口で測定している核種について放出量を記載している。</p> <p>検出限界濃度は次に示すとおりである。</p> <table> <tr> <td>Kr-85</td> <td>: <math>2 \times 10^{-2}</math> (Bq/cm<sup>3</sup>)以下</td> </tr> <tr> <td>H-3</td> <td>: <math>4 \times 10^{-5}</math> (Bq/cm<sup>3</sup>)以下</td> </tr> <tr> <td>C-14</td> <td>: <math>4 \times 10^{-5}</math> (Bq/cm<sup>3</sup>)以下</td> </tr> <tr> <td>I-129</td> <td>: <math>4 \times 10^{-8}</math> (Bq/cm<sup>3</sup>)以下</td> </tr> <tr> <td>I-131</td> <td>: <math>7 \times 10^{-9}</math> (Bq/cm<sup>3</sup>)以下</td> </tr> <tr> <td>その他 <math>\alpha</math> 線を放出する核種</td> <td>: <math>4 \times 10^{-10}</math> (Bq/cm<sup>3</sup>)以下</td> </tr> <tr> <td>その他 <math>\alpha</math> 線を放出しない核種</td> <td>: <math>4 \times 10^{-9}</math> (Bq/cm<sup>3</sup>)以下</td> </tr> </table>						Kr-85	: $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下	H-3	: $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下	C-14	: $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下	I-129	: $4 \times 10^{-8}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下	I-131	: $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下	その他 $\alpha$ 線を放出する核種	: $4 \times 10^{-10}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下	その他 $\alpha$ 線を放出しない核種	: $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下
Kr-85	: $2 \times 10^{-2}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下																			
H-3	: $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下																			
C-14	: $4 \times 10^{-5}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下																			
I-129	: $4 \times 10^{-8}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下																			
I-131	: $7 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下																			
その他 $\alpha$ 線を放出する核種	: $4 \times 10^{-10}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下																			
その他 $\alpha$ 線を放出しない核種	: $4 \times 10^{-9}$ (Bq/cm <sup>3</sup> )以下																			

図 原子燃料サイクル施設の排気口、排水口、放出口及び地下水監視設備位置図





## 参 考 資 料

### 1. モニタリングポスト測定結果

#### (1) 再処理事業所モニタリングポスト

- ① 空間放射線量率(低線量率計)
- ② 大気中の気体状 $\beta$ 放射能(クリプトン-85換算)

#### (2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト

- ① 空間放射線量率(低線量率計)

### 2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果

### 3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果

### 4. 気象観測結果

- ① 風速      ② 降水量      ③ 大気安定度      ④ 風配図

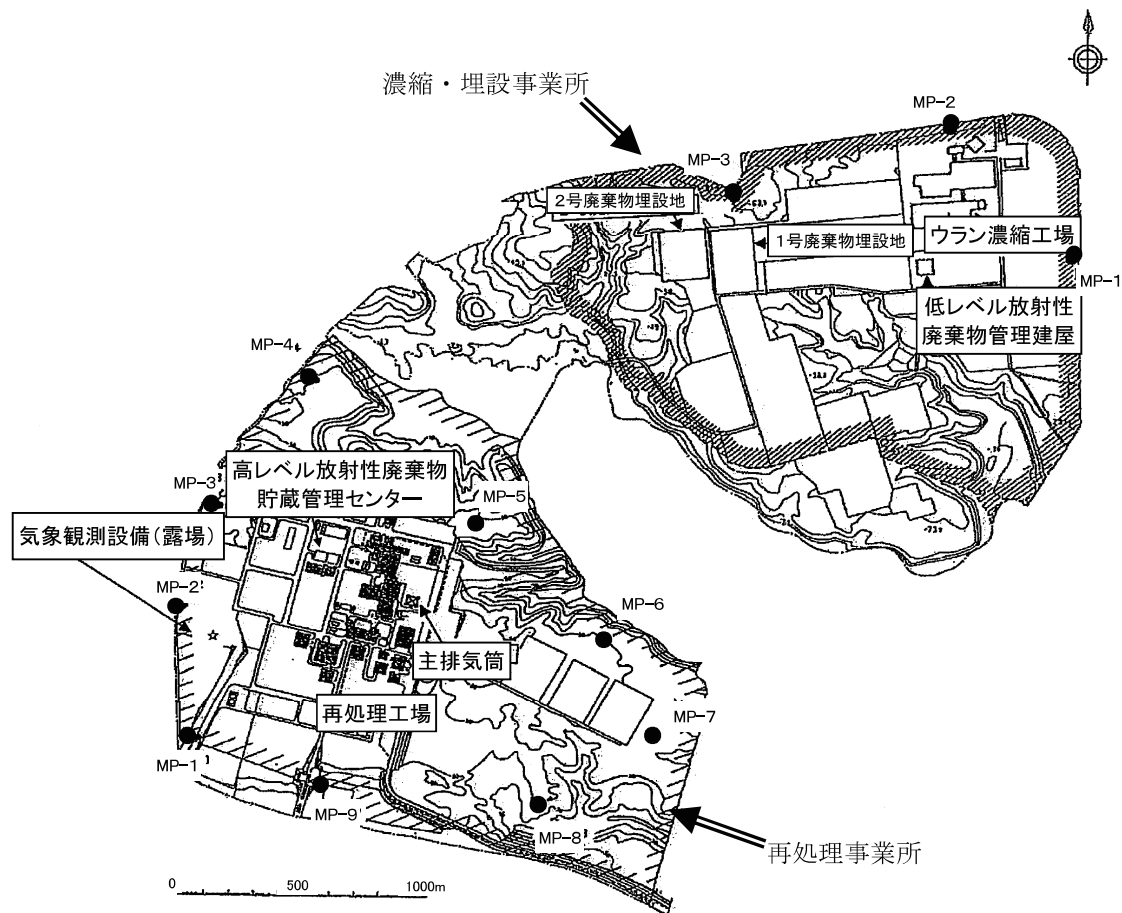


図 モニタリングポスト、主排気筒、気象観測設備配置図

## 1.モニタリングポスト測定結果

(1)再処理事業所モニタリングポスト(平成28年10月～平成28年12月)

①空間放射線量率(低線量率計)

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	10月	17	35	15	91	
	11月	18	47	14		
	12月	18	57	13		
	第3四半期	18	57	13		
MP-2	10月	20	37	18	112	
	11月	20	44	17		
	12月	20	54	16		
	第3四半期	20	54	16		
MP-3	10月	17	35	15	142	
	11月	17	50	14		
	12月	18	57	13		
	第3四半期	17	57	13		
MP-4	10月	18	35	16	123	
	11月	18	55	15		
	12月	19	52	14		
	第3四半期	18	55	14		
MP-5	10月	17	34	16	123	
	11月	17	51	14		
	12月	18	48	14		
	第3四半期	18	51	14		
MP-6	10月	17	34	15	128	
	11月	17	51	14		
	12月	18	51	13		
	第3四半期	17	51	13		
MP-7	10月	18	42	16	150	
	11月	19	54	15		
	12月	20	55	15		
	第3四半期	19	55	15		
MP-8	10月	18	39	16	111	
	11月	18	45	15		
	12月	19	55	14		
	第3四半期	18	55	14		
MP-9	10月	19	39	17	103	
	11月	19	47	16		
	12月	20	53	15		
	第3四半期	19	53	15		

・3"φ×3"Nal(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)、連続測定(1時間値)、局舎屋根(地上約6 m)に設置。

・測定値は1時間値。

・測定値は、3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成23～27年度までの測定値の最大値。

## ②大気中の気体状β放射能(クリプトン-85換算)

(単位:kBq/m<sup>3</sup>)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	10月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		
MP-2	10月	ND	ND	ND	4	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		
MP-3	10月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		
MP-4	10月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		
MP-5	10月	ND	ND	ND	5	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		
MP-6	10月	ND	ND	ND	11	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		
MP-7	10月	ND	ND	ND	16	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		
MP-8	10月	ND	ND	ND	9	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		
MP-9	10月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上となった回数 :0回
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	第3四半期	ND	ND	ND		

・プラスチックシンチレーション検出器(350×300×0.5 mm)、連続測定(1時間値)

・測定値は1時間値。

・NDは、定量下限値(2 kBq/m<sup>3</sup>)未満を示す。

・「過去最大値」は、平成7～27年度の測定値の最大値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と示す。

## (2)濃縮・埋設事業所モニタリングポスト(平成28年10月～平成28年12月)

## ①空間放射線量率(低線量率計)

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	10月	20	40	18	120	
	11月	20	46	17		
	12月	21	70	15		
	第3四半期	21	70	15		
MP-2	10月	24	38	22	107	
	11月	24	44	21		
	12月	24	66	19		
	第3四半期	24	66	19		
MP-3	10月	24	38	22	115	
	11月	24	49	21		
	12月	24	64	18		
	第3四半期	24	64	18		

・2"φ×2"NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)、連続測定(1時間値)、地上約1.8 mに設置。

・測定値は1時間値。

・測定値は、3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成23～27年度までの測定値の最大値。

2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果 (平成28年10月～平成28年12月)

(単位:Bq)

測定月	$^3\text{H}$	$^{129}\text{I}$	$^{131}\text{I}$	その他 $\alpha$ 線を放出する核種	その他 $\alpha$ 線を放出しない核種	備考
10月	$3.0 \times 10^8$ ( $5.1 \times 10^7$ )	$9.0 \times 10^5$ ( $2.4 \times 10^5$ )	*	*	*	
11月	$4.5 \times 10^8$ ( $5.2 \times 10^7$ )	$5.3 \times 10^5$ ( $2.4 \times 10^5$ )	*	*	*	
12月	$4.5 \times 10^8$ ( $5.2 \times 10^7$ )	$5.2 \times 10^5$ ( $3.8 \times 10^5$ )	*	*	*	
第3四半期	$1.2 \times 10^9$ ( $1.5 \times 10^8$ )	$1.9 \times 10^6$ ( $8.5 \times 10^5$ )	*	*	*	

・「その他  $\alpha$  線を放出する核種」は全  $\alpha$ 、「その他  $\alpha$  線を放出しない核種」は全  $\beta$  ( $\gamma$ ) である。  
 全  $\alpha$  又は全  $\beta$  ( $\gamma$ ) が検出限界以上の場合、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。  
 ( ) 内の数値は、測定結果が有意値となったときの検出限界濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排水量(cm<sup>3</sup>)を乗じて算出した放射能(Bq)を足し合わせた量である。

(参考) その他  $\alpha$  線を放出する核種及びその他  $\alpha$  線を放出しない核種の核種ごとの放出量

(単位:Bq)

測定月	Pu( $\alpha$ )	Am( $\alpha$ )	Cm( $\alpha$ )	$^{241}\text{Pu}$	$^{60}\text{Co}$	$^{106}\text{Ru}$	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$
10月	*	*	*	*	*	*	*	*
11月	*	*	*	*	*	*	*	*
12月	*	*	*	*	*	*	*	*
第3四半期	*	*	*	*	*	*	*	*

測定月	$^{154}\text{Eu}$	$^{144}\text{Ce}$	$^{90}\text{Sr}$	備考
10月	*	*	/	
11月	*	*		
12月	*	*		
第3四半期	*	*	*	

・ $^{90}\text{Sr}$ は、四半期ごとに測定している。

3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果 (平成28年10月～平成28年12月)

(単位:Bq)

測定月	<sup>85</sup> Kr	<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>129</sup> I	<sup>131</sup> I	その他α線を放出する核種	その他α線を放出しない核種	備考
10月	*	1.2×10 <sup>10</sup> ( 2.1×10 <sup>9</sup> )	*	*	*	*	*	
11月	*	1.1×10 <sup>10</sup> ( 1.3×10 <sup>9</sup> )	*	*	*	*	*	
12月	*	8.7×10 <sup>9</sup> ( 1.1×10 <sup>9</sup> )	*	*	*	*	*	
第3四半期	*	3.1×10 <sup>10</sup> ( 4.6×10 <sup>9</sup> )	*	*	*	*	*	

・「その他α線を放出する核種」は全α、「その他α線を放出しない核種」は全β(γ)及び揮発性<sup>106</sup>Ruである。  
 全α又は全β(γ)が検出限界以上の場合は、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。  
 ( )内の数値は、測定結果が有意値となったときの検出限界濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排気量(cm<sup>3</sup>)を乗じて算出した放射能(Bq)を足し合わせた量である。

(参考)その他α線を放出する核種及びその他α線を放出しない核種の核種ごとの放出量 (単位:Bq)

測定月	Pu(α)	<sup>106</sup> Ru	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	備考
10月	*	*	*	/	
11月	*	*	*		
12月	*	*	*		
第3四半期	*	*	*		

・<sup>90</sup>Srは、四半期ごとに測定している。

○放出量測定結果における検出限界濃度

(1) 液体廃棄物の検出限界濃度 (単位:Bq/cm<sup>3</sup>)

核 種	検出限界濃度
<sup>3</sup> H	2×10 <sup>-1</sup> 以下
<sup>129</sup> I	2×10 <sup>-3</sup> 以下
<sup>131</sup> I	2×10 <sup>-2</sup> 以下
全α	4×10 <sup>-3</sup> 以下
全β(γ)	4×10 <sup>-2</sup> 以下
Pu(α)	1×10 <sup>-3</sup> 以下
Am(α)	6×10 <sup>-5</sup> 以下
Cm(α)	6×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>241</sup> Pu	3×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>60</sup> Co	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>106</sup> Ru	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>134</sup> Cs	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>137</sup> Cs	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>154</sup> Eu	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>144</sup> Ce	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>90</sup> Sr	7×10 <sup>-4</sup> 以下

(2) 気体廃棄物の検出限界濃度 (単位:Bq/cm<sup>3</sup>)

核 種	検出限界濃度
<sup>85</sup> Kr	2×10 <sup>-2</sup> 以下
<sup>3</sup> H	4×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>14</sup> C	4×10 <sup>-5</sup> 以下
<sup>129</sup> I	4×10 <sup>-8</sup> 以下
<sup>131</sup> I	7×10 <sup>-9</sup> 以下
全α	4×10 <sup>-10</sup> 以下
全β(γ)	4×10 <sup>-9</sup> 以下
Pu(α)	4×10 <sup>-10</sup> 以下
<sup>106</sup> Ru	4×10 <sup>-9</sup> 以下
<sup>137</sup> Cs	4×10 <sup>-9</sup> 以下
<sup>90</sup> Sr	4×10 <sup>-10</sup> 以下

・<sup>106</sup>Ruは粒子状<sup>106</sup>Ru及び揮発性<sup>106</sup>Ruそれぞれに対する値を示した。

4. 気象観測結果(平成28年10月～平成28年12月)

①風速

測定地点	測定月	風速(m/sec)		備考
		平均	最大	
地上10 m	10 月	4.6	13.3	
	11 月	4.5	13.2	
	12 月	4.7	14.9	
	第3四半期	4.6	14.9	
地上150 m	10 月	8.0	20.9	
	11 月	8.7	21.2	
	12 月	9.1	21.5	
	第3四半期	8.6	21.5	

- ・「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・地上10 m : 風向風速計[超音波式](気象庁検定付)、連続測定(1時間値)
- ・地上150 m : ドップラーソーダ、連続測定(1時間値)

②降水量

測定地点	測定月	降水量(mm)	備考
露場	10 月	108.0	
	11 月	87.5	
	12 月	155.5	
	第3四半期	351.0	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値を用いて算出。
- ・雨雪量計[転倒ます型](気象庁検定付)

③大気安定度

(単位:時間[括弧内は%])

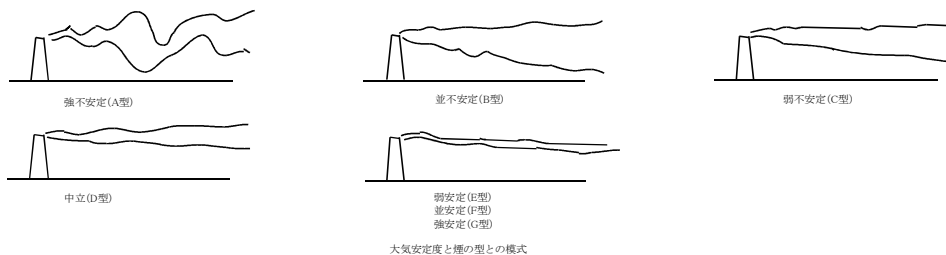
測定地点	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
		露場	10 月	5 (0.7)	12 (1.6)	25 (3.4)	10 (1.3)	27 (3.6)	24 (3.2)	493 (66.3)	25 (3.4)	17 (2.3)	
11 月	0 (0.0)		6 (0.8)	23 (3.2)	4 (0.6)	9 (1.3)	12 (1.7)	525 (72.9)	20 (2.8)	29 (4.0)	92 (12.8)	720 (100)	
12 月	0 (0.0)		2 (0.3)	8 (1.1)	4 (0.5)	16 (2.2)	14 (1.9)	571 (76.7)	26 (3.5)	30 (4.0)	73 (9.8)	744 (100)	
第3 四半期	5 (0.2)		20 (0.9)	56 (2.5)	18 (0.8)	52 (2.4)	50 (2.3)	1589 (72.0)	71 (3.2)	76 (3.4)	271 (12.3)	2208 (100)	

- ・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。
- ・風向風速計[超音波式](気象庁検定付)、日射計[電気式](気象庁検定付)、放射収支計[熱電対式]

大気安定度分類表

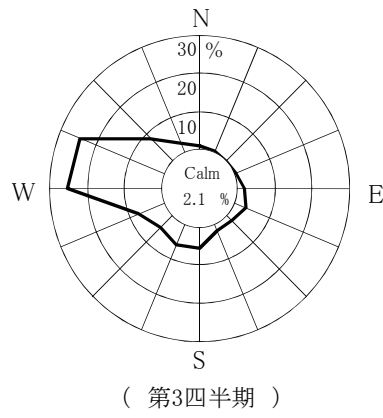
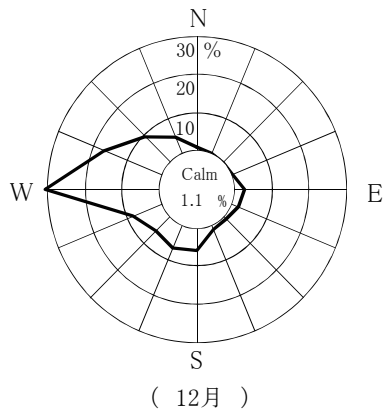
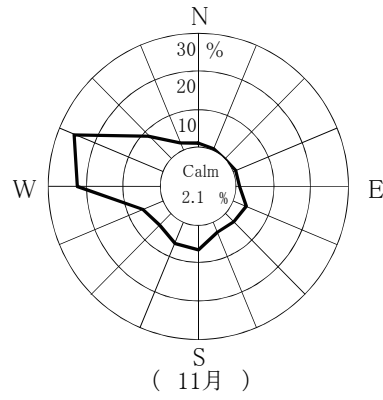
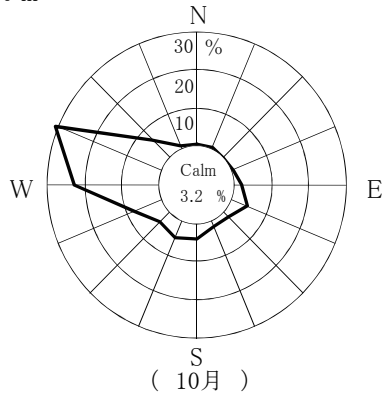
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.02 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)

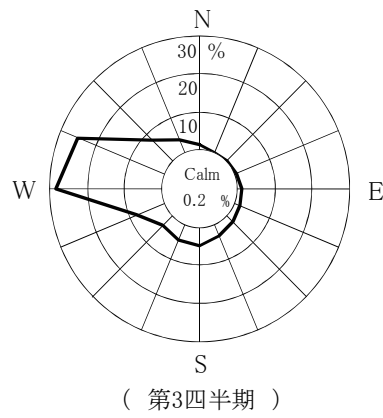
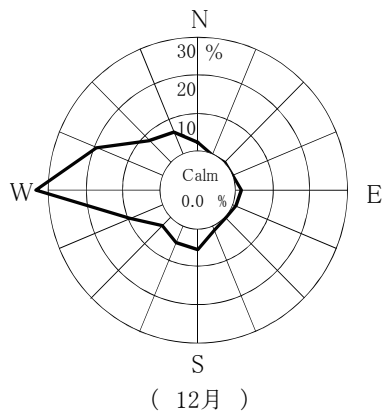
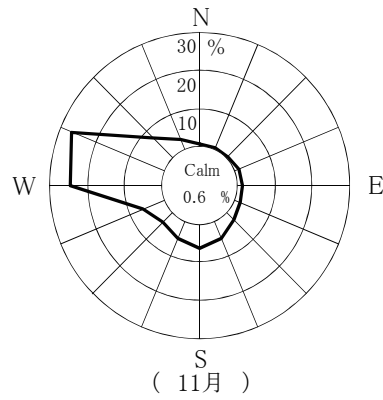
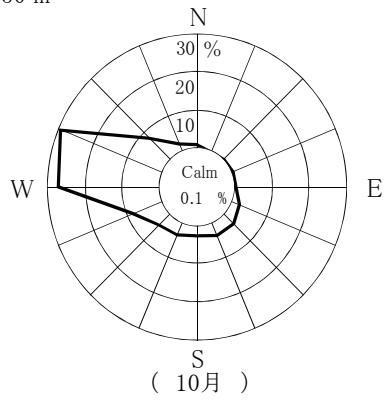




④風配図  
 ・地上10 m



・地上150 m



Calm: 風速0.4 m/sec以下



#### 4. 原子燃料サイクル施設に係る 環境放射線等モニタリング実施要領

## 原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング実施要領

平成元年	3月	策定
平成5年	3月	改訂
平成7年	6月	改訂
平成9年	11月	改訂
平成13年	4月	改訂
平成14年	4月	改訂
平成15年	4月	改訂
平成15年	8月	改訂
平成17年	10月	改訂
平成19年	3月	改訂
平成21年	4月	改訂
平成22年	3月	改訂
平成23年	4月	改訂
平成24年	3月	改訂
平成25年	4月	改訂
平成26年	4月	改訂
平成27年	3月	改訂
平成28年	3月	改訂
平成28年	11月	改訂

### 1. 趣旨

「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング基本計画」により環境放射線等の測定方法、分析方法等について必要な事項を定めるものとする。

## 2. 測定装置及び測定方法

### (1) 空間放射線

項目	青森県		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
モニタリングステーションによる空間放射線量率	<p>・低線量率計 3" φ × 3" NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償方式加温装置付)、G(E)関数荷重演算方式</p> <p>・高線量率計 14 0、4 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器(加温装置付)</p>	<p>測定法: 文部科学省編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成8年改訂)に準拠 連続測定(1時間値)</p> <p>測定位置: 地上 1.8 m</p> <p>校正線源: <sup>137</sup>Cs</p>	<p>・低線量率計 14 0、8 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器(加温装置付)</p> <p>・高線量率計 14 0、8 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器(加温装置付)</p>	<p>測定法: 同 左</p> <p>測定位置: 同 左</p> <p>校正線源: <sup>226</sup>Ra</p>

項目	青森県	
	測定装置	測定方法
モニタリングポストによる空間放射線量率	<p>・低線量率計 3" φ × 3" NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償方式加温装置付)、G(E)関数荷重演算方式</p>	<p>測定法: 文部科学省編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成8年改訂)に準拠 連続測定(1時間値)</p> <p>測定位置: 地上 3.8 m (屋根上) (東北町役場、東北分庁舎、三沢市役所) 地上 3.4 m (屋根上) (横浜町役場) 地上 1.8 m (野辺地、砂子又)</p> <p>校正線源: <sup>137</sup>Cs</p>

項目	青森県		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
積算線量	<p>・蛍光ガラス線量計(RPLD)</p>	<p>測定法: 文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年)に準拠</p> <p>素子数: 地点当たり3個</p> <p>積算期間: 3箇月</p> <p>収納箱: 木製</p> <p>測定位置: 地上 1.8 m</p> <p>校正線源: <sup>137</sup>Cs</p>	<p>・同 左</p>	<p>測定法: 同 左</p>

(2) 環境試料中の放射能

項目	青森県		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
<p>大気浮遊じん中の全<math>\alpha</math>及び全<math>\beta</math>放射能</p>	<p>・ダストモニタ検出器 <math>\alpha</math>線、<math>\beta</math>線用 50 mm <math>\phi</math> ZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器</p>	<p>測定法: 文部科学省編「全ベータ放射能測定法」(昭和51年改訂)に準拠 連続測定 集じん時間: 168時間 計測時間: 集じん終了後72時間放置 1時間測定 集じん方法: ろ紙間けつ自動移動方式 ろ紙: 長尺ろ紙 (HE-40T) 大気吸引量: 約 100 l/分 吸引口位置: 地上 1.5~2.0 m 校正線源: <math>U_3O_8</math></p>	<p>・同左</p>	
<p>大気中の気体状<math>\beta</math>放射能</p>	<p>・<math>\beta</math>線ガスモニタ検出器 プラスチックシンチレーション検出器(350<math>\times</math>300<math>\times</math>0.5 mm<math>\times</math>2枚) 検出槽容量 約 30 l</p>	<p>測定法: 連続測定(1時間値) 大気吸引量: 約 6.5 l/分 吸引口位置: 地上 1.5~2.0 m 装置設置前の初期校正線源: <math>^{85}Kr</math> 装置設置後の定期校正線源: <math>^{137}Cs</math></p>	<p>測定法: 同左 大気吸引量: 同左 吸引口位置: 同左 装置設置前の初期校正線源: 同左 装置設置後の定期校正線源: <math>^{133}Ba</math></p>	

項目	青 森 県		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
機器放出核種 γ線分析	ゲルマニウム半導体検出器	測定法: 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリ」(平成4年改訂) 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和57年) 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂)に準拠 測定試料形態: 降下物 蒸発残留物 大気浮遊じん 3箇月分のろ紙の集積 河川水、湖沼水 <sup>※1</sup> } 蒸発残留物 水道水、井戸水 } 表土、河底土、 } 乾燥細土 湖底土 } 農畜産物 灰化物(牛乳中の <sup>131</sup> Iの測定では生試料) 指標生物 灰化物 海水、 } 共沈法による沈殿物 湖沼水 <sup>※2</sup> } 海底土 乾燥細土 海産物 灰化物 測定容器: U-8 容器、マリネリ容器 測定時間: 80,000 秒	同左	同左
	放射化学分析 <sup>3</sup> H	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置	測定法: 文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に準拠 測定容器: 145 ml バイアル 測定時間: 500 分(50 分、10 回測定)	同左
放射化学分析 <sup>14</sup> C	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置	測定法: 文部科学省編「放射性炭素分析法」(平成5年)のベンゼン合成法に準拠 測定容器: 3 ml バイアル 測定時間: 500 分(50 分、10 回測定)	同左	同左

※1: 小川原湖 ※2: 尾駁沼、鷹架沼

項目	森 青		森 青		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
放射化学分析 <sup>90</sup> Sr	・低バックグラウンド2πガス フロー計数装置	測定法: 文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」 (平成15年改訂) に準拠 測定容器: 25 mm φ ステンレススチール皿 測定時間: 60分	・同左	・同左	測定装置: 同左 測定時間: 同左	測定法: 文部科学省編「プルトニウム分 析法」(平成2年改訂) 文部科学省編「ウラン分析法」 (平成14年改訂) 文部科学省編「プルトニウム・ アメリカシウム逐次分析法」(平成 2年) に準拠
放射化学分析 <sup>239+240</sup> Pu <sup>234</sup> U、 <sup>235</sup> U、 <sup>238</sup> U <sup>241</sup> Am <sup>244</sup> Cm	・シリコン半導体検出器	測定法: 文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2 年改訂) 文部科学省編「ウラン分析法」(平成14年改 訂) 文部科学省編「アメリカシウム分析法」(平成2 年) に準拠 測定用電着板: 25 mm φ ステンレススチール製 測定時間: 90,000 秒	・同左	・同左	測定装置: 同左 測定時間: 同左	測定法: 文部科学省編「プルトニウム分 析法」(平成2年改訂) 文部科学省編「ウラン分析法」(平成14年改 訂) 文部科学省編「アメリカシウム分析法」(平成2 年) に準拠
放射化学分析 <sup>129</sup> I	・低バックグラウンド2πガス フロー計数装置	測定法: 文部科学省編「ヨウ素-129分析法」(平成8 年) に準拠 測定時間: 100分	・同左	・同左	測定装置: 同左 測定時間: 同左	測定法: 文部科学省編「プルトニウム分 析法」(平成2年改訂) 文部科学省編「ウラン分析法」(平成14年改 訂) 文部科学省編「アメリカシウム分析法」(平成2 年) に準拠

項目	森 青		森 青		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
機器分析 γ線放出核種 (大気中の <sup>131</sup> I)	・ゲルマニウム半導体検出器	測定法: 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8 年改訂) に準拠 測定試料形態: 活性炭吸着物 〔捕集材: 活性炭カートリッジ〕 大気吸引量: 約 50 ℓ/分 捕集時間: 168 時間 吸引口位置: 地上 1.5~2.0 m 測定容器: U-8 容器 測定時間: 80,000 秒	・同左	・同左	測定装置: 同左 測定時間: 同左	測定法: 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8 年改訂) に準拠



(3) 環境試料中のフッ素

項目	青森		県		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法	測定方法
大気中の気体状フッ素	測定装置 ・HFモニタ	測定装置	測定方法 測定周期:8時間 測定法:湿式捕集双イオン電極法	測定装置 ・同左	測定方法	測定方法
フッ素	測定装置 ・イオンメータ	測定装置	測定方法 測定法: 「JIS K 0102 工場排水試験方法」 「大気汚染物質測定法指針」 (昭和63年3月環境庁大気保全局) 「環境測定分析法註解」(昭和60年環境庁企画調整局研究調整課監修) 「底質試験方法とその解説」(昭和63年改訂環境庁水質保全局水質管理課編) 「衛生試験法・注解」(2005年日本薬学会編)に準拠	測定装置 ・同左	測定方法	測定方法

## (4) 気 象

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
風向・風速	・風向風速計[プロペラ型] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠 測定位置:地上約 10 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
気 温	・温度計[白金測温抵抗式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
降 水 量	・雨雪量計[転倒升方式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
感 雨	・感雨雪器[電極式]	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠 測定位置:地上約 2、6 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:地上約 2 m
積 雪 深	・積雪計[レーザー式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠 測定位置:地上約 3 m	・積雪計[超音波式] (気象庁検定付)	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
日 射 量	・日射計[熱電対式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠 測定位置:地上約 10 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
放射収支量	・放射収支計[熱電対式]	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
湿 度	・湿度計 [静電容量式](尾駁) [毛髪式](千歳平) (気象庁検定付)	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠 測定位置:地上約 2 m	・湿度計[静電容量式] (気象庁検定付)	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
大気安定度	—	測 定 法:指針 <sup>*</sup> に準拠	—	測 定 法:同 左

※:「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」(平成 13 年改訂 原子力安全委員会)

## (5) モニタリングカーによる測定

項 目	青 森 県	
	測 定 装 置	測 定 方 法
空間放射線量率	2" φ × 2" NaI(Tl)シンチレーション 検出器 (温度補償方式加温装置付) G(E)関数荷重演算方式	測 定 法: 定点測定 10 分間測定 走行測定 10 秒間の測定値を 500 m ごと に平均 走行速度 30~60 km/h 測定位置:地上 3.2 m (車両上)

## 3. 環境試料中の放射能測定対象核種

<sup>54</sup>Mn、<sup>60</sup>Co、<sup>106</sup>Ru、<sup>134</sup>Cs、<sup>137</sup>Cs、<sup>144</sup>Ce、<sup>7</sup>Be、<sup>40</sup>K、<sup>214</sup>Bi、<sup>228</sup>Ac、<sup>3</sup>H、<sup>14</sup>C、<sup>90</sup>Sr、<sup>239+240</sup>Pu、U、<sup>241</sup>Am、<sup>244</sup>Cm、<sup>129</sup>I、<sup>131</sup>I

なお、<sup>214</sup>Bi、<sup>228</sup>Ac については、土試料のみとする。

上記核種以外で次の核種が検出された場合は、報告書の備考欄に記載する。

<sup>51</sup>Cr、<sup>59</sup>Fe、<sup>58</sup>Co、<sup>65</sup>Zn、<sup>95</sup>Zr、<sup>95</sup>Nb、<sup>103</sup>Ru、<sup>125</sup>Sb、<sup>140</sup>Ba、<sup>140</sup>La、<sup>154</sup>Eu

#### 4. 数値の取扱方法

##### (1) 空間放射線量率

単 位	表 示 方 法
nGy/h	整数で示す。

##### (2) 積算線量

単 位	表 示 方 法
$\mu$ Gy/91 日 $\mu$ Gy/365 日	3 箇月積算線量は、測定期間の測定値を 91 日当りに換算し、整数で示す。 年間積算線量は、各期間の測定値を合計した後、365 日当りに換算し、整数で示す。

##### (3) 大気浮遊じん中の全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能

単 位	表 示 方 法
mBq/m <sup>3</sup>	有効数字 2 桁で示す。 測定値がその計数誤差の 3 倍以下の場合検出限界以下とし「*」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「*」と表示する。

##### (4) 大気中の気体状 $\beta$ 放射能

単 位	表 示 方 法
kBq/m <sup>3</sup>	クリプトン-85 換算濃度として、有効数字 2 桁で示す。最小位は 1 位。 定量下限値は「2 kBq/m <sup>3</sup> 」とし、定量下限値未満は「ND」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。

##### (5) 環境試料中の放射性核種

試 料	単 位	表 示 方 法	
大 気 浮 遊 じ ん	mBq/m <sup>3</sup>	有効数字 2 桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表 1 に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。 計数誤差は記載しない。	
大 気	(水蒸気状 トリチウム)		mBq/m <sup>3</sup> (大気中濃度)
	(ヨウ素)		Bq/ℓ (水分中濃度)
			mBq/m <sup>3</sup>
降 下 物	Bq/m <sup>2</sup>		
雨 水	Bq/ℓ		
河川水、湖沼水、水道水、井戸水、海水	mBq/ℓ ( <sup>3</sup> H は Bq/ℓ)		
河底土、湖底土、表土、海底土	Bq/kg 乾		
農畜産物、淡水産食品、海産食品、指標生物	Bq/kg 生 (牛乳は Bq/ℓ、魚類の <sup>3</sup> H は Bq/kg 生及び Bq/ℓ、 <sup>14</sup> C の比放射能は Bq/g 炭素)		

(6) 環境試料中のフッ素

試料	単位	表示方法
大気	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	有効数字2桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表2に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。
大気(気体状フッ素:HFモニタ)	ppb	
河川水、湖沼水	mg/l	
河底土、湖底土、表土	mg/kg乾	
農畜産物、淡水産食品	mg/kg生 (牛乳はmg/l)	

・大気：粒子状フッ素及びガス状フッ素の合計。

別表2 環境試料中のフッ素の定量下限値

試料	単位	定量下限値
大気	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.03
大気(気体状フッ素:HFモニタ)	ppb	0.04
河川水、湖沼水	mg/l	0.1
河底土、湖底土、表土	mg/kg乾	5
農畜産物、淡水産食品	mg/kg生 (牛乳はmg/l)	0.1

・大気：粒子状フッ素及びガス状フッ素の合計。

別表1 環境試料中の放射性核種の定量下限値

試料	単位	線放出核種										$^3\text{H}$	$^{14}\text{C}$	$^{90}\text{Sr}$	$^{129}\text{I}$	$^{131}\text{I}$	$^{239-240}\text{Pu}$	U	$^{241}\text{Am}$	$^{244}\text{Cm}$	備考		
		$^{51}\text{Mn}$	$^{60}\text{Co}$	$^{106}\text{Ru}$	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^{144}\text{Ce}$	$^{7}\text{Be}$	$^{40}\text{K}$	$^{210}\text{Bi}$	$^{228}\text{Ac}$												
大気	$\text{mBq}/\text{m}^3$	0.02	0.02	0.2	0.02	0.02	0.1	0.2	0.3	-	-	-	-	-	0.004	-	-	-	-	-	-	-	
大気(水蒸気状)	$\text{mBq}/\text{m}^3$ (大気中濃度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大気(トリチウム)	$\text{Bq}/\text{l}$ (水中濃度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大気(ヨウ素)	$\text{mBq}/\text{m}^3$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
降下物	$\text{Bq}/\text{m}^2$	0.2	0.2	2	0.2	0.2	1	2	4	-	-	-	-	-	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-
雨水	$\text{Bq}/\text{l}$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
河川水、湖沼水 <sup>*1</sup> 、水道水、井戸水	$\text{mBq}/\text{l}$	6	6	60	6	6	30	100	100	-	-	-	-	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-
海水、湖沼水 <sup>*2</sup>	( $^3\text{H}$ は $\text{Bq}/\text{l}$ )	6	6	60	6	6	30	100	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
河底土、海底土、表土	$\text{Bq}/\text{kg}$ 乾	3	3	20	3	3	8	30	40	8	15	-	-	-	0.4	5	-	-	-	-	-	-	-
湖底土	$\text{Bq}/\text{kg}$ 乾	4	4	30	4	4	15	40	60	10	20	-	-	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-
農畜産物、淡水産食品、海産食品、指標生物	$\text{Bq}/\text{kg}$ 生 (牛乳は $\text{Bq}/\text{l}$ 、魚類の $^3\text{H}$ は $\text{Bq}/\text{kg}$ 生及び $\text{Bq}/\text{l}$ )	0.4	0.4	4	0.4	0.4	1.5	6	6	-	-	-	-	-	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-
	$\text{Bq}/\text{g}$ 炭素	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.004	-	-	-	-	-	-	-	-

※1：小川原湖 ※2：尾駸沼、鷹架沼

・Uは $^{234}\text{U}$ 、 $^{235}\text{U}$ 及び $^{238}\text{U}$ の合計。

・魚類(ヒラメ等)中の $^3\text{H}$ は、自由水中の $^3\text{H}$ 。

## 5. 試料の採取方法等

試料	採取方法等
大気浮遊じん	ろ紙 (HE-40T) に集じんする
大気中の水蒸気状トリチウム	モレキュラーシーブ等に捕集する。
大気中のヨウ素	活性炭カートリッジに捕集する。
大気中のフッ素	メンブランフィルター及びアルカリろ紙に捕集する。
降下物	大型水盤で採取する。
雨水	降水採取器で採取する。
河川水、湖沼水	表面水を採取する。
水道水、井戸水	給水栓等から採取する。
河底土、湖底土	表面底質を採泥器等により採取する。
表土	表層 (0~5 cm) を採土器により採取する。
牛乳	原乳を採取する。
精米	モミ又は玄米を精米して試料とする。
ハクサイ、キャベツ	葉部を試料とする。
ダイコン、ナガイモ、バレイショ	外皮を除き、ダイコン及びナガイモは根部を、バレイショは塊茎部を試料とする。
牧草	地上約 10 cm の位置で刈り取る。
松葉	二年生葉を採取する。
海水	表面海水を採取する。
海底土	表面底質を採泥器により採取する。
ワカサギ、ヒラツメガニ	全体を試料とする。
ヒラメ、カレイ、イカ	頭、骨、内臓を除き、可食部を試料とする。
アワビ	貝殻、内臓を除き、軟体部を試料とする。
ホタテ、シジミ、ムラサキイガイ等	貝殻を除き、軟体部を試料とする。
コンブ、チガイソ	根を除く全体を試料とする。
ウニ	殻を除き、可食部を試料とする。



5. 空間放射線等測定地点図  
及び環境試料の採取地点図

図1 空間放射線量等測定地点図

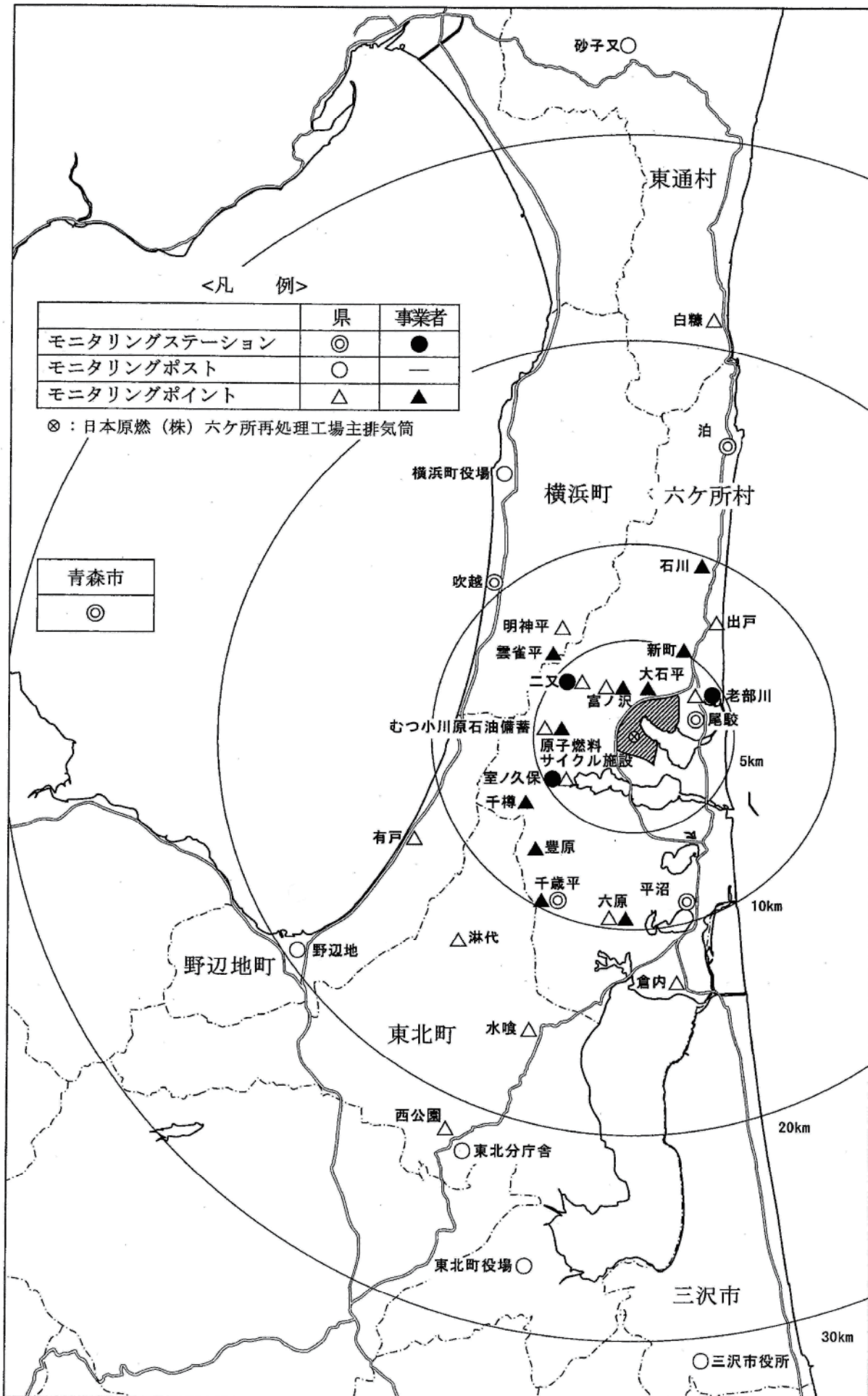




図2 環境試料の採取地点図

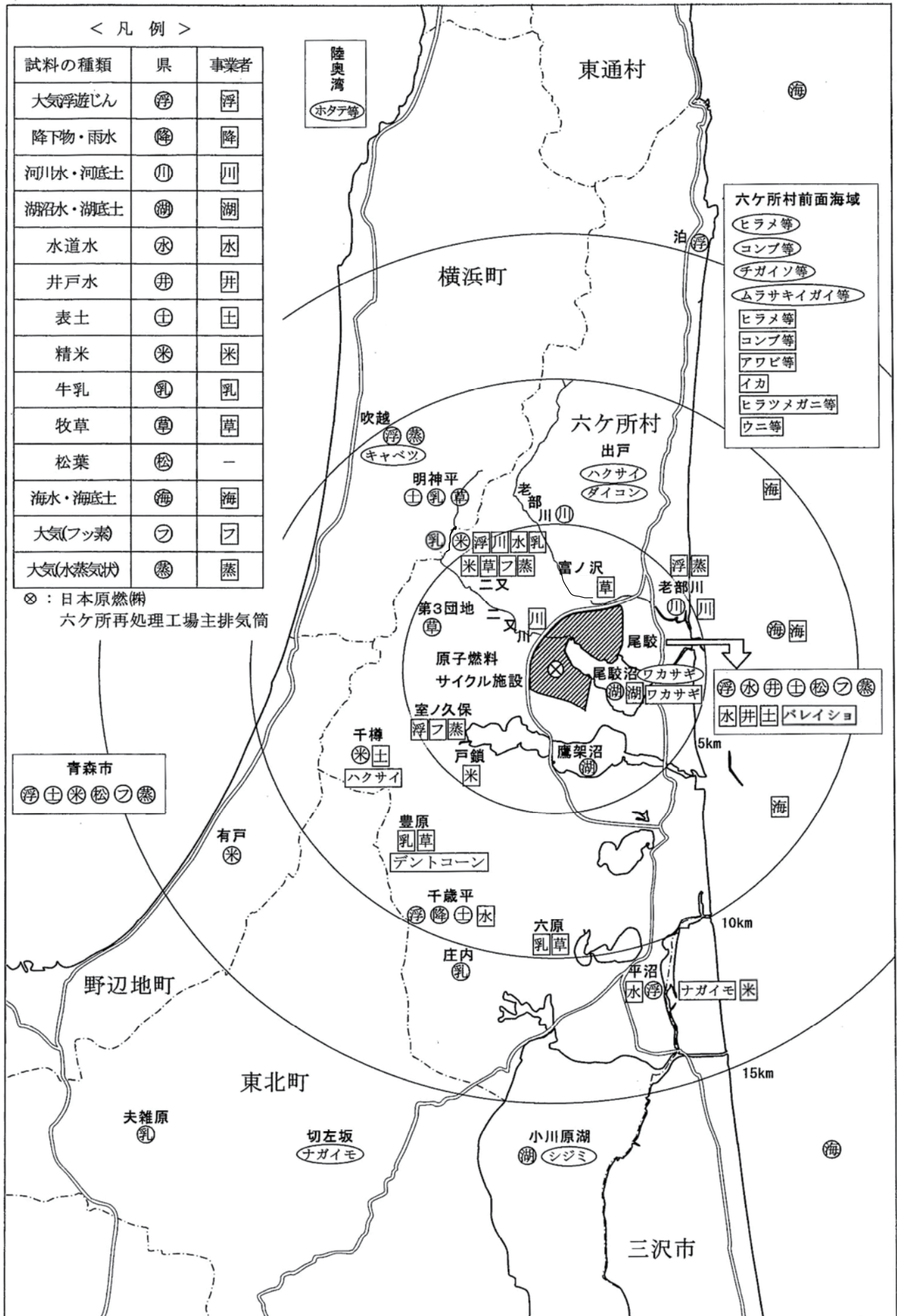
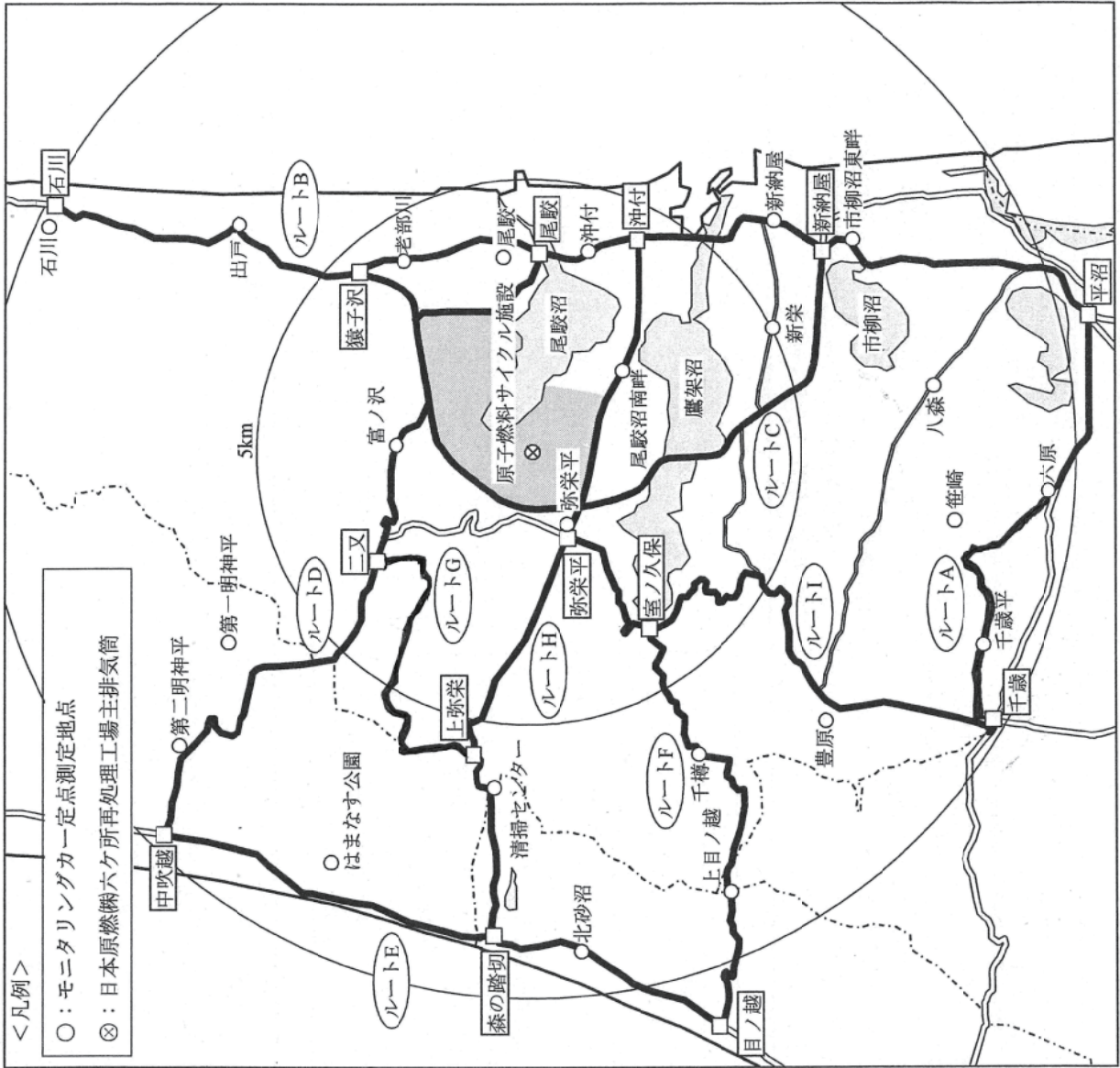


図3 モニタリングカーの定点測定地点及び走行測定ルート

区分	測定地点		頻度	項目
	市町村	地点名		
区	市町村	石川	四半期毎	空間放射線量率
		出戸		
定	六ヶ所村	老部川	毎	空間放射線量率
		尾駮		
		沖付		
		新納屋		
		新栄		
		市柳沼東畔		
		八森		
		六原		
		笹崎		
		千歳平		
		豊原		
		千樽		
		尾駮沼南畔		
		弥栄平		
		清掃センター		
		富ノ沢		
横	浜町	第一明神平	毎	空間放射線量率
		第二明神平		
野	辺地町	はまなす公園	毎	空間放射線量率
		上目ノ越		
走	青森市	北砂沼	毎	空間放射線量率
		青森市		
		(ルートA)千歳～平沼		
		(ルートB)平沼～石川		
		(ルートC)猿子沢～新納屋		
		(ルートD)尾駮～中吹越		
		(ルートE)中吹越～目ノ越		
		(ルートF)目ノ越～室ノ久保		
		(ルートG)二又～上弥栄		
		(ルートH)森の踏切～沖付		
(ルートD)弥栄平～千歳				



# 東 通 原 子 力 発 電 所

<b>表中の記号</b> (資料 3. 東通原子力発電所の運転状況を除く)	
-	モニタリング対象外を示す。
△	今四半期の分析対象外を示す。
ND	定量下限値未満を示す。分析室等で実施する環境試料中放射性核種の分析測定については、測定条件や精度を一定の水準に保つため、試料・核種毎に定量下限値を定めている(東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施要領 4.数値の取扱方法(5)別表 1 参照)。
*	検出限界以下を示す。モニタリングステーションにおいて自動的に採取・測定している大気浮遊じん中の全ベータ放射能については、測定条件(採取空気量等)が変動するため、測定値が計数誤差の3倍以下の場合を検出限界以下としている。
#	平常の変動幅を外れた測定値を示す。

# 1 調査概要

## (1)実施者

青森県原子力センター  
東北電力株式会社

## (2)期間

平成 28 年 10 月～12 月(平成 28 年度第 3 四半期)

## (3)内容

調査内容は、表 1-1、表 1-2(1)及び表 1-2(2)に示すとおりである。

## (4)測定方法

『東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施要領』による(「資料」参照)。

表 1-1 空間放射線

測定項目		測定頻度	地点数			
			区分	青森県	事業者	
空間放射線量率	モニタリングステーション	連続	施設周辺地域	3	—	
	モニタリングポスト	連続	施設周辺地域	8	2	
	モニタリングカー	定点測定	1回/3箇月	施設周辺地域	9	—
		走行測定	1回/3箇月	施設周辺地域	4ルート	—
RPLDによる積算線量		3箇月積	施設周辺地域	18	6	
			比較対照(むつ市川内町)	1	—	

表 1-2(1) 環境試料中の放射能(モニタリングステーション)

試料の種類		測定頻度	地点数	
			青森県	
			全β放射能	ヨウ素-131
施設周辺地域	大気浮遊じん	1回/3時間	3	—
	大気	1回/週	—	3

- モニタリングステーション  
空間放射線量率測定器、ダストモニタ等の連続モニタ及び積算線量計を備えた野外測定設備
- モニタリングポスト  
空間放射線量率測定器及び積算線量計を備えた野外測定設備
- モニタリングポイント  
積算線量計を備えた野外測定設備

表1-2(2) 環境試料中の放射能及びフッ素(機器分析等)

試料の種類			青森県					事業者						
			地 点 数	検体数					地 点 数	検体数				
				γ 線 放 出 核 種	ヨ ウ 素   131	ト リ チ ウ ム	スト ロン チ ウ ム   90	プ ル ト ニ ウ ム		γ 線 放 出 核 種	ヨ ウ 素   131	ト リ チ ウ ム	スト ロン チ ウ ム   90	
陸 上 試 料	大気浮遊じん		3	9	-	-	-	-	2	6	-	-	-	
	降下物		1	3	-	-	△	△	1	3	-	-	△	
	河川水		1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	水道水		4	4	-	4	-	-	3	3	-	3	-	
	井戸水		△	△	-	△	-	-	△	△	-	△	-	
	表土		△	△	-	-	-	△	△	△	-	-	-	
	精米		2	2	-	-	2	-	2	2	-	-	2	
	野菜	バレイショ		△	△	-	-	△	-	△	△	-	-	△
		ダイコン		2	2	-	-	2	-	1	1	-	-	1
		ハクサイ、キャベツ		△	△	△	-	△	-	2	2	2	-	2
		アブラナ		△	△	△	-	△	-	-	-	-	-	-
	牛乳(原乳)		2	2	2	-	2	-	2	2	2	-	2	
	牛肉		△	△	-	-	△	-	-	-	-	-	-	
	牧草		△	△	△	-	-	-	△	△	-	-	-	
指標生物	松	葉	1	1	-	-	1	-	2	2	1	-	2	
海 洋 試 料	海		水	△	△	-	△	-	-	2	2	-	2	-
	海底		土	△	△	-	-	-	△	△	△	-	-	-
	海産類	魚類	ヒラメ	2	2	-	-	2	-	△	△	-	-	△
			カサゴ	2	2	-	-	2	-	△	△	-	-	△
		貝類	ホタテ	1	1	-	-	1	1	△	△	-	-	△
			アワビ	1	1	-	-	1	1	△	△	-	-	△
	海藻類	コンブ	△	△	△	-	△	△	1	1	1	-	1	
		その他	タウニ	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	指標生物	チガイソ		-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1
		ムラサキイガイ		△	△	-	-	△	△	-	-	-	-	-
(むつ比較対照内町)	表土		△	△	-	-	-	△	-	-	-	-	-	
	指標生物	松	葉	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	
計			21	29	2	5	12	1	19	25	6	5	11	
				49						47				

・プルトニウムはプルトニウム-239+240である。

## 2 調査結果

平成 28 年度第 3 四半期(平成 28 年 10 月～12 月)における環境放射線の調査結果は、これまでと同じ水準<sup>※1</sup>であった。

東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

### (1) 空間放射線

モニタリングステーション、モニタリングポスト及びモニタリングカーによる空間放射線量率測定並びに RPLD(蛍光ガラス線量計)による積算線量測定を実施した。

#### ① 空間放射線量率(NaI)

##### (a) モニタリングステーション(図 2-1)及びモニタリングポスト(図 2-2)

各測定局における今四半期の平均値は 17 ～ 25 nGy/h、最大値は 47 ～ 101 nGy/h、最小値は 14 ～ 20 nGy/h であり、月平均値は 17 ～ 26 nGy/h であった。

平常の変動幅<sup>※2</sup>を上回った測定値は、すべて降雨等<sup>※3</sup>によるものと考えられる。このうち、砂子又局、古野牛川局、尻労局、桜木町局及び関根局において過去の測定値<sup>※4</sup>の範囲を上回った測定値があったが、降雨雪とともに落下した天然放射性核種の影響と考えられる。

##### (b) モニタリングカー(図 2-3)

定点測定における測定値は 11 ～ 20 nGy/h、走行測定における測定値は 11 ～ 22 nGy/h であり、過去の測定値<sup>※4</sup>の範囲内であった。

#### ② RPLD による積算線量(図 2-4)

測定値は 86 ～ 107  $\mu$  Gy/91 日 であり、すべて平常の変動幅の範囲内であった。

---

※1:「(概ね)これまでと同じ水準」

・「これまでと同じ水準」は、測定結果について、平常の変動幅の範囲内である場合及び範囲を外れた要因が、降雨、降雪等の気象要因、医療・産業に用いる放射性同位元素の影響等と判断される場合を示す。  
・「概ねこれまでと同じ水準」は、県内外の原子力施設からの影響により、一部の測定値が平常の変動幅を上回ったが、全体的にはこれまでと同じ水準(住民等の線量が法令に定める周辺監視区域外の線量限度(年間 1 ミリシーベルト)を十分に下回るような水準にあること)と判断される場合を示す。

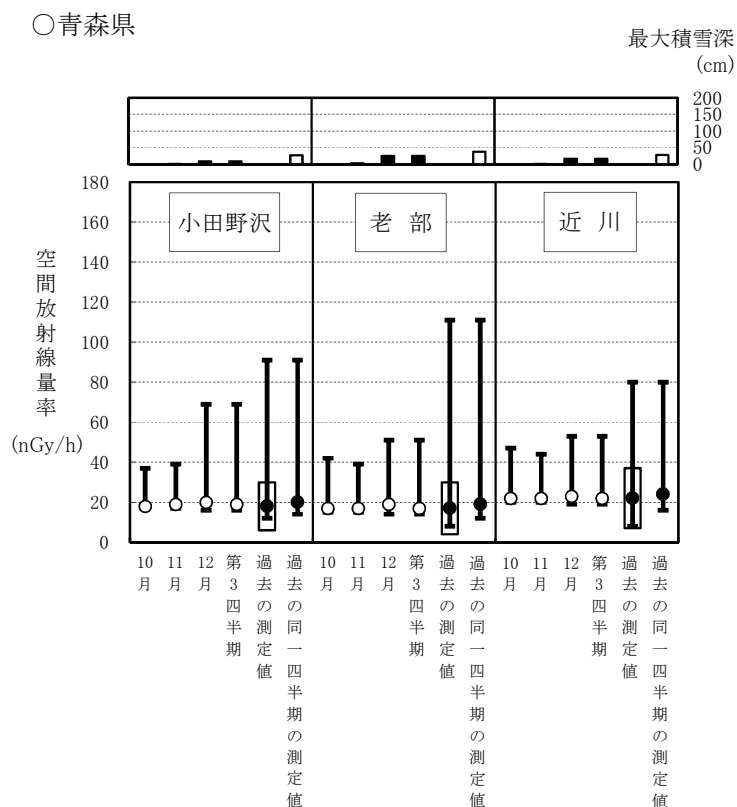
※2:「平常の変動幅」は空間放射線量率(モニタリングステーション及びモニタリングポスト)については「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の 3 倍)」。RPLD による積算線量については「過去の測定値」の「最小値～最大値」。

※3:「降雨等」とは、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などである。空間放射線量率は、降雨雪時に雨や雪に取り込まれて地表面に落下したラドンの変換生成物の影響により上昇し、積雪により大地からの放射線が遮へいされることにより低下する。また、医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響により測定値が上昇することがある。

※4:「過去の測定値」は、空間放射線については前年度までの 5 年間(平成 23～27 年度)の測定値。



図2-1 モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

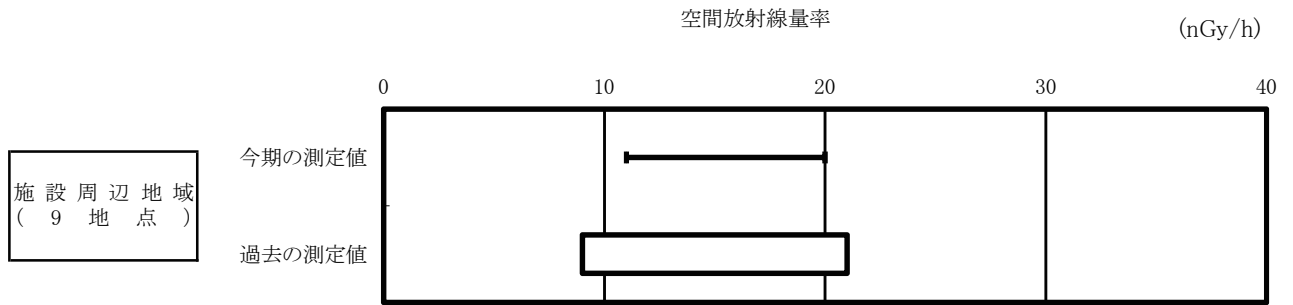


凡例	過去の測定値の最大値とその測定年月	
	測定局	測定年月
<p>測定値は1時間値。</p> <p>過去の測定値 平成23～27年度の測定値。</p> <p>平常の変動幅 平成23～27年度の測定値の「平均値±(標準偏差の3倍)」。</p> <p>過去の同一四半期の測定値 平成23～27年度の測定値のうち、同一四半期の測定値。</p> <p>ただし、小田野沢局については平成27年度の測定値。</p>	小田野沢	平成27年12月
	老部	平成27年12月
	近川	平成27年12月
	いずれも降雨等によるものと考えられる。	

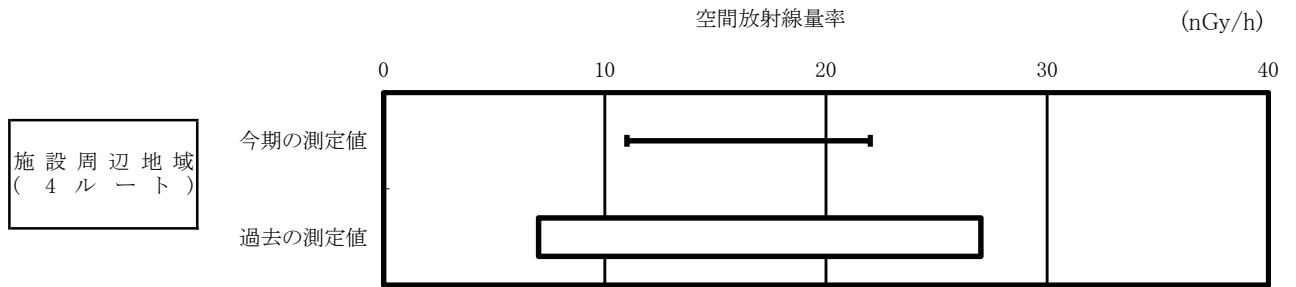


図2-3 モニタリングカーによる空間放射線量率測定結果

○定点測定



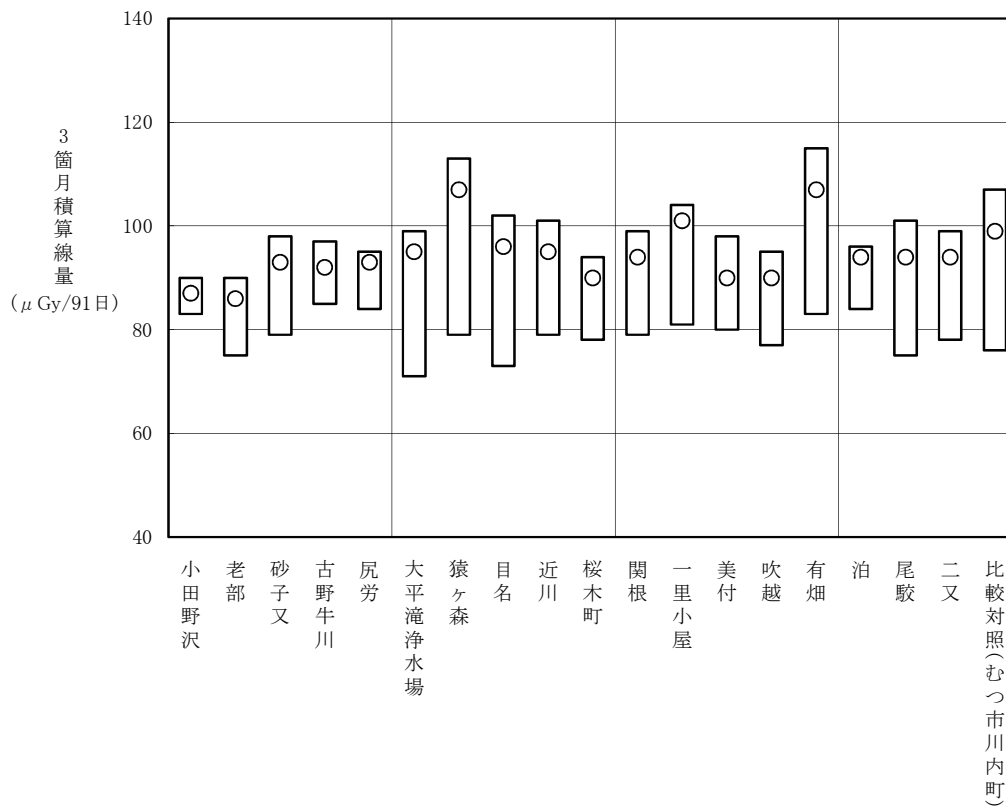
○走行測定



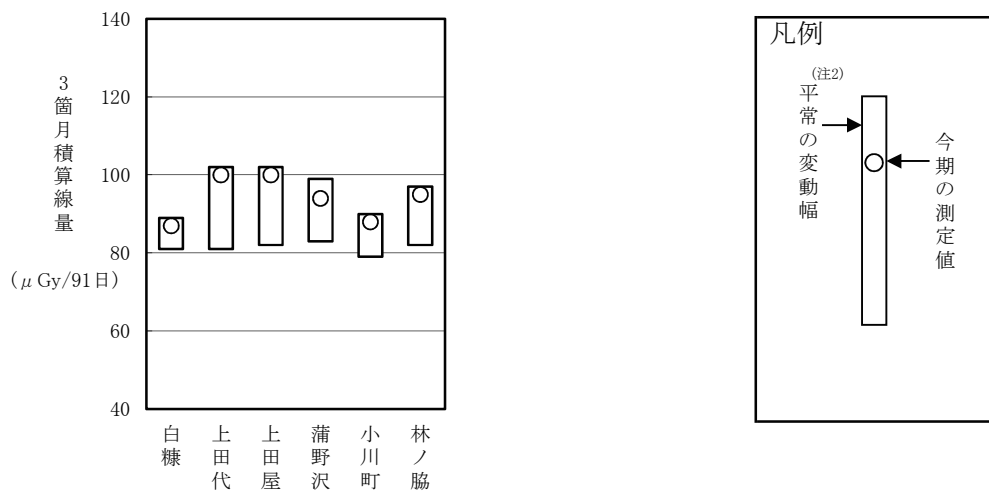
凡例		測定値
今期の測定値	→	最小値 最大値
過去の測定値	→	過去23～27年度の測定値
		測定値については10分値。 走行測定については500 m毎の平均値。
		過去23～27年度の測定値。

図2-4 RPLDによる積算線量測定結果<sup>(注1)</sup>

○青森県



○事業者



(注1) 測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。

(注2) 「平常の変動幅」は平成23～27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

ただし、小田野沢及び泊については平成27年度、古野牛川、尻労及び桜木町については平成25～27年度、白糠については平成26～27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

## (2) 環境試料中の放射能

大気浮遊じん中の全 $\beta$  (ベータ)放射能測定、大気中のヨウ素-131 測定、機器分析及び放射化学分析を実施した。

① 大気浮遊じん中の全 $\beta$ 放射能測定<sup>※5</sup>(表 2-1)

測定値は 0.14 ~ 5.7 Bq/m<sup>3</sup> であり、平常の変動幅<sup>※6</sup>の範囲内であった。

② 大気中のヨウ素-131 測定(表 2-2)

測定値はこれまでと同様にすべて ND であった。

③ 機器分析及び放射化学分析

$\gamma$  (ガンマ)線放出核種及びヨウ素-131 については、ゲルマニウム半導体検出器による機器分析を、トリチウム、ストロンチウム-90 及びプルトニウムについては、放射化学分析を実施した。

○  $\gamma$ 線放出核種分析(表 2-3)

セシウム-137 の測定値は、すべて ND であり、平常の変動幅の範囲内であった。

その他の人工放射性核種についても、すべて ND であった。

○ ヨウ素-131 分析(表 2-4)

測定値はすべて ND であり、平常の変動幅の範囲内であった。

○ トリチウム分析(表 2-5)

測定値はすべて ND であり、平常の変動幅の範囲内であった。

○ ストロンチウム-90 分析(表 2-6)

ダイコンが ND ~ 0.21 Bq/kg 生、ハクサイ・キャベツが 0.08、0.13 Bq/kg 生、松葉が 0.05 ~ 4.0 Bq/kg 生、その他はすべて ND であり、平常の変動幅の範囲内であった。

○ プルトニウム分析(表 2-7)

アワビが 0.014 Bq/kg 生であり、平常の変動幅の範囲内であった。

---

※5:3時間集じん終了直後10分間測定。

※6:「平常の変動幅」は、環境試料中の放射能については、調査を開始した年度から前年度までの測定値の「最小値～最大値」。

表2-1 大気浮遊じん中の全β放射能測定結果

(単位:Bq/m<sup>3</sup>)

実施者	測定局	測定値	平常の変動幅
青森県	小田野沢	0.18 ~ 4.4	* ~ 9.1
	老部	0.18 ~ 4.6	0.012 ~ 9.9
	近川	0.14 ~ 5.7	* ~ 12

・3時間集じん終了直後10分間測定。

・「平常の変動幅」は平成15～27年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2-2 大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

実施者	測定局	定量下限値	測定値	平常の変動幅
青森県	小田野沢	20	ND	ND
	老部		ND	ND
	近川		ND	ND

・「平常の変動幅」は平成15～27年度の測定値の「最小値～最大値」。

表2-3 γ線放出核種分析結果

試料の種類			単位	定量 下限値	セシウム - 137					
					青森県		事業者		平常の変動幅	
					検体数	測定値	検体数	測定値		
陸 上 試 料	大気浮遊じん		mBq/m <sup>3</sup>	0.02	9	ND	6	ND	ND	
	降下物(月間)		Bq/m <sup>2</sup>	0.2	3	ND	3	ND	ND ~ 0.2	
	河川水		mBq/l	6	1	ND	-	-	ND	
	水道水				4	ND	3	ND	ND	
	井戸水				△	△	△	△	ND	
	表土		Bq/kg乾	3	△	△	△	△	ND ~ 47	
	精米		Bq/kg生	0.4	2	ND	2	ND	ND	
	野菜	バレイショ			△	△	△	△	ND ~ 0.5	
		ダイコン			2	ND	1	ND	ND	
		ハクサイ、キャベツ			△	△	2	ND	ND	
	アブラナ		△	△	-	-	ND			
	牛乳(原乳)		Bq/l	0.4	2	ND	2	ND	ND	
	牛肉		Bq/kg生	0.4	△	△	-	-	ND	
	牧草				△	△	△	△	ND ~ 2.8	
指標生物	松葉	1			ND	2	ND	ND		
海 洋 試 料	海水		mBq/l	6	△	△	2	ND	ND	
	海底土		Bq/kg乾	3	△	△	△	△	ND	
	海産食品	ヒラメ、カレイ、ウスメバル、コウナゴ、アイナメ		Bq/kg生	0.4	2	ND	△	△	ND
		ホタテ、アワビ				1	ND	△	△	ND
		コンブ				△	△	1	ND	ND
	タコ		1			ND	-	-	ND	
	ウニ		-			-	△	△	ND	
	指標生物	チガイソ				-	-	1	ND	ND
		ムラサキイガイ		△	△	-	-	ND		
比較対照 (市内町)	表土		Bq/kg乾	3	△	△	-	-	7 ~ 11	
	指標生物	松葉	Bq/kg生	0.4	1	ND	-	-	ND	
計			-	-	29	-	25	-	-	

・測定対象核種はマンガン-54、鉄-59、コバルト-58、コバルト-60、セシウム-134、セシウム-137、ベリリウム-7、カリウム-40、ビスマス-214、アクチニウム-228。

・「平常の変動幅」は平成 15~27 年度の測定値の「最小値~最大値」。「ヒラメ、カレイ、ウスメバル、コウナゴ、アイナメ」及び「ホタテ、アワビ」については平成元~27 年度の測定値の「最小値~最大値」。ただし、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる測定値については平常の変動幅の設定に用いていない(平成 22 年度報 付 10、平成 23 年度報 付 16、平成 24 年度報 付 10、平成 25 年度報 付 7 及び平成 26 年度報 付 5 参照)

表2-4 ヨウ素-131 分析結果

試料の種類		単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅	
				検体数	測定値	検体数	測定値		
陸上試料	野菜	ハクサイ、キャベツ	Bq/kg 生	0.4	△	△	2	ND	ND
		アブラナ			△	△	-	-	ND
	牛乳（原乳）		Bq/l	0.4	2	ND	2	ND	ND
	牧草		Bq/kg 生	0.4	△	△	-	-	ND
	指標生物	松葉			-	-	1	ND	ND
海洋試料	海産食品	コンブ	Bq/kg 生	0.4	△	△	1	ND	ND
計		-	-	2	-	6	-	-	

・「平常の変動幅」は平成 15～27 年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる測定値については平常の変動幅の設定に用いていない(平成 23 年度報 付 16 参照)。

表2-5 トリチウム分析結果

試料の種類		単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の 変動幅	参 考	
				検体数	測定値	検体数	測定値		過去の測定 値の範囲	
陸上試料	河川水		Bq/l	2	1	ND	-	-	ND	ND
	水道水				4	ND	3	ND	ND	ND
	井戸水				△	△	△	△	ND	ND
海洋試料	海水				△	△	2	ND	ND	ND ~ 4
計		-	-	5	-	5	-	-	-	

・「平常の変動幅」は平成 15～27 年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、再処理工場のアクティブ試験による影響が考えられる測定値については、平常の変動幅の設定に用いていない。

・「過去の測定値の範囲」は平成 15～27 年度の測定値の「最小値～最大値」(再処理工場のアクティブ試験の影響と考えられるものを含む)。



表2-6 スロンチウム-90 分析結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青 森 県		事 業 者		平常の変動幅		
			検体数	測定値	検体数	測定値			
陸 上 試 料	降下物(年間)	Bq/m <sup>2</sup>	0.08	△	△	△	△	ND ~ 0.23	
	精 米	Bq/kg 生	0.04	2	ND	2	ND	ND	
	野			バレイショ	△	△	△	△	ND ~ 0.06
				ダイコン	2	0.08, 0.21	1	ND	ND ~ 0.27
				ハクサイ、キャベツ	△	△	2	0.08, 0.13	ND ~ 0.29
	菜			アブラナ	△	△	-	-	0.09 ~ 0.56
	牛乳(原乳)	Bq/l	0.04	2	ND	2	ND	ND ~ 0.06	
	牛 肉	Bq/kg 生	0.04	△	△	-	-	ND	
指標生物 松 葉	1			0.05	2	1.3, 4.0	0.04 ~ 5.3		
海 洋 試 料	海 産 食 品	ヒラメ、カレイ、 ウスマバル、コウ ナゴ、アイナメ	Bq/kg 生	0.04	2	ND	△	△	ND
					1	ND	△	△	ND
	品	ホタテ、アワビ	△	△	1	ND	ND		
		コ ン ブ	△	△	1	ND	ND		
		タ コ	1	ND	-	-	ND		
	指 標 生 物	ウ ニ	-	-	△	△	ND		
		チ ガ イ ソ	-	-	1	ND	ND ~ 0.05		
ムラサキイガイ	△	△	-	-	ND				
比較対照 (むつ市川内町)	指標生物	松 葉	Bq/kg 生	0.04	1	0.61	-	-	0.32 ~ 1.9
計		-	-	12	-	11	-	-	

・「平常の変動幅」は平成 15~27 年度の測定値の「最小値~最大値」。「ヒラメ、カレイ、ウスマバル、コウナゴ、アイナメ」及び「ホタテ、アワビ」については平成元~27 年度の測定値の「最小値~最大値」。ただし、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる測定値については平常の変動幅の設定に用いていない(平成 23 年度報付 16 参照)。

表2-7 プルトニウム分析結果

試料の種類	単位	定量 下限値	青 森 県		平常の変動幅		
			検体数	測定値			
陸 上 試 料	降下物(年間)	Bq/m <sup>2</sup>	0.004	△	△	ND ~ 0.011	
	表 土	Bq/kg 乾	0.04	△	△	ND ~ 0.12	
海 洋 試 料	海 底 土	Bq/kg 乾	0.04	△	△	0.27 ~ 0.88	
	海 産 食 品	ホタテ、アワビ	Bq/kg 生	0.002	1	0.014	ND ~ 0.023
		コ ン ブ			△	△	ND ~ 0.004
		指 標 生 物			ムラサキイガイ	△	△
比較対照 (むつ市川内町)	表 土	Bq/kg 乾	0.04	△	△	0.10 ~ 0.17	
計		-	-	1	-	-	

・プルトニウムはプルトニウム-239+240。

・「平常の変動幅」は平成 15~27 年度の測定値の「最小値~最大値」。「ホタテ、アワビ」については平成元~27 年度の測定値の「最小値~最大値」。



# 資 料

核種の記号及び名称

$^3\text{H}$ , H-3	: トリチウム
$^7\text{Be}$ , Be-7	: ベリリウム-7
$^{40}\text{K}$ , K-40	: カリウム-40
$^{54}\text{Mn}$ , Mn-54	: マンガン-54
$^{59}\text{Fe}$ , Fe-59	: 鉄-59
$^{58}\text{Co}$ , Co-58	: コバルト-58
$^{60}\text{Co}$ , Co-60	: コバルト-60
$^{90}\text{Sr}$ , Sr-90	: スロンチウム-90
$^{131}\text{I}$ , I-131	: ヨウ素-131
$^{134}\text{Cs}$ , Cs-134	: セシウム-134
$^{137}\text{Cs}$ , Cs-137	: セシウム-137
$^{214}\text{Bi}$ , Bi-214	: ビスマス-214
$^{228}\text{Ac}$ , Ac-228	: アクチニウム-228
$^{239+240}\text{Pu}$ , Pu-239+240	: プルトニウム-239+240

## 1. 青森県実施分測定結果



(1)空間放射線量率測定結果

① モニタリングステーションによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
小田野沢	10月	18	37	17	2.4	8	0	8	6~30 (18±12)	12~91	14~91 (20)	
	11月	19	39	17	2.6	8	0	8				
	12月	20	69	16	6.8	56	0	56				
	第3四半期	19	69	16	4.6	72	0	72				
老部	10月	17	42	15	2.9	8	0	8	4~30 (17±13)	8~111	12~111 (19)	
	11月	17	39	15	2.7	5	0	5				
	12月	19	51	14	5.9	52	0	52				
	第3四半期	17	51	14	4.2	65	0	65				
近川	10月	22	47	20	2.9	6	0	6	7~37 (22±15)	8~80	16~80 (24)	
	11月	22	44	20	2.4	3	0	3				
	12月	23	53	19	5.6	31	0	31				
	第3四半期	22	53	19	4.0	40	0	40				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は平成23~27年度の測定値の「最小値~最大値」。  
ただし、小田野沢局については平成27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考) モニタリングステーションによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
小田野沢	10月	57	74	55	2.4	
	11月	57	76	55	2.6	
	12月	59	105	55	6.5	
	第3四半期	58	105	55	4.4	
老 部	10月	56	78	53	2.8	
	11月	56	76	54	2.7	
	12月	58	88	53	5.6	
	第3四半期	57	88	53	4.1	
近 川	10月	60	82	57	2.7	
	11月	60	80	58	2.4	
	12月	62	90	57	5.2	
	第3四半期	61	90	57	3.8	

・測定値は1時間値。

・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。



②モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
砂子又	10月	22	38	20	2.2	5	0	5	8~34 (21±13)	9~85	13~85 (23)	
	11月	22	40	20	2.6	6	0	6				
	12月	24	93	18	8.3	59	0	59				
	第3四半期	22	93	18	5.3	70	0	70				
古野牛川	10月	20	38	19	1.8	4	0	4	7~31 (19±12)	9~79	12~79 (21)	
	11月	20	39	19	2.1	5	0	5				
	12月	22	84	17	7.0	66	0	66				
	第3四半期	21	84	17	4.4	75	0	75				
尻 労	10月	20	40	19	2.0	6	0	6	9~31 (20±11)	11~71	14~69 (21)	
	11月	20	38	18	2.3	6	0	6				
	12月	22	73	17	6.7	62	0	62				
	第3四半期	21	73	17	4.3	74	0	74				
桜木町	10月	18	38	16	2.9	9	0	9	1~31 (16±15)	6~95	8~95 (19)	
	11月	18	42	16	2.9	9	0	9				
	12月	19	101	14	7.5	43	0	43				
	第3四半期	18	101	14	5.0	61	0	61				
関 根	10月	23	38	21	1.9	3	0	3	10~34 (22±12)	10~78	15~78 (24)	
	11月	23	40	21	2.3	5	0	5				
	12月	25	92	20	7.6	56	0	56				
	第3四半期	24	92	20	4.8	64	0	64				
吹 越	10月	23	38	22	2.2	4	0	4	10~34 (22±12)	10~93	14~93 (24)	
	11月	24	50	22	3.3	21	0	21				
	12月	25	46	20	4.8	55	0	55				
	第3四半期	24	50	20	3.6	80	0	80				
泊	10月	23	42	21	3.2	3	0	3	2~40 (21±19)	9~130	15~130 (24)	
	11月	23	63	20	4.1	6	0	6				
	12月	25	83	17	7.7	35	0	35				
	第3四半期	23	83	17	5.5	44	0	44				
尾 駁	10月	25	46	22	2.9	4	0	4	4~40 (22±18)	6~141	11~141 (25)	
	11月	25	57	21	4.8	19	0	19				
	12月	26	73	18	7.7	37	0	37				
	第3四半期	25	73	18	5.5	60	0	60				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は、平成23~27年度の測定値の「最小値~最大値」。ただし、古野牛川局、尻労局及び桜木町局については平成25~27年度の測定値の「最小値~最大値」。泊局については平成27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所に起因するもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」の影響が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
砂子又	10月	56	70	54	2.1	
	11月	56	72	54	2.6	
	12月	58	121	53	7.6	
	第3四半期	57	121	53	4.9	
古野牛川	10月	50	68	45	2.2	
	11月	53	73	46	2.9	
	12月	57	118	51	7.4	
	第3四半期	53	118	45	5.6	
尻 労	10月	53	74	50	2.8	
	11月	52	73	46	2.9	
	12月	55	108	49	7.3	
	第3四半期	54	108	46	5.0	
桜木町	10月	47	66	42	3.5	
	11月	52	77	43	3.3	
	12月	54	139	48	7.8	
	第3四半期	51	139	42	6.3	
関 根	10月	53	68	50	2.3	
	11月	54	69	50	2.6	
	12月	56	120	50	7.6	
	第3四半期	54	120	50	5.0	
吹 越	10月	62	75	59	2.1	
	11月	62	86	59	3.0	
	12月	64	82	58	4.4	
	第3四半期	63	86	58	3.4	
泊	10月	61	78	57	3.0	
	11月	61	96	57	3.8	
	12月	63	116	55	7.0	
	第3四半期	62	116	55	5.1	
尾 駁	10月	62	80	59	2.7	
	11月	62	90	57	4.3	
	12月	63	105	56	6.8	
	第3四半期	62	105	56	4.9	

・測定値は1時間値。

・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

③モニタリングカーによる空間放射線量率(NaI)測定結果

ア 定点測定

測定地点		測定年月日	測定値 (nGy/h)	積雪深 (cm)	備考
東通村	白糠	H28.10.17	12	0	
	大平滝浄水場	〃	16	0	
	小田野沢	〃	13	0	
	上田代	〃	15	0	
	砂子又	〃	15	0	
むつ市	浜奥内	〃	11	0	
	中野沢	〃	15	0	
横浜町	浜田	〃	19	0	
六ヶ所村	泊	〃	20	0	

- ・測定値は10分値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

イ 走行測定

走行ルート	測定年月日	測定値の範囲 (nGy/h)	備考
ルートA(泊～発電所)	H28.10.17	12 ～ 19	
ルートB(発電所～砂子又)	〃	11 ～ 22	
ルートC(発電所～近川)	〃	11 ～ 20	
ルートD(浜田～奥内)	〃	14 ～ 20	

- ・測定値は500 m毎の平均値。
- ・降雨雪のない状況で測定。

## (2) 積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3箇月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
東通村	小田野沢	H28. 9.28~H28.12.27 (90)	87	83 ~ 90	
	老部	〃	86	75 ~ 90	
	砂子又	〃	93	79 ~ 98	
	古野牛川	〃	92	85 ~ 97	
	尻労	〃	93	84 ~ 95	
	大平滝浄水場	〃	95	71 ~ 99	
	猿ヶ森	〃	107	79 ~ 113	
	目名	〃	96	73 ~ 102	
むつ市	近川	〃	95	79 ~ 101	
	桜木町	〃	90	78 ~ 94	
	関根	〃	94	79 ~ 99	
	一里小屋	〃	101	81 ~ 104	
	美付	〃	90	80 ~ 98	
横浜町	吹越	〃	90	77 ~ 95	
	有畑	〃	107	83 ~ 115	
六ヶ所村	泊	〃	94	84 ~ 96	
	尾駱	〃	94	75 ~ 101	
	二又	〃	94	78 ~ 99	
むつ市	比較対照 (むつ市川内町)	〃	99	76 ~ 107	

・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。

・「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。

・「平常の変動幅」は平成23~27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。

ただし、小田野沢及び泊については平成27年度、古野牛川、尻労及び桜木町については平成25~27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値~最大値」。

## (3)大気浮遊じん中の全β放射能測定結果

(単位:Bq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
小田野沢	H28.10. 3～H28.11. 1	228	1.6	3.9	0.55	
	H28.11. 1～H28.12. 1	239	1.7	4.3	0.42	
	H28.12. 1～H29. 1. 4	271	1.7	4.4	0.18	
	第 3 四 半 期	738	1.7	4.4	0.18	
老 部	H28.10. 3～H28.11. 1	228	1.5	3.7	0.48	
	H28.11. 1～H28.12. 1	239	1.5	4.3	0.44	
	H28.12. 1～H29. 1. 4	271	1.6	4.6	0.18	
	第 3 四 半 期	738	1.5	4.6	0.18	
近 川	H28.10. 3～H28.11. 1	228	1.6	3.8	0.51	
	H28.11. 1～H28.12. 1	239	1.8	5.4	0.37	
	H28.12. 1～H29. 1. 4	271	1.8	5.7	0.14	
	第 3 四 半 期	738	1.8	5.7	0.14	

- ・ 3時間集じん直後、10分間測定。
- ・ 平均値の算出においては測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し平均値に「<」を付ける。すべての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「\*」と表示する。

## (4)大気中のヨウ素-131測定結果

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

測定局	採取期間	検体数	平均	最大	最小	備考
小田野沢	H28.10. 3～H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31～H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28～H29. 1. 2	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
老 部	H28.10. 3～H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31～H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28～H29. 1. 2	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	
近 川	H28.10. 3～H28.10.31	4	ND	ND	ND	
	H28.10.31～H28.11.28	4	ND	ND	ND	
	H28.11.28～H29. 1. 2	5	ND	ND	ND	
	第 3 四 半 期	13	ND	ND	ND	

- ・ 168時間捕集直後、1時間測定。

## (5) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器					
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs
大気浮遊じん	小 田 野 沢	H28.10.3~ H28.11.1	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.11.1~ H28.12.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.12.1~ H29.1.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	老 部	H28.10.3~ H28.11.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.11.1~ H28.12.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.12.1~ H29.1.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	近 川	H28.10.3~ H28.11.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.11.1~ H28.12.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.12.1~ H29.1.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
降 下 物	砂 子 又	H28.9.30~ H28.10.31	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.10.31~ H28.11.30		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.11.30~ H28.12.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND
河 川 水	小 老 部 川 上 流	H28.10.6	mBq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND
水 道 水	老 部	H28.10.3		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	砂 子 又	H28.10.3		トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND
	一 里 小 屋	H28.10.3		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	有 畑	H28.10.3		ND	ND	ND	ND	ND	ND
精 米	目 名	H28.9.30	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	奥 内	H28.9.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ダ イ コ ン	向 野 泊	H28.10.31	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.10.26		ND	ND	ND	ND	ND	ND
牛 乳 ( 原 乳 )	豊 栄	H28.10.3	Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	東 栄	H28.10.3		ND	ND	ND	ND	ND	ND
松 葉	小 田 野 沢 比 較 対 照 (むつ市川内町)	H28.11.7	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.11.8		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ヒ ラ メ	六 ヶ 所 村 前 面 海 域	H28.10.18		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ウ ス メ バ ル	東 通 村 全 面 海 域	H28.12.7		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ア ワ ビ	小 田 野 沢 沖	H28.11.21		ND	ND	ND	ND	ND	ND
タ コ	小 田 野 沢	H28.11.14		ND	ND	ND	ND	ND	ND

・ 機器分析によるγ線放出核種、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は試料採取日に補正した値。

・ ヒラメ(六ヶ所村前面海域)は原子燃料サイクル施設環境放射線調査の試料を兼ねる。

分 析					放射化学分析			備 考
<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	<sup>131</sup> I	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>239+240</sup> Pu	
5.4	—	—	—	—	—	—	—	
4.6	—	—	—	—	—	—	—	
4.2	—	—	—	—	—	—	—	
5.4	—	—	—	—	—	—	—	
4.4	—	—	—	—	—	—	—	
4.0	—	—	—	—	—	—	—	
5.3	—	—	—	—	—	—	—	
4.5	—	—	—	—	—	—	—	
4.3	—	—	—	—	—	—	—	
130	ND	—	—	—	—	—	—	
190	ND	—	—	—	—	—	—	
360	ND	—	—	—	—	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	—	
ND	29	—	—	—	—	ND	—	
ND	30	—	—	—	—	ND	—	
ND	77	—	—	—	—	0.21	—	
ND	67	—	—	—	—	0.08	—	
ND	50	—	—	ND	—	ND	—	
ND	51	—	—	ND	—	ND	—	
66	72	—	—	—	—	0.05	—	
66	78	—	—	—	—	0.61	—	
ND	140	—	—	—	—	ND	—	
ND	110	—	—	—	—	ND	—	
ND	65	—	—	—	—	ND	0.014	
ND	62	—	—	—	—	ND	—	

## (6) 気象観測結果

① 風速・気温・湿度・降水量・積雪深

測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(°C)			湿度(%)		降水量 (mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
小 田 野 沢	10月	—	—	—	—	—	—	—	74.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	50.5	0	1	0	0	0
	12月	—	—	—	—	—	—	—	146.0	1	9	0	4	27
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	271.0	0	9	0	1	27
老 部	10月	2.1	6.8	12.2	22.8	1.7	69	25	80.0	0	0	0	0	0
	11月	2.1	6.7	5.1	14.7	-3.8	71	32	49.5	0	3	0	0	17
	12月	2.2	8.9	2.4	14.4	-4.4	74	30	134.5	2	25	0	8	38
	第3四半期	2.1	8.9	6.6	22.8	-4.4	71	25	264.0	1	25	0	3	38
近 川	10月	1.5	5.8	11.9	23.4	2.0	71	41	68.0	0	0	0	0	0
	11月	1.6	5.4	4.6	13.9	-3.1	72	46	39.0	0	1	0	0	4
	12月	1.7	8.2	1.9	12.4	-6.1	76	47	118.5	1	17	0	4	28
	第3四半期	1.6	8.2	6.1	23.4	-6.1	73	41	225.5	0	17	0	1	28
砂 子 又	10月	—	—	—	—	—	—	—	77.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	56.0	0	4	0	0	11
	12月	—	—	—	—	—	—	—	161.0	1	14	0	8	73
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	294.5	0	14	0	3	73
古 野 牛 川	10月	—	—	—	—	—	—	—	67.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	49.5	0	5	0	0	2
	12月	—	—	—	—	—	—	—	162.5	1	14	0	5	54
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	279.5	0	14	0	2	54
尻 芳	10月	—	—	—	—	—	—	—	73.0	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	60.0	0	4	0	0	3
	12月	—	—	—	—	—	—	—	142.0	1	13	0	4	51
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	275.0	0	13	0	2	51



測定局	測定月	風速(m/sec)		気温(°C)			湿度(%)		降水量 (mm)	積雪深(cm)				
		平均	最大	平均	最高	最低	平均	最小		平均	最大	最小	過去の値	
													平均	最大
桜木町	10月	—	—	—	—	—	—	—	111.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	72.5	0	4	0	0	3
	12月	—	—	—	—	—	—	—	205.0	4	22	0	14	82
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	389.0	1	22	0	5	82
関根	10月	—	—	—	—	—	—	—	86.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	76.0	0	7	0	0	10
	12月	—	—	—	—	—	—	—	194.5	2	16	0	8	65
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	357.0	1	16	0	3	65
吹越	10月	—	—	—	—	—	—	—	73.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	48.0	0	2	0	0	11
	12月	—	—	—	—	—	—	—	122.5	1	9	0	6	48
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	244.0	0	9	0	2	48
泊	10月	—	—	—	—	—	—	—	89.0	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	71.0	0	4	0	0	0
	12月	—	—	—	—	—	—	—	182.5	2	33	0	3	25
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	342.5	1	33	0	1	25
尾駸	10月	—	—	—	—	—	—	—	107.5	0	0	0	0	0
	11月	—	—	—	—	—	—	—	86.5	0	9	0	0	21
	12月	—	—	—	—	—	—	—	152.0	4	28	0	17	85
	第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	346.0	1	28	0	6	85

・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。

②大気安定度出現頻度表

単位:時間(括弧内は%)

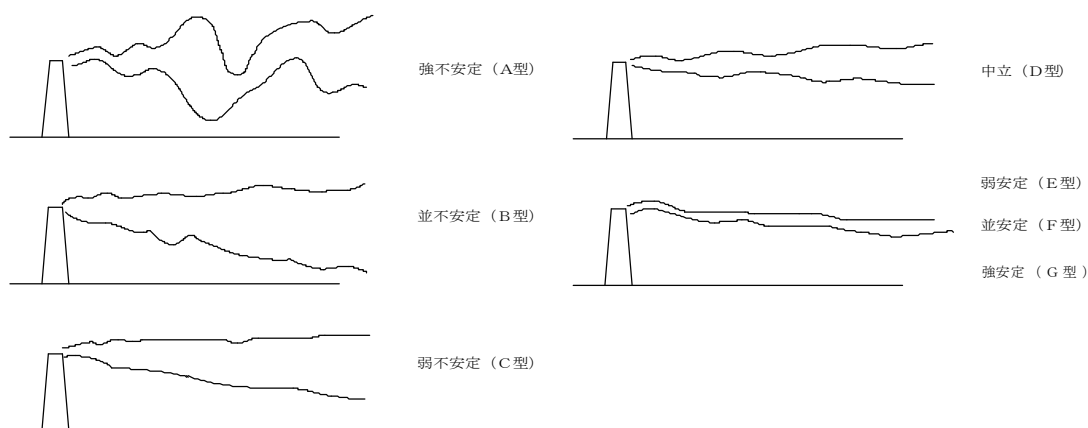
測定局	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
		老部	10月	6 (0.8)	46 (6.2)	63 (8.5)	21 (2.8)	33 (4.5)	10 (1.4)	263 (35.6)	40 (5.4)	28 (3.8)	
	11月	0 (0.0)	16 (2.2)	39 (5.4)	11 (1.5)	24 (3.3)	11 (1.5)	325 (45.1)	45 (6.3)	37 (5.1)	212 (29.4)	720 (100)	
	12月	0 (0.0)	10 (1.3)	42 (5.7)	15 (2.0)	36 (4.8)	3 (0.4)	381 (51.3)	34 (4.6)	48 (6.5)	174 (23.4)	743 (100)	
	第3 四半期	6 (0.3)	72 (3.3)	144 (6.5)	47 (2.1)	93 (4.2)	24 (1.1)	969 (44.0)	119 (5.4)	113 (5.1)	615 (27.9)	2,202 (100)	
近川	10月	10 (1.4)	61 (8.3)	74 (10.0)	12 (1.6)	25 (3.4)	2 (0.3)	237 (32.2)	24 (3.3)	30 (4.1)	262 (35.5)	737 (100)	
	11月	0 (0.0)	11 (1.5)	34 (4.7)	1 (0.1)	23 (3.2)	0 (0.0)	335 (46.5)	44 (6.1)	27 (3.8)	245 (34.0)	720 (100)	
	12月	0 (0.0)	10 (1.3)	37 (5.0)	6 (0.8)	22 (3.0)	0 (0.0)	432 (58.1)	30 (4.0)	37 (5.0)	170 (22.8)	744 (100)	
	第3 四半期	10 (0.5)	82 (3.7)	145 (6.6)	19 (0.9)	70 (3.2)	2 (0.1)	1,004 (45.6)	98 (4.5)	94 (4.3)	677 (30.8)	2,201 (100)	

・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。

大気安定度分類表

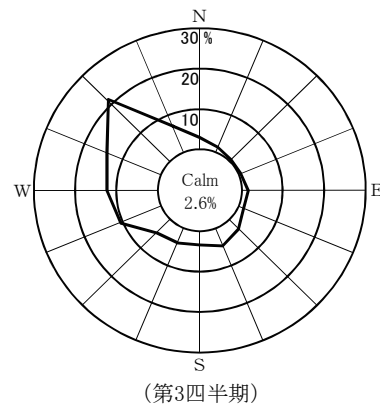
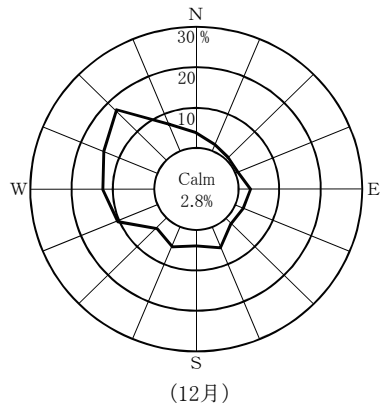
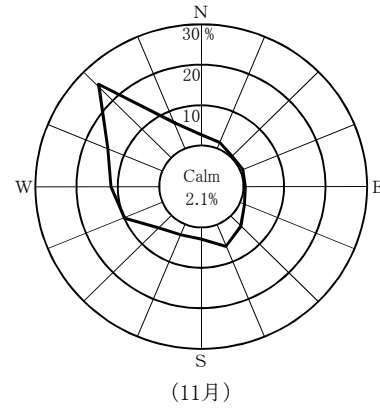
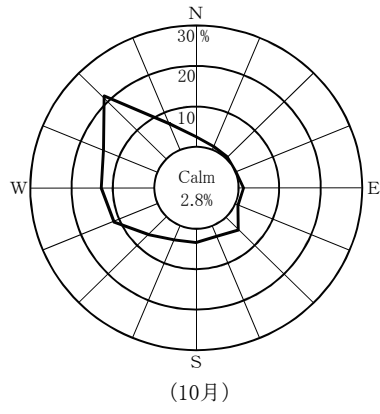
風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)

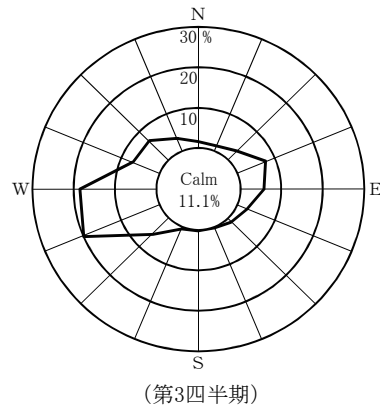
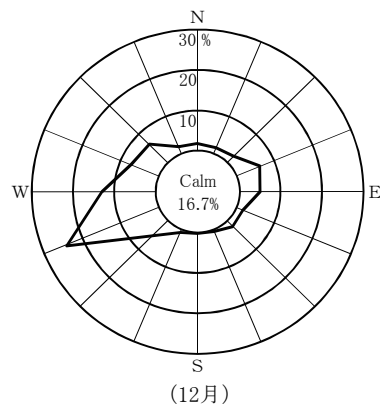
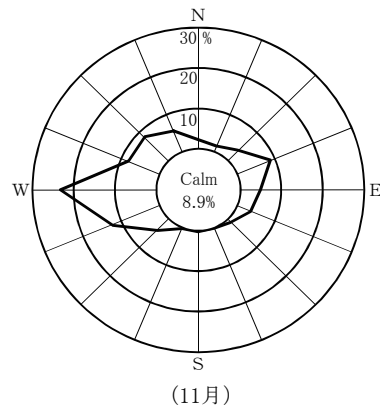
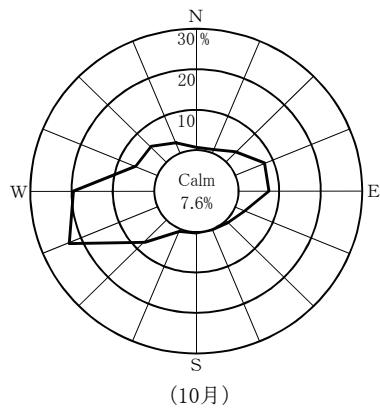


大気安定度と煙の型との模式図

③ 風配図  
老 部



近 川



Calm: 風速0.4 m/sec以下



## 2. 事業者実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間(単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間(単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
小川町	10月	17	29	15	2.0	5	0	5	7~27 (17±10)	10~73	13~73 (18)	
	11月	17	34	15	2.3	9	0	9				
	12月	18	63	14	5.5	51	0	51				
	第3四半期	17	63	14	3.7	65	0	65				
林ノ脇	10月	22	38	20	2.4	5	0	5	9~33 (21±12)	10~88	15~88 (22)	
	11月	22	46	20	2.7	9	0	9				
	12月	23	47	17	4.7	36	0	36				
	第3四半期	22	47	17	3.4	50	0	50				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は、「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値」の範囲は、平成23~27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値」の範囲は、「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。
- また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設である東通原子力発電所起因によるもの。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。
- ・「施設起因」と「降雨等」が同時に認められた場合は、その主たる原因に分類している。

(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
小川町	10月	49	60	47	1.9	
	11月	49	65	46	2.2	
	12月	50	96	46	5.5	
	第3四半期	49	96	46	3.7	
林ノ脇	10月	54	72	52	2.5	
	11月	54	78	52	2.8	
	12月	56	82	50	5.0	
	第3四半期	55	82	50	3.7	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2)積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間 (日数)	3箇月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
東通村	白糠	H28.9.28~H28.12.27 (90)	87	81 ~ 89	
	上田代	"	100	81 ~ 102	
	上田屋	"	100	82 ~ 102	
	蒲野沢	"	94	83 ~ 99	
むつ市	小川町	"	88	79 ~ 90	
横浜町	林ノ脇	"	95	82 ~ 97	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日あたりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成23年4月～平成28年3月の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。  
ただし、白糠については平成26年4月～平成28年3月の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

### (3)環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器					
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs
大気浮遊じん	周辺監視区域境界付近(西側)	H28.10.3~ H28.11.1	mBq/m <sup>3</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.11.1~ H28.12.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.12.1~ H29.1.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	周辺監視区域境界付近(南側)	H28.10.3~ H28.11.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.11.1~ H28.12.1		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.12.1~ H29.1.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
降下物	周辺監視区域境界付近	H28.9.30~ H28.10.31	Bq/m <sup>2</sup>	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.10.31~ H28.11.30		ND	ND	ND	ND	ND	ND
		H28.11.30~ H28.12.28		ND	ND	ND	ND	ND	ND
水道水	小田野沢	H28.10.4	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	近川	H28.10.5		ND	ND	ND	ND	ND	ND
	泊	H28.10.4		ND	ND	ND	ND	ND	ND
精米	小田野沢	H28.10.3	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	大豆田	H28.10.5		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ダイコン	近川	H28.10.19		ND	ND	ND	ND	ND	ND
キャベツ	砂子又	H28.10.11		ND	ND	ND	ND	ND	ND
ハクサイ	今泉	H28.10.24		ND	ND	ND	ND	ND	ND
牛乳(原乳)	金谷沢	H28.10.5		Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND
	鶏沢	H28.10.5	ND		ND	ND	ND	ND	ND
松葉	老部	H28.11.7	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	大豆田	H28.11.7		ND	ND	ND	ND	ND	ND
海水	放水口付近	H28.10.12	mBq/ℓ トリチウム については Bq/ℓ	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	放水口沖	H28.10.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND
コンブ	放水口付近	H28.10.12	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND
チガイソ	白糠	H28.10.12		ND	ND	ND	ND	ND	ND

・γ線スペクトロメトリ、<sup>3</sup>H及び<sup>90</sup>Srの測定値は、試料採取日に補正した値。



分 析					放射化学分析		備 考
<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	<sup>131</sup> I	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	
3.2	—	—	—	—	—	—	
1.6	—	—	—	—	—	—	
1.6	—	—	—	—	—	—	
4.1	—	—	—	—	—	—	
3.5	—	—	—	—	—	—	
3.3	—	—	—	—	—	—	
130	ND	—	—	—	—	—	
250	ND	—	—	—	—	—	
370	ND	—	—	—	—	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	ND	—	—	—	ND	—	
ND	26	—	—	—	—	ND	
ND	32	—	—	—	—	ND	
ND	83	—	—	—	—	ND	
ND	55	—	—	ND	—	0.08	
ND	86	—	—	ND	—	0.13	
ND	47	—	—	ND	—	ND	
ND	51	—	—	ND	—	ND	
63	77	—	—	ND	—	4.0	
68	80	—	—	—	—	1.3	
ND	—	—	—	—	ND	—	
ND	—	—	—	—	ND	—	
ND	370	—	—	ND	—	ND	
8	210	—	—	—	—	ND	

(4)気象観測結果

①降水量・積雪深

測定局	測定月	降水量 (mm)	積雪深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
小川町	10月	84.0	0	0	0	0	0
	11月	65.5	0	6	0	0	6
	12月	178.0	2	13	0	6	70
	第3四半期	327.5	1	13	0	2	70
林ノ脇	10月	80.5	0	0	0	0	0
	11月	51.5	0	1	0	0	5
	12月	125.0	4	30	0	12	65
	第3四半期	257.0	1	30	0	4	65

・積雪深における「過去の値」は、平成23～27年度の同一時期の平均値及び最大値。

### 3. 東通原子力発電所の運転状況

( 事 業 者 報 告 )

#### 表中の記号

\* : 検出限界未満 (放射能の分析)

/ : 放出実績なし

(1)発電所の運転保守状況(平成28年10月～平成28年12月)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">運 転 状 況</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主 な 保 守 状 況</p>	<p>○核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づく定期検査および定期事業者検査（第4回定期検査） 原子炉冷却系統設備、計測制御系統設備、廃棄設備、蒸気タービン設備</p> <p>○原子力災害対策特別措置法に基づく定期点検 モニタリングポスト</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">備 考</p>	

(2)放射性物質の放出状況 (平成28年10月～平成28年12月)

① 放射性気体廃棄物の放射性物質の放出量

核種 (測定箇所)	放出量					年間放出 管理目標値
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度	
希ガス (排気筒)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/ (Bq)	* (Bq)	$1.2 \times 10^{15}$ (Bq)
I-131 (排気筒)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/ (Bq)	* (Bq)	$2.0 \times 10^{10}$ (Bq)
H-3 (排気筒)	$1.5 \times 10^{10}$ (Bq)	$6.0 \times 10^9$ (Bq)	$6.1 \times 10^9$ (Bq)	/ (Bq)	$2.7 \times 10^{10}$ (Bq)	/
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射性物質の放出量(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排気量(cm<sup>3</sup>)を乗じて求めている。</li> <li>H-3は「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針」の評価対象核種ではないため、管理目標値を定めていない。</li> <li>検出限界濃度は次に示すとおりである。  希ガス : <math>2 \times 10^{-2}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下  I-131 : <math>7 \times 10^{-9}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下  H-3 : <math>4 \times 10^{-5}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下</li> </ul>					

② 放射性液体廃棄物の放射性物質の放出量

核種 (測定箇所)	放出量					年間放出 管理目標値
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度	
H-3を除く 全放射能 (サンプルタンク)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	/ (Bq)	* (Bq)	$3.7 \times 10^9$ (Bq)
H-3 (サンプルタンク)	* (Bq)	* (Bq)	$8.6 \times 10^9$ (Bq)	/ (Bq)	$8.6 \times 10^9$ (Bq)	/
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射性物質の放出量(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm<sup>3</sup>)に排水量(cm<sup>3</sup>)を乗じて求めている。</li> <li>H-3は「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針」の評価対象核種ではないため、管理目標値を定めていない。</li> <li>検出限界濃度は次に示すとおりである。  H-3を除く全放射能 : <math>2 \times 10^{-2}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下 (Co-60で代表した)  H-3を除く全放射能 : <math>2 \times 10^{-1}</math>(Bq/cm<sup>3</sup>)以下</li> </ul>					

## 参 考 資 料

1. モニタリングポスト測定結果
  - ① 空間放射線量率
2. 排気筒モニタ測定結果
  - ① 全ガンマ線計数率(希ガス)
3. 放水口モニタ測定結果
  - ① 全ガンマ線計数率
4. 気象観測結果
  - ① 風速
  - ② 降水量
  - ③ 大気安定度
  - ④ 風配図

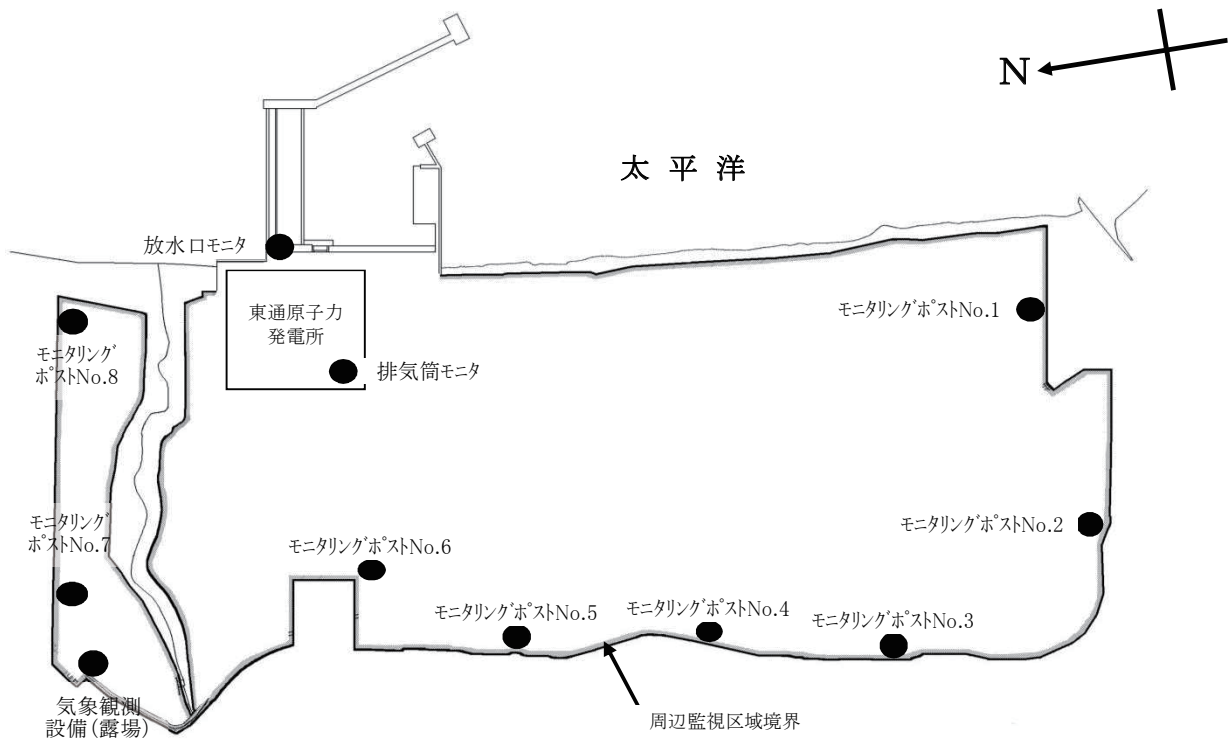


図 モニタリングポスト、排気筒モニタ、放水口モニタ及び気象観測設備配置図

## 1.モニタリングポスト測定結果

(平成28年10月～平成28年12月)

## ① 空間放射線量率

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
No.1	10月	18	38	16	97	
	11月	18	42	16		
	12月	20	48	15		
	第3四半期	19	48	15		
No.2	10月	19	37	17	88	
	11月	19	40	17		
	12月	20	48	16		
	第3四半期	19	48	16		
No.3	10月	20	41	18	94	
	11月	20	42	17		
	12月	22	54	17		
	第3四半期	21	54	17		
No.4	10月	18	38	17	94	
	11月	19	37	17		
	12月	20	46	16		
	第3四半期	19	46	16		
No.5	10月	20	43	18	108	
	11月	20	42	18		
	12月	21	52	17		
	第3四半期	20	52	17		
No.6	10月	16	38	14	101	
	11月	16	38	14		
	12月	18	52	14		
	第3四半期	17	52	14		
No.7	10月	19	36	17	76	
	11月	19	37	17		
	12月	20	48	16		
	第3四半期	19	48	16		
No.8	10月	13	34	11	92	
	11月	13	36	11		
	12月	15	58	11		
	第3四半期	14	58	11		

・2"φ×2"NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型恒温装置付) DBM方式

・測定値は1時間値。

・局舎屋根(地上約4m)設置

・測定値は、3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成16～27年度の測定値の最大値。

2.排気筒モニタ測定結果 (平成28年10月～平成28年12月)

① 全ガンマ線計数率(希ガス)

(単位:s<sup>-1</sup>)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
排気筒モニタ	10月	3.6	4.0	3.3	4.4	
	11月	3.7	4.1	3.3		
	12月	3.7	4.1	3.3		
	第3四半期	3.7	4.1	3.3		

- ・2”φ×2”NaI(Tl)シンチレーション検出器
- ・測定値は10分値。
- ・「過去最大値」は、平成16～27年度の測定値の最大値。

3.放水口モニタ測定結果 (平成28年10月～平成28年12月)

① 全ガンマ線計数率

(単位:min<sup>-1</sup>)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去 最大値	備考
放水口モニタ	10月	190	210	170	340	
	11月	190	220	180		
	12月	190	240	170		
	第3四半期	190	240	170		

- ・2”φ×2”NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)
- ・測定値は10分値。
- ・「過去最大値」は、平成16～27年度の測定値の最大値。



4.気象観測結果 (平成28年10月～平成28年12月)

① 風速

測定高さ	測定月	風速 (m/sec)		備考
		平均	最大	
地上10 m	10月	1.5	5.6	
	11月	1.6	7.0	
	12月	1.9	7.3	
	第3四半期	1.7	7.3	
地上100 m	10月	4.8	14.7	
	11月	4.6	13.8	
	12月	5.4	18.8	
	第3四半期	5.0	18.8	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値。
- ・地上 10 m: 風向風速計[プロペラ型](気象庁検定付)
- ・地上100 m: ドップラーソーダ

② 降水量

測定地点	測定月	降水量(mm)	備考
露 場	10月	91.5	
	11月	55.5	
	12月	163.0	
	第3四半期	310.0	

- ・「地上気象観測指針(平成14年 気象庁)」に基づく1時間値を用いて算出。
- ・雨雪量計[転倒升方式](気象庁検定付)

③ 大気安定度

(単位:時間[括弧内は%])

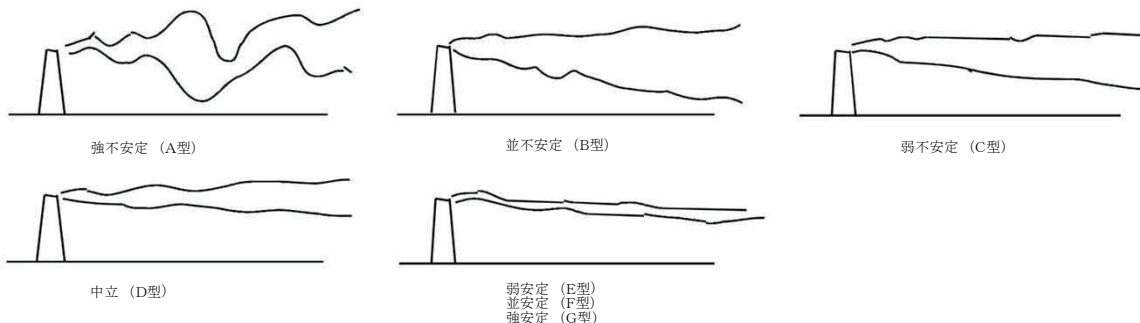
測定地点	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
		露 場	10月	5 (0.7)	44 (6.2)	51 (7.2)	22 (3.1)	25 (3.5)	15 (2.1)	241 (34.2)	15 (2.1)	21 (3.0)	
11月	0 (0.0)		15 (2.1)	38 (5.3)	10 (1.4)	18 (2.5)	4 (0.6)	329 (45.7)	23 (3.2)	28 (3.9)	255 (35.4)	720 (100)	
12月	0 (0.0)		12 (1.6)	32 (4.3)	4 (0.5)	14 (1.9)	5 (0.7)	428 (57.9)	31 (4.2)	26 (3.5)	187 (25.3)	739 (100)	
第3 四半期	5 (0.2)		71 (3.3)	121 (5.6)	36 (1.7)	57 (2.6)	24 (1.1)	998 (46.1)	69 (3.2)	75 (3.5)	708 (32.7)	2164 (100)	

- ・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針(平成13年3月 原子力安全委員会)」に基づく1時間値を用いて分類。
- ・風向風速計[プロペラ型](気象庁検定付)、日射計[電気式](気象庁検定付)、放射収支計[風防型]

大気安定度分類表

風速(U) m/s	日射量(T) kW/m <sup>2</sup>				放射収支量(Q) kW/m <sup>2</sup>		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

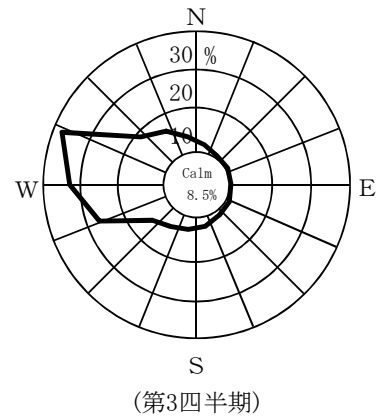
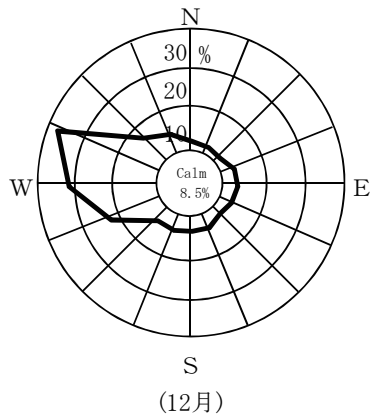
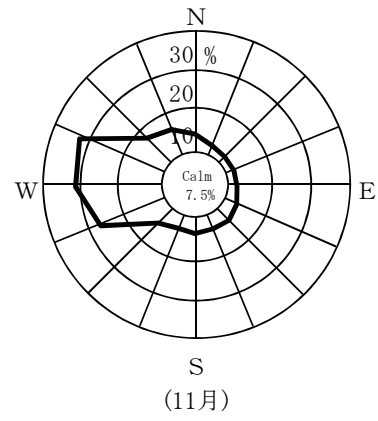
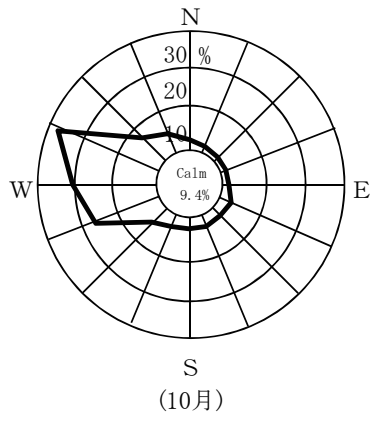
発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (平成13年3月 原子力安全委員会)



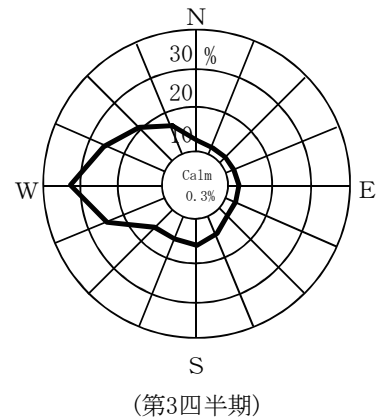
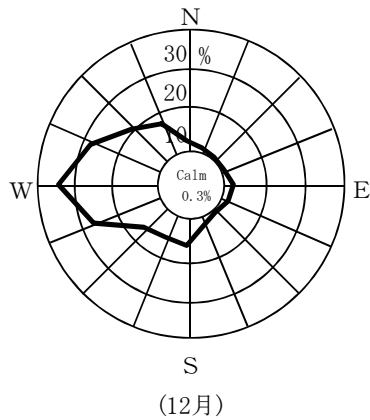
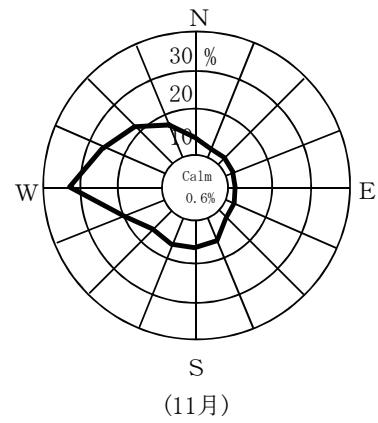
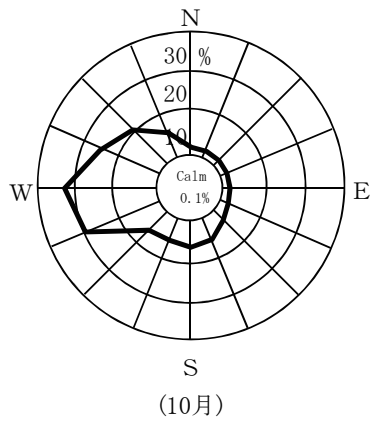
大気安定度と煙の型との模式

④ 風配図

・地上 10 m



・地上100 m



Calm: 風速0.4 m/sec以下

#### 4. 東通原子力発電所に係る 環境放射線モニタリング実施要領

## 東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施要領

平成15年 2月策定  
平成17年10月改訂  
平成21年 4月改訂  
平成24年 3月改訂  
平成25年 4月改訂  
平成26年 4月改訂  
平成27年 3月改訂  
平成28年 3月改訂  
平成28年11月改訂

### 1. 趣旨

「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施計画」により環境放射線の測定方法、分析方法等について必要な事項を定めるものとする。

## 2. 測定装置及び測定方法

### (1) 空間放射線等

項目	青森県		東北電力株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
空間放射線量率	<p>・低線量率計 3" φ×3" NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償方式加温装置付)、G(E)関数荷重演算方式</p> <p>・高線量率計 14 0、4 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器(加温装置付)(小田野沢、老部、近川、砂子又、泊、尾駸、吹越)</p> <p>14 0、6 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器(加温装置付)(関根、尻労、古野牛川、桜木町)</p>	<p>測定法:文部科学省編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成8年改訂)に準拠 連続測定(1時間間値)</p> <p>測定位置:地上1.8 m</p> <p>校正線源:<sup>137</sup>Cs</p>	<p>・低線量率計:同 左</p> <p>・高線量率計 14 0、8 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器(加温装置付)</p>	<p>・同 左</p>
積算線量	<p>・蛍光ガラス線量計(RPLD)</p>	<p>測定法:文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年)に準拠</p> <p>素子数:地点当たり3個</p> <p>積算期間:3箇月</p> <p>収納箱:木製</p> <p>測定位置:地上1.8 m</p> <p>校正線源:<sup>137</sup>Cs</p>	<p>・同 左</p>	<p>・同 左</p>

項目	森 県	
	青 装 置	測 定 方 法
大気浮遊じん中の全β放射能	・ダストモニタ検出器 50 mm φ ZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器(全α、全β同時測定※1)	測定法: 文部科学省編「全ベータ放射能測定法」(昭和51年改訂)に準拠 連続測定 集じん時間: 3時間 測定時間: 集じん終了直後10分間測定 集じん方法: 紙間けつ自動移動方式 ろ紙: 長尺ろ紙 (HE-40T) 大気吸引量: 約 200 ℓ/分 吸引口位置: 地上 1.5~2.0 m 校正線源: α線用: <sup>241</sup> Am、β線用: <sup>36</sup> Cl

※1: 全α放射能については、解析評価のために測定。

項目	森 県	
	青 装 置	測 定 方 法
大気中のヨウ素 <sup>131</sup> I	・ヨウ素モニタ検出器 2" φ × 2" NaI(Tl)シンチレーション検出器	測定法: 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂)に準拠 連続測定 捕集時間: 168時間 測定時間: 捕集終了後1時間測定 捕集方法: 捕集材間けつ自動移動方式 測定試料形態: 活性炭吸着物 捕集材: 活性炭カートリッジ 大気吸引量: 約 50 ℓ/分 吸引口位置: 地上 1.5~2.0 m 校正線源: <sup>131</sup> I 模擬線源 ( <sup>133</sup> Ba + <sup>137</sup> Cs)

(2) 環境試料中の放射能

項目	青		森		県		東北電力株式会社	
	測定	装置	測定	方法	測定	装置	測定	方法
機器放出核種 γ線	ゲルマニウム半導体検出器	ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメリー(平成4年改訂) 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和57年) 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂)に準拠	降水 蒸発残留物 大気浮遊じん 1箇月分のろ紙の集積 河川水、水道水、井戸水 } 蒸発残留物 表土 乾燥細土 農産物 灰化物 ( <sup>131</sup> I) の測定では生試料又は乾燥試料) 指標生物 灰化物 海水 共沈法による沈殿物 海底土 乾燥細土 海産食品 灰化物 ( <sup>131</sup> I) の測定では生試料又は乾燥試料)	測定方法: 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメリー」(平成4年改訂) 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和57年) 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂)に準拠	測定装置: 同	測定方法: 同	測定装置: 同	測定方法: 同
	放射化学分析 <sup>3</sup> H	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置	測定方法: 文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に準拠 測定容器: 145 ml バイアル 測定時間: 500分 (50分、10回測定)	測定装置: U-8 容器、マリネリ容器 測定時間: 80,000 秒	測定装置: 同	測定方法: 同	測定装置: 同	測定方法: 同
放射化学分析 <sup>90</sup> Sr	低バックグラウンド2πガスフロー計数装置	測定方法: 文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂)に準拠 測定容器: 25 mm φ ステンレススチール皿 測定時間: 60分		測定装置: 同	測定方法: 同	測定装置: 同	測定方法: 同	
放射化学分析 <sup>239+240</sup> Pu	シリコン半導体検出器	測定方法: 文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2年改訂)に準拠 測定用電着板: 25 mm φ ステンレススチール製 測定時間: 90,000 秒		測定装置: 同	測定方法: 同	測定装置: 同	測定方法: 同	

## (3) 気 象

項 目	青 森 県		東北電力株式会社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測定方法
風 向・風 速	・風向風速計[プロペラ型] (気象庁検定付)	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約 10 m	/	
気 温	・温度計[白金測温抵抗式] (気象庁検定付)	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m		
降 水 量	・雨雪量計[転倒升方式] (気象庁検定付)	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測定法:同 左 測定位置:同 左
感 雨 雨	・感 雨 雪 器[電極式]	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測定法:同 左 測定位置:同 左
積 雪 深	・積雪計 [レーザー式] (気象庁検定付)	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約 3 m	・同 左	測定法:同 左 測定位置:同 左
日 射 量	・日射計[熱電対式] (気象庁検定付)	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約 5、9 m	/	
放射収支量	・放射収支計[熱電対式]	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m		
湿 度	・湿度計[毛髪式] (気象庁検定付)	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m		
大気安定度	—	測定法:指針※に準拠		

※:「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」(平成 13 年改訂 原子力安全委員会)

## (4) モニタリングカーによる測定

項 目	青 森 県	
	測 定 装 置	測 定 方 法
空間放射線量率	2" φ×2" NaI(Tl)シンチレーション 検出器(温度補償方式加温装置付) G(E)関数荷重演算方式	測 定 法: 定点測定 10 分間測定 走行測定 10 秒間の測定値を 500 m ごと に平均 走行速度 30~60 km/h 測定位置:地上 3.2 m (車両上)

## 3. 環境試料中の放射能測定対象核種

$^{54}\text{Mn}$ 、 $^{59}\text{Fe}$ 、 $^{58}\text{Co}$ 、 $^{60}\text{Co}$ 、 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ 、 $^7\text{Be}$ 、 $^{40}\text{K}$ 、 $^{214}\text{Bi}$ 、 $^{228}\text{Ac}$ 、 $^3\text{H}$ 、 $^{90}\text{Sr}$ 、 $^{131}\text{I}$ 、 $^{239+240}\text{Pu}$

なお、 $^{214}\text{Bi}$ 、 $^{228}\text{Ac}$ については、土試料のみとする。



#### 4. 数値の取扱方法

##### (1) 空間放射線量率

単 位	表 示 方 法
nGy/h	整数で示す。

##### (2) 積算線量

単 位	表 示 方 法
$\mu$ Gy/91 日 $\mu$ Gy/365 日	3 箇月積算線量は、測定期間の測定値を 91 日あたりに換算し、整数で示す。 年間積算線量は、各期間の測定値を合計した後、365 日あたりに換算し、整数で示す。

##### (3) 大気浮遊じん中の全 $\beta$ 放射能

単 位	表 示 方 法
Bq/m <sup>3</sup>	有効数字 2 桁で示す。 測定値がその計数誤差の 3 倍以下の場合検出限界以下とし「*」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「*」と表示する。

##### (4) 大気中のヨウ素

単 位	表 示 方 法
mBq/m <sup>3</sup>	有効数字 2 桁で示す。最小位は 1 位。 定量下限値は「20 mBq/m <sup>3</sup> 」とし、定量下限値未満は「ND」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。

##### (5) 環境試料中の放射性核種

試 料	単 位	表 示 方 法
大 気 浮 遊 じ ん	mBq/m <sup>3</sup>	有効数字 2 桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表 1 に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。 計数誤差は記載しない。
降 下 物	Bq/m <sup>2</sup>	
河 川 水 、 水 道 水 、 井 戸 水 、 海 水	mBq/l ( <sup>3</sup> H は Bq/l)	
表 土 、 海 底 土	Bq/kg 乾	
農 畜 産 物 、 海 産 食 品 、 指 標 生 物	Bq/kg 生 (牛乳は Bq/l)	

別表1 環境試料中の放射性核種の定量下限値

試料	単位	γ線放出核種											<sup>3</sup> H	<sup>131</sup> I	<sup>239+240</sup> Pu	備考	
		<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac						
大気浮遊じん	mBq/m <sup>3</sup>	0.02	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
降下物	Bq/m <sup>2</sup>	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	2	4	-	-	-	-	-	-	0.004	-
河川水、水道水、井戸水	mBq/ℓ	6	12	6	6	6	6	100	100	-	-	-	-	-	-	-	-
海水	( <sup>3</sup> HはBq/ℓ)	6	12	6	6	6	6	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-
表土、海底土	Bq/kg乾	3	6	3	3	3	3	30	40	8	15	-	-	-	-	0.04	-
農畜産物、海産食品、指標生物	Bq/kg生 (牛乳はBq/ℓ)	0.4	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4	6	6	-	-	-	-	-	0.04	0.4	0.002

## 5. 試料の採取方法等

試料	採取方法等
大気浮遊じん	ろ紙 (HE-40T) に集じんする。
大気中のヨウ素	活性炭カートリッジに捕集する。
降下物	大型水盤で採取する。
河川水	表面水を採取する。
水道水、井戸水	給水栓等から採取する。
表土	表層 (0~5 cm) を採土器により採取する。
精米	モミ又は玄米を精米して試料とする。
キャベツ、ハクサイ	葉部を試料とする。
アブラナ	葉部及び蕾部を試料とする。
バレイショ、ダイコン	外皮を除き、バレイショは塊茎部を、ダイコンは根部を試料とする。
牛乳	原乳を採取する。
牛肉	もも肉を試料とする。
牧草	地上約 10 cm の位置で刈り取る。
松葉	二年生葉を採取する。
海水	表面海水を採取する。
海底土	表面底質を採泥器により採取する。
ヒラメ、カレイ アイナメ、ウスメバル	頭、骨、内臓を除き、可食部を試料とする。
コウナゴ	全体を試料とする。
アワビ	貝殻、内臓を除き、軟体部を試料とする。
ホタテ、ムラサキイガイ	貝殻を除き、軟体部を試料とする。
コンブ、チガイソ	根を除く全体を試料とする。
ウニ	殻を除き、可食部を試料とする。
タコ	目、内臓を除き、可食部を試料とする。



5. 空間放射線の測定地点図  
及び環境試料の採取地点図

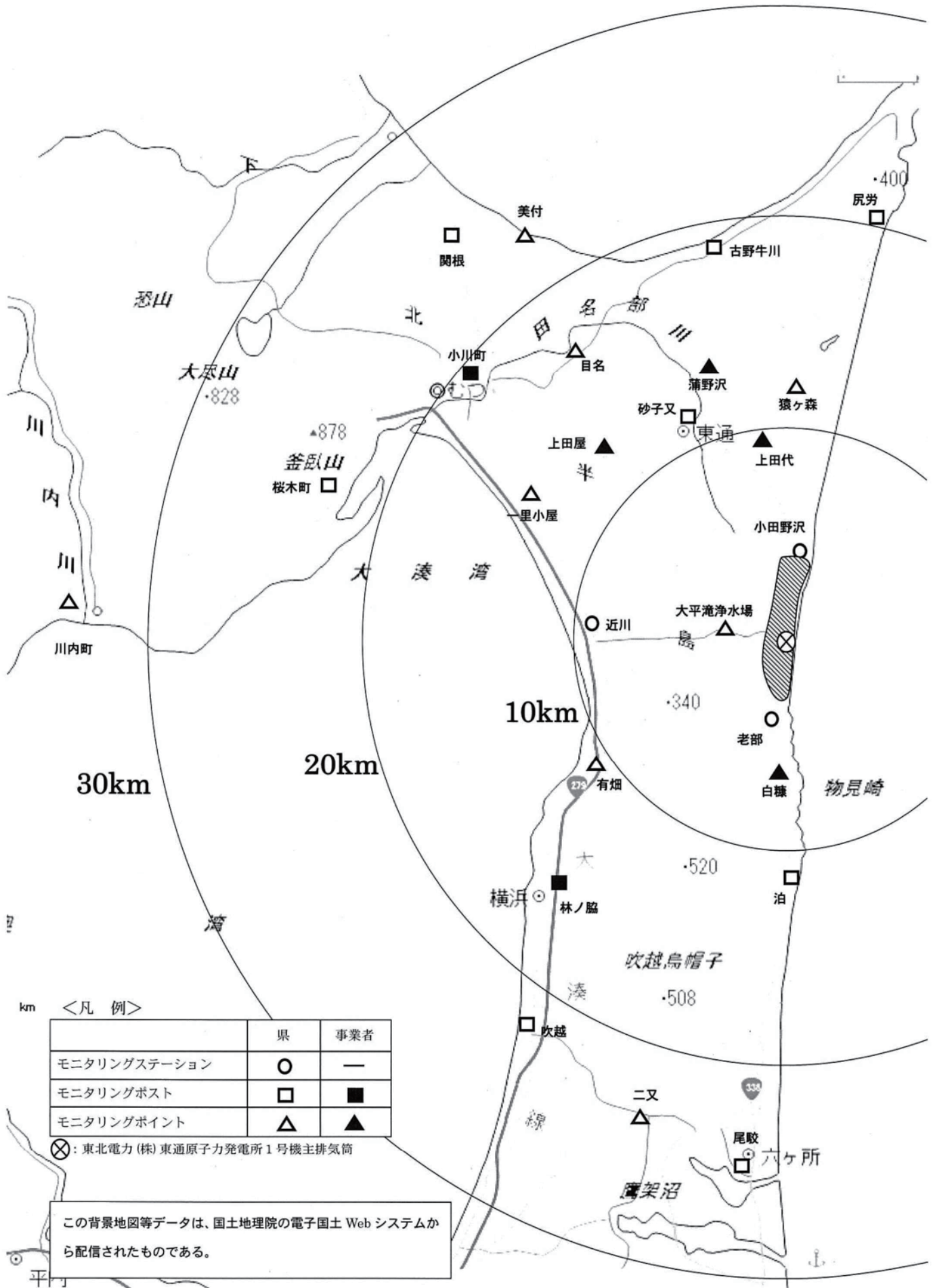


図1 空間放射線の測定地点図

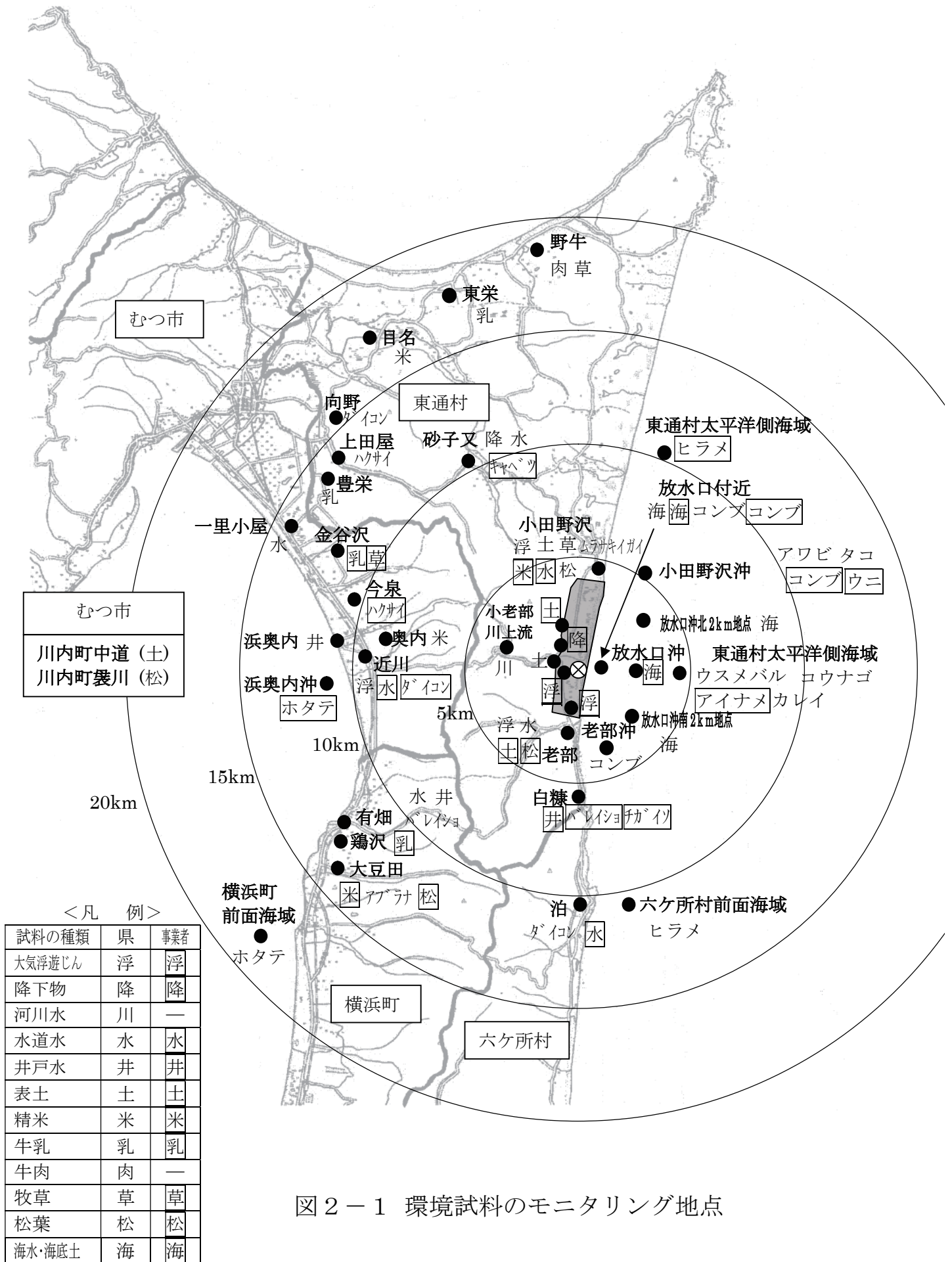


図2-1 環境試料のモニタリング地点

⊗：東北電力株式会社東通原子力発電所1号機排気筒

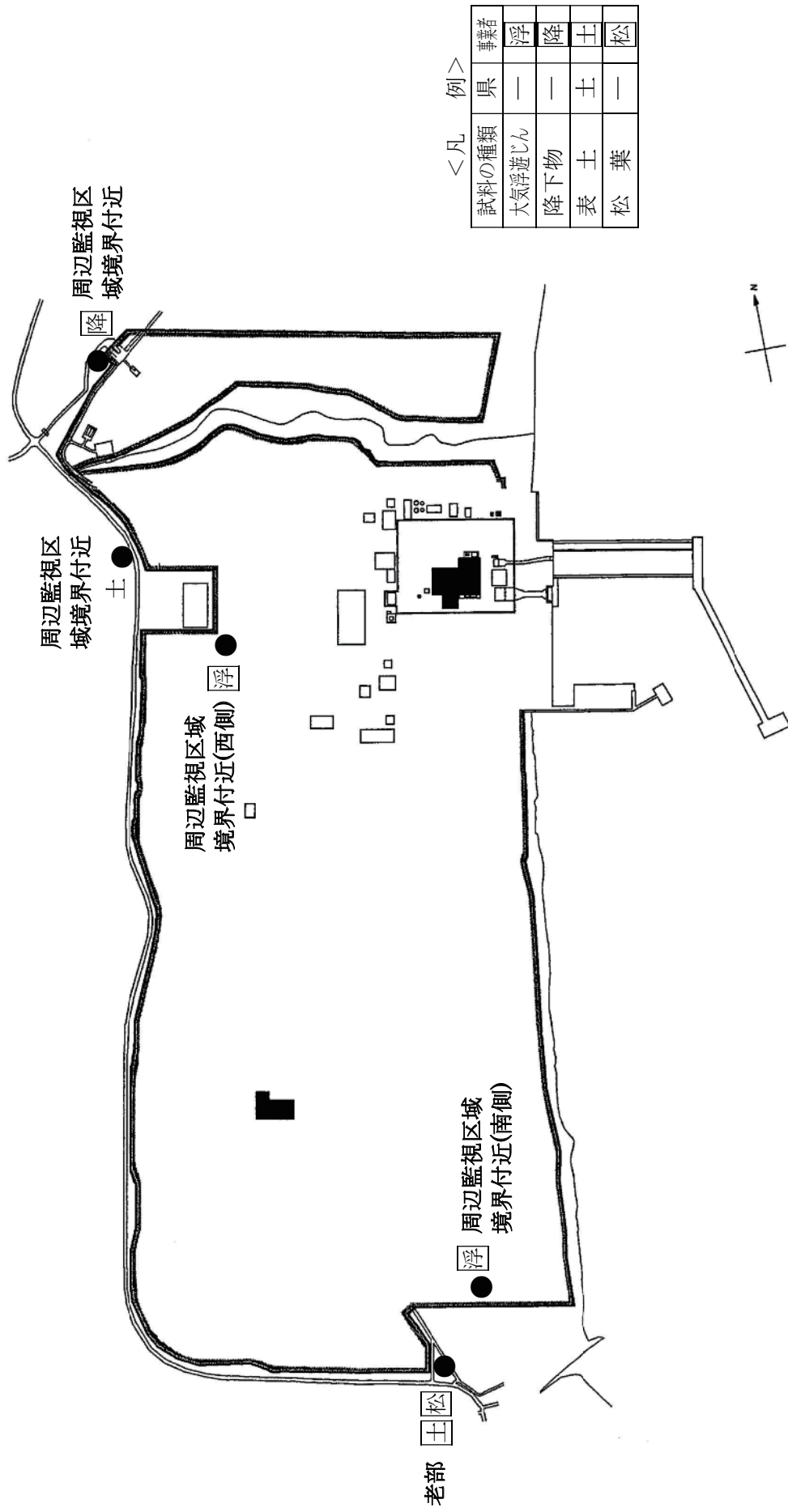


図2-2 環境試料のモニタリング地点（発電所周辺）



表3 モニタリングカーの測定計画

(県実施)

測定区分	測定地点		測定頻度	測定項目
	市町村	地点名		
定 点	東通村	白糠	四 半 期 毎	空 間 放 射 線 量 率
		大平滝浄水場		
		小田野沢		
		上田代		
		砂子又		
	むつ市	浜奥内		
		中野沢		
		横浜町		
	六ヶ所村	泊		
	* 走 行	(ルートA) 泊～発電所		
(ルートB) 発電所～砂子又				
(ルートC) 発電所～近川				
(ルートD) 浜田～奥内				

\* : 平成17年度から実施

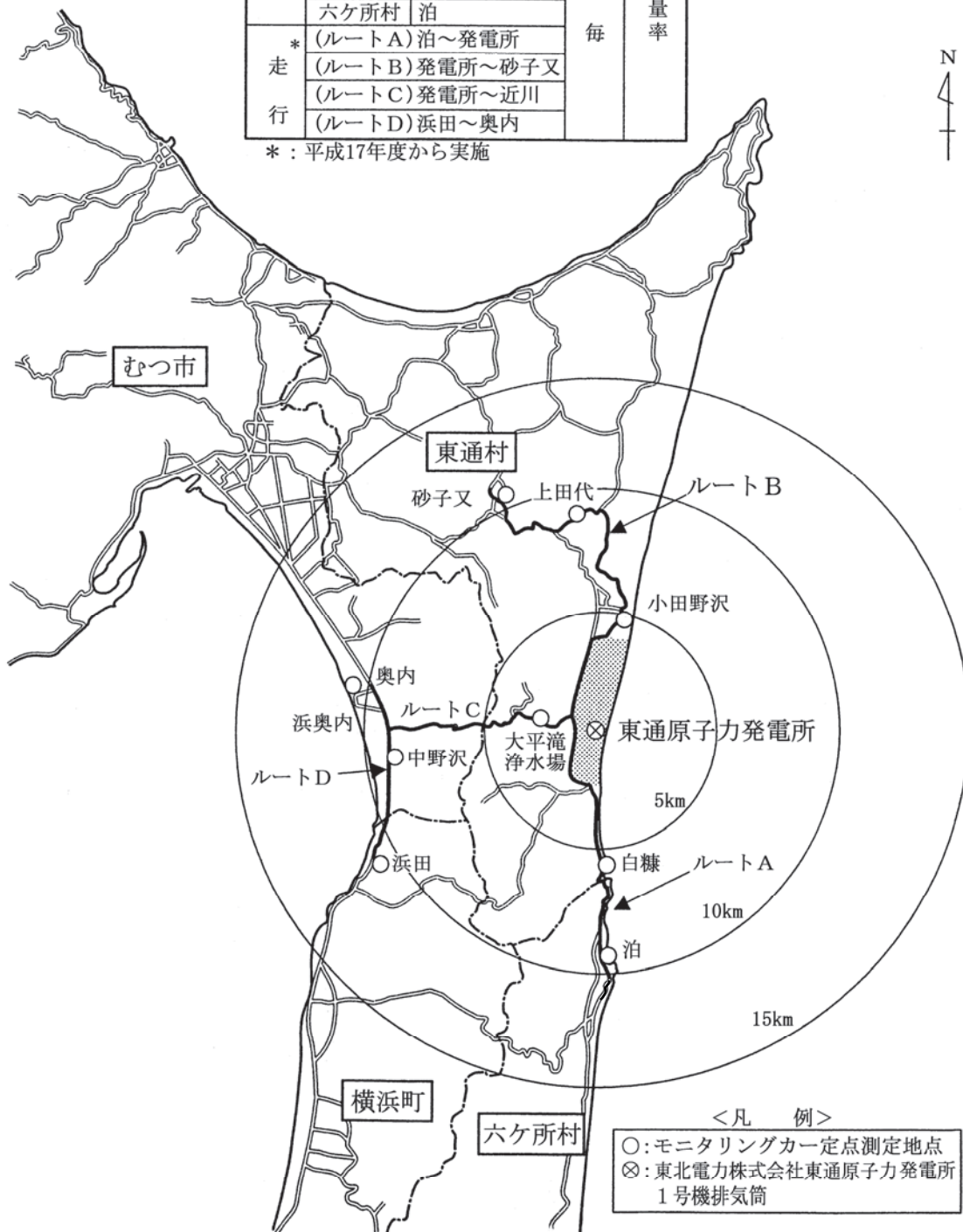


図3 モニタリングカーの定点測定地点及び走行測定ルート



# リサイクル燃料備蓄センター

#### 表中の記号

- : モニタリング対象外を示す。
- △ : 今四半期の分析対象外を示す。
- ND : 定量下限値未満を示す。分析室等で実施する環境試料中放射性核種の分析測定については、測定条件や精度を一定の水準に保つため、試料・核種毎に定量下限値を定めている(リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング実施要領 4. 数値の取扱方法(5)別表 1 参照)。
- # : 平常の変動幅を外れた測定値を示す。

# 1 調査概要

## (1) 実施者

青森県原子力センター  
リサイクル燃料貯蔵株式会社

## (2) 期間

平成 28 年 10 月～12 月(平成 28 年度第 3 四半期)

## (3) 内容

調査内容は、表 1-1 及び表 1-2 に示すとおりである。

## (4) 測定方法

『リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング実施要領』による(「資料」参照)。

表 1-1 空間放射線

測定項目		測定頻度	地点数		
			区分	青森県	事業者
空間放射線量率	モニタリングポスト	連続	施設周辺地域	1	1
			RPLDによる積算線量	3箇月積	施設周辺地域
			比較対照(むつ市川内町)	1	—

表 1-2 環境試料中の放射能(機器分析)

試料の種類			青森県		事業者	
			地点数	検体数	地点数	検体数
				γ線放出核種		γ線放出核種
陸上試料	表土		△	△	△	△
	指標生物	松葉	1	1	1	1
比較対照 (むつ市川内町)	表土		△	△	—	—
	指標生物	松葉	1	1	—	—
計			2	2	1	1

- モニタリングポスト  
空間放射線量率測定器及び積算線量計を備えた野外測定設備
- モニタリングポイント  
積算線量計を備えた野外測定設備

## 2 調査結果

リサイクル燃料備蓄センターについては、環境放射線の事前調査を実施している。

平成 28 年度第 3 四半期(平成 28 年 10 月～12 月)における環境放射線の調査結果は、これまでと同じ水準<sup>※1</sup>であった。

### (1) 空間放射線

モニタリングポストによる空間放射線量率測定及び RPLD(蛍光ガラス線量計)による積算線量測定を実施した。

#### ① 空間放射線量率(NaI)(図 2-1)

関根局、美付局における今四半期の平均値は 24、21 nGy/h、最大値は 92 nGy/h、最小値は 20、17 nGy/h であり、月平均値は 20 ～ 25 nGy/h であった。

平常の変動幅<sup>※2</sup>を上回った測定値は、すべて降雨等<sup>※3</sup>によるものと考えられる。関根局及び美付局において過去の測定値<sup>※4</sup>の範囲を上回った測定値があったが、降雨雪とともに落下した天然放射性核種の影響と考えられる。

#### ② RPLD による積算線量(図 2-2)

測定値は 87 ～ 99  $\mu$ Gy/91 日 であり、すべて平常の変動幅の範囲内であった。

---

※1:「(概ね)これまでと同じ水準」

・「これまでと同じ水準」は、測定結果について、平常の変動幅の範囲内である場合及び範囲を外れた要因が、降雨、降雪等の気象要因、医療・産業に用いる放射性同位元素の影響等と判断される場合を示す。  
・「概ねこれまでと同じ水準」は、県内外の原子力施設からの影響により、一部の測定値が平常の変動幅を上回ったが、全体的にはこれまでと同じ水準(住民等の線量が法令に定める周辺監視区域外の線量限度(年間 1 ミリシーベルト)を十分に下回るような水準にあること)と判断される場合を示す。

※2:「平常の変動幅」は空間放射線量率(モニタリングポスト)については「過去の測定値」<sup>※4</sup>の「平均値±(標準偏差の 3 倍)」。RPLD による積算線量については「過去の測定値」の「最小値～最大値」。

※3:「降雨等」とは、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などである。空間放射線量率は、降雨雪時に雨や雪に取り込まれて地表面に落下したラドンの壊変生成物の影響により上昇し、積雪により大地からの放射線が遮へいされることにより低下する。また、医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響により測定値が上昇することがある。

※4:「過去の測定値」は空間放射線については前年度までの 5 年間(平成 23～27 年度)の測定値。

図 2-1 モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

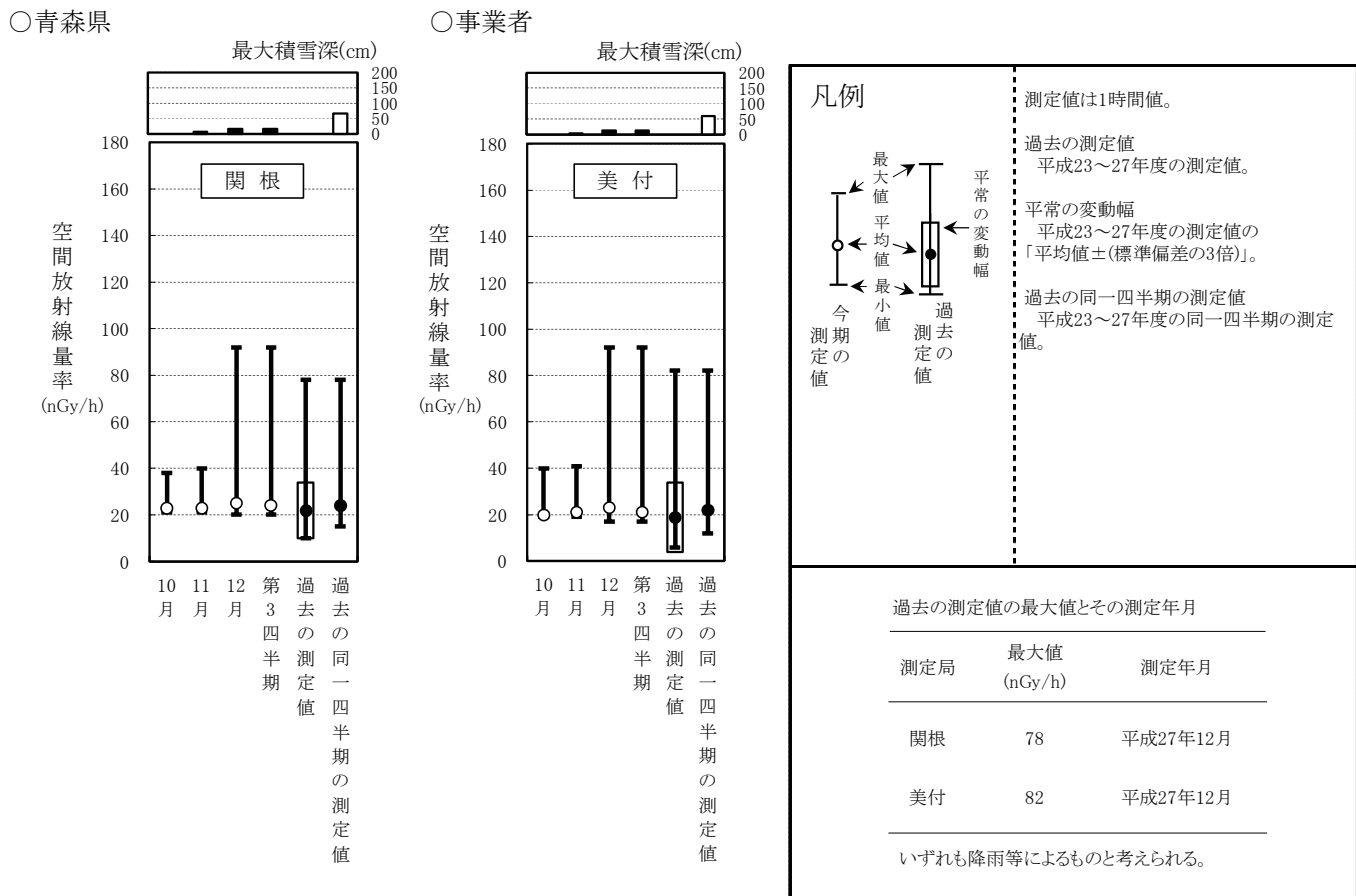
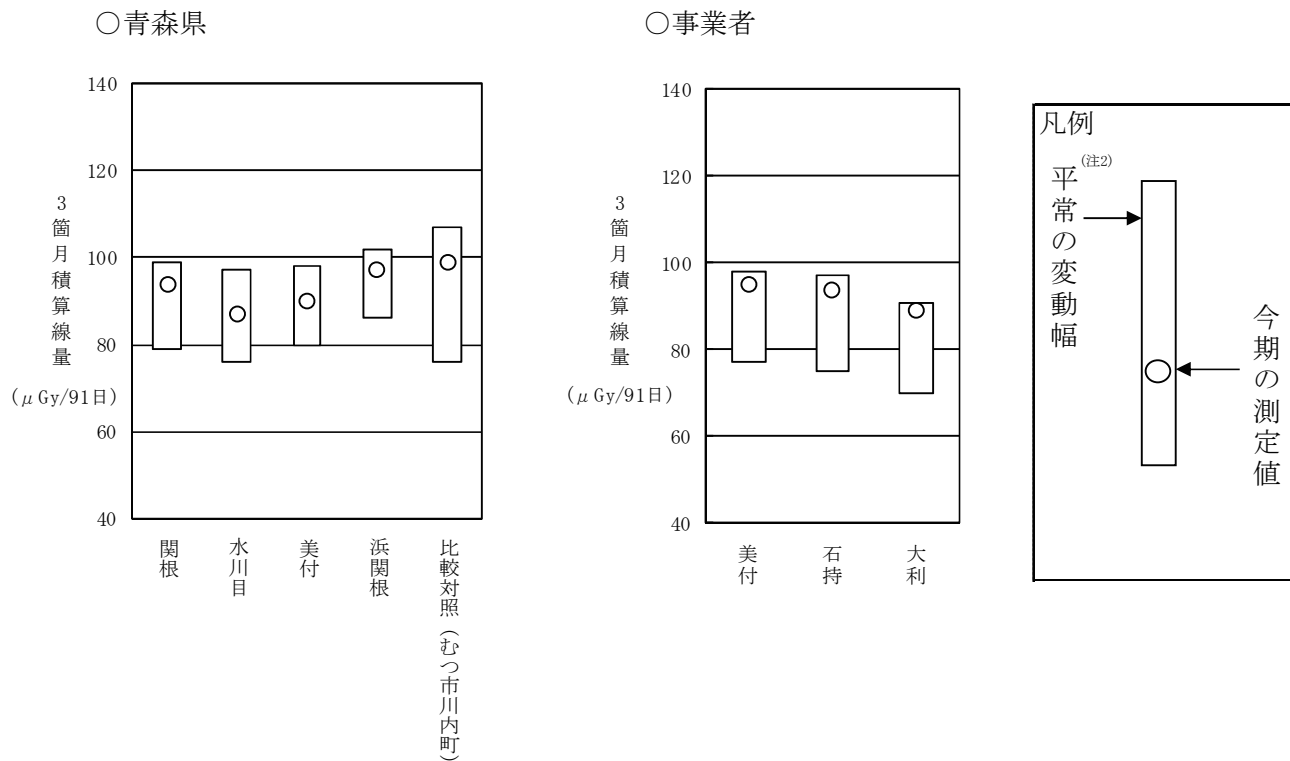


図 2-2 RPLD による積算線量測定結果 (注1)



(注1) 測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。

(注2)「平常の変動幅」は平成23～27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。



## (2)環境試料中の放射能

ゲルマニウム半導体検出器による機器分析(γ線放出核種分析)を実施した(表2-1)。

セシウム-137の測定値は、すべてNDであり、平常の変動幅の範囲内であった。

その他の人工放射性核種についても、すべてNDであった。

表2-1 γ線放出核種分析結果

試料の種類			単位	定量 下限値	セシウム-137				
					青森県		事業者		平常の変動幅
					検体数	測定値	検体数	測定値	
陸上試料	表土		Bq/kg乾	3	△	△	△	△	ND～26
	指標生物	松葉	Bq/kg生	0.4	1	ND	1	ND	ND
比較対照 (むつ市川内町)	表土		Bq/kg乾	3	△	△	-	-	7～11
	指標生物	松葉	Bq/kg生	0.4	1	ND	-	-	ND
計			-	-	2	-	1	-	-

・測定対象核種はマンガン-54、鉄-59、コバルト-58、コバルト-60、セシウム-134、セシウム-137、ベリリウム-7、カリウム-40、ビスマス-214、アクチニウム-228。なお、ビスマス-214、アクチニウム-228については、土試料のみとする。

・「平常の変動幅」は平成20～27年度の測定値の「最小値～最大値」。比較対照(むつ市川内町)については平成15～27年度の測定値の「最小値～最大値」。ただし、東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の影響が考えられる測定値については平成25年度の表土を除き平常の変動幅の設定に用いていない(平成22年度報付10、平成23年度報付16、平成24年度報付10及び平成25年度報付7参照)。



# 資 料

核種の記号及び名称

${}^7\text{Be}$ , Be-7	: ベリリウム-7
${}^{40}\text{K}$ , K-40	: カリウム-40
${}^{54}\text{Mn}$ , Mn-54	: マンガン-54
${}^{59}\text{Fe}$ , Fe-59	: 鉄-59
${}^{58}\text{Co}$ , Co-58	: コバルト-58
${}^{60}\text{Co}$ , Co-60	: コバルト-60
${}^{134}\text{Cs}$ , Cs-134	: セシウム-134
${}^{137}\text{Cs}$ , Cs-137	: セシウム-137
${}^{214}\text{Bi}$ , Bi-214	: ビスマス-214
${}^{228}\text{Ac}$ , Ac-228	: アクチニウム-228

## 1. 青森県実施分測定結果

(1)空間放射線量率測定結果

①モニタリングポストによる空間放射線量率(NaI)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
関根	10月	23	38	21	1.9	3	-	3	10~34 (22±12)	10~78	15~78 (24)	
	11月	23	40	21	2.3	5	-	5				
	12月	25	92	20	7.6	56	-	56				
	第3四半期	24	92	20	4.8	64	-	64				

- ・測定値は1時間値。
- ・測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・「平常の変動幅」は「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・「過去の測定値の範囲」は平成23~27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・「過去の同一四半期の測定値の範囲」は「過去の測定値」のうち同一四半期の測定値の「最小値~最大値」。また、括弧内の数値は平均値。
- ・「施設起因」は、監視対象施設であるリサイクル燃料備蓄センターに起因するもの。ただし、施設が操業前であるため、表には「-」として記載している。
- ・「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。

(参考)モニタリングポストによる空間放射線量率(電離箱)測定結果

(単位:nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
関根	10月	53	68	50	2.3	
	11月	54	69	50	2.6	
	12月	56	120	50	7.6	
	第3四半期	54	120	50	5.0	

- ・測定値は1時間値。
- ・測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2) 積算線量測定結果 (RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3箇月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
むつ市	関根	H28. 9.28～H28.12.27 (90)	94	79 ～ 99	
	水川目	〃	87	76 ～ 97	
	美付	〃	90	80 ～ 98	
	浜関根	〃	97	86 ～ 102	
	比較対照 (むつ市川内町)		〃	99	76 ～ 107

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日当りに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は平成23～27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

(3) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機器分析										備考	
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac		
松葉	浜ノ平	H28. 11.7	Bq/kg生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	44	83	—	—	
	比較対照 (むつ市川内町)	H28. 11.8		ND	ND	ND	ND	ND	ND	66	78	—	—		

- ・測定値は試料採取日に補正した値。

(4) 気象観測結果

① 降水量・積雪深

測定局	測定月	降水量 (mm)	積雪深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
関根	10月	86.5	0	0	0	0	0
	11月	76.0	0	7	0	0	10
	12月	194.5	2	16	0	8	65
	第3四半期	357.0	1	16	0	3	65

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、平成23～27年度の平均値及び最大値。





## 2. 事業者実施分測定結果

(1) 空間放射線量率測定結果

①モニタリングポストによる空間放射線量率 (NaI) 測定結果 (単位：nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	平常の変動幅を外れた時間数 (単位：時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位：時間)		平常の変動幅	過去の測定値の範囲	過去の同一四半期の測定値の範囲	備考
							施設起因	降雨等				
美付	10月	20	40	19	2.1	1	-	1	4~34 (19±15)	6~82	12~82 (22)	
	11月	21	41	19	2.5	2	-	2				
	12月	23	92	17	8.3	52	-	52				
	第3四半期	21	92	17	5.3	55	-	55				

- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定時間数は3箇月間で約2,200時間。
- ・ 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含まない。
- ・ 「平常の変動幅」は、「過去の測定値」の「平均値±(標準偏差の3倍)」。
- ・ 「過去の測定値」の範囲は、平成23~27年度の測定値の「最小値~最大値」。
- ・ 「施設起因」は、監視対象施設であるリサイクル燃料備蓄センターに起因するもの。ただし、施設が操業前であるため、表には「-」として記載している。
- ・ 「降雨等」に分類する要因としては、「降雨、降雪、雷雨、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化」、「医療・産業に用いる放射性同位元素等の影響」、「国内外の他の原子力施設からの影響」などが挙げられる。

(参考) モニタリングポストによる空間放射線量率 (電離箱) 測定結果 (単位：nGy/h)

測定局	測定月	平均	最大	最小	標準偏差	備考
美付	10月	54	74	52	2.2	
	11月	55	75	52	2.6	
	12月	57	122	50	8.1	
	第3四半期	56	122	50	5.3	

- ・ 測定値は1時間値。
- ・ 測定値は3 MeVを超える高エネルギー成分を含む。

(2) 積算線量測定結果(RPLD)

測定地点		測定期間(日数)	3箇月積算線量 ( $\mu$ Gy/91日)	平常の変動幅 ( $\mu$ Gy/91日)	備考
むつ市	美付	H28. 9. 28～ H28. 12. 27 (90)	95	77 ～ 98	
東通村	石持	〃	94	75 ～ 97	
	大 利	〃	89	70 ～ 91	

- ・測定値は宇宙線の一部及び自己照射の線量を含む。
- ・「3箇月積算線量」は測定期間の測定値を91日当たりに換算し整数で示した値。
- ・「平常の変動幅」は、平成23～27年度の3箇月積算線量の測定値の「最小値～最大値」。

(3) 環境試料中の放射能測定結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	機 器 分 析										備考
				<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be	<sup>40</sup> K	<sup>214</sup> Bi	<sup>228</sup> Ac	
指標生物 (松葉)	北 関 根	H28.11.16	Bq/kg 生	ND	ND	ND	ND	ND	ND	53	67	-	-	

- ・測定値は試料採取日に補正した値。

(4) 気象観測結果

①降水量・積雪深

測定局	測定月	降水量 (mm)	積 雪 深(cm)				
			平均	最大	最小	過去の値	
						平均	最大
美 付	10月	85.0	0	0	0	0	0
	11月	66.5	0	4	0	0	8
	12月	165.0	1	13	0	6	61
	第3四半期	316.5	0	13	0	2	61

- ・測定値は「地上気象観測指針(平成14年気象庁)」に基づく1時間値。
- ・積雪深における「過去の値」は、平成23～27年度の同一時期の平均値及び最大値。



### 3. リサイクル燃料備蓄センターに係る 環境放射線モニタリング実施要領

## リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング実施要領

平成 21 年 3 月策定

平成 22 年 3 月改訂

平成 26 年 4 月改訂

平成 27 年 3 月改訂

平成 28 年 11 月改訂

### 1. 趣旨

「リサイクル燃料備蓄センターに係る環境放射線モニタリング計画」により環境放射線の測定方法、分析方法等について必要な事項を定めるものとする。

## 2. 測定装置及び測定方法

### (1) 空間放射線等

項目	青 森 県		リサイクル燃料貯蔵株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
空間放射線量率	<ul style="list-style-type: none"> <li>低線量率計 3" φ×3" NaI(Tl)シンチレーション検出器（温度補償方式加温装置付）、G(E)関数荷重演算方式</li> <li>高線量率計 14 ℓ、6 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器（加温装置付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>測定法 文部科学省編「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成8年改訂）に準拠 連続測定（1時間値）</li> <li>測定位置 地上 1.8 m</li> <li>校正線源 <sup>137</sup>Cs</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低線量率計：同 左</li> <li>高線量率計 14 ℓ、8 気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器（加温装置付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同 左</li> </ul>

項目	青 森 県		リサイクル燃料貯蔵株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
積算線量	<ul style="list-style-type: none"> <li>蛍光ガラス線量計（RPLD）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>測定法 文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」（平成14年）に準拠</li> <li>素子数 地点当たり3個</li> <li>積算期間 3箇月</li> <li>収納箱 木製</li> <li>測定位置 地上 1.8 m</li> <li>校正線源 <sup>137</sup>Cs</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同 左</li> </ul>	

(2) 環境試料中の放射能

項目	青 森 県		リサイクル燃料貯蔵株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
機器分析 γ線放出 核種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲルマニウム半導体検出器</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定法 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂) 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和57年)に準拠</li> <li>・測定試料形態 表土 乾燥細土 指標生物 灰化物</li> <li>・測定容器 U-8 容器等</li> <li>・測定時間 80,000 秒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同 左</li> </ul>	

(3) 気 象

項 目	青 森 県		リサイクル燃料貯蔵株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
降 水 量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨雪量計 [転倒升方式] (気象庁検定付)</li> </ul>	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約2m	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同 左</li> </ul>	
感 雨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感雨雪器 [電極式]</li> </ul>	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約2m		
積 雪 深	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積雪計 [レーザー式] (気象庁検定付)</li> </ul>	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約3m	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積雪計 [超音波式] (気象庁検定付)</li> </ul>	測定法:指針※に準拠 測定位置:地上約3m

※:「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」(平成13年改訂 原子力安全委員会)



### 3. 環境試料中の放射能測定対象核種

$^{54}\text{Mn}$ 、 $^{59}\text{Fe}$ 、 $^{58}\text{Co}$ 、 $^{60}\text{Co}$ 、 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ 、 $^7\text{Be}$ 、 $^{40}\text{K}$ 、 $^{214}\text{Bi}$ 、 $^{228}\text{Ac}$

なお、 $^{214}\text{Bi}$ 、 $^{228}\text{Ac}$  については、土試料のみとする。

### 4. 数値の取扱方法

#### (1) 空間放射線量率

単 位	表示方法
nGy/h	整数で示す。

#### (2) 積算線量

単 位	表示方法
$\mu\text{Gy}/91\text{日}$ $\mu\text{Gy}/365\text{日}$	3箇月積算線量は、測定期間の測定値を91日当たりに換算し、整数で示す。 年間積算線量は、各期間の測定値を合計した後、365日当たりに換算し、整数で示す。

#### (3) 環境試料中の放射性核種

試 料	単 位	表示方法
表 土	Bq/kg 乾	有効数字2桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表1に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。 計数誤差は記載しない。
指標生物	Bq/kg 生	

別表1 環境試料中の放射性核種の定量下限値

試料	単 位	$\gamma$ 線放出核種										備考
		$^{54}\text{Mn}$	$^{59}\text{Fe}$	$^{58}\text{Co}$	$^{60}\text{Co}$	$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^7\text{Be}$	$^{40}\text{K}$	$^{214}\text{Bi}$	$^{228}\text{Ac}$	
表 土	Bq/kg 乾	3	6	3	3	3	3	30	40	8	15	
指標生物	Bq/kg 生	0.4	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4	6	6	-	-	

### 5. 試料の採取方法等

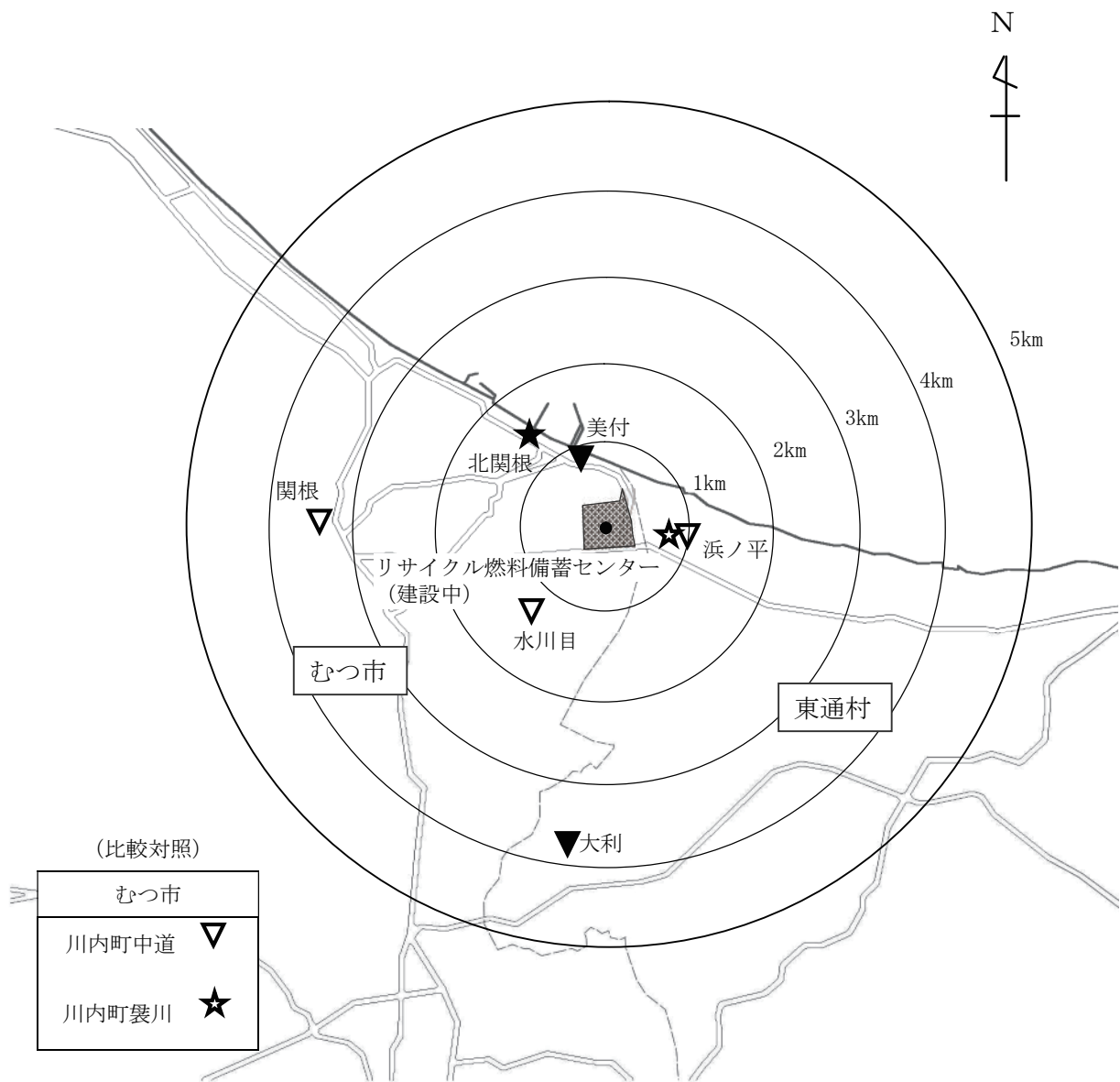
試 料	採取方法等
表 土	表層(0~5 cm)を採土器により採取する。
松 葉	二年生葉を採取する。



#### 4. 空間放射線の測定地点図 及び環境試料の採取地点図

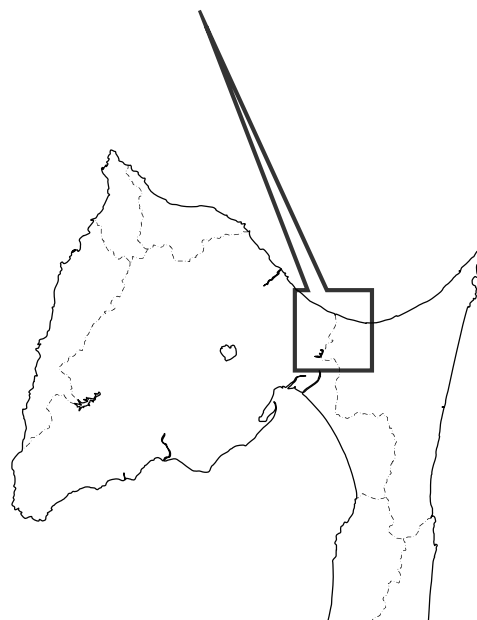


図2 環境試料の採取地点図



<凡 例>

試料の種類	県	事業者
表土	▽	▼
松葉	★	★





# 評 価 方 法 等





1. 原子燃料サイクル施設に係る  
環境放射線等モニタリング結果の評価方法

# 原子燃料サイクル施設に係る 環境放射線等モニタリング結果の評価方法

平成 2 年 4 月策定  
平成 1 3 年 7 月改訂  
平成 1 8 年 4 月改訂  
平成 2 8 年 3 月改訂

原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価については、「同施設に係る環境放射線等モニタリング構想等」の考え方に基づくほか、「環境放射線モニタリング指針（平成 2 0 年 3 月策定、平成 2 2 年 4 月一部改訂 原子力安全委員会）」等に準拠して行うものであり、同施設の特徴を踏まえながら下記のとおり適正な評価を行うものとする。

## 1. 測定値の取り扱い

### (1) 測定値の変動と平常の変動幅

空間放射線及び環境試料中の放射能の測定結果は、

- ① 試料採取方法・処理方法、測定器の性能、測定方法等の測定条件の変化
- ② 降雨、降雪、逆転層の出現等の気象要因、及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化
- ③ 核爆発実験等の影響
- ④ 原子力施設の運転状況の変化

などにより、変動を示すのが普通である。これらの要因のうち③は別として、測定条件がよく管理されており、かつ原子力施設が平常運転を続けている限り、測定値はある幅の中に納まる確率が高く、これを「平常の変動幅」と呼ぶこととする。この平常の変動幅は、分析測定上の問題、環境の変化、施設からの予期しない放出などの原因調査が必要な測定値（データ）をふるい分けるために用いる。

### (2) 平常の変動幅の決定

空間放射線（空間放射線量率、積算線量）、環境試料中の放射能濃度等についてそれぞれ平常の変動幅を次のように定める。

#### ① 空間放射線量率

連続モニタの測定値については、過去の測定値の〔平均値±（標準偏差の 3 倍）〕を平常の変動幅とする。

#### ② 積算線量

蛍光ガラス線量計（RPLD）測定値の 9 1 日換算値については、過去の測定値の最小値～最大値を平常の変動幅とする。

③ 環境試料中の放射能濃度等

環境試料中の放射能濃度等については、過去の測定値の最小値～最大値を平常の変動幅とし、環境試料の種類区分は別表のとおりとする。

④ 平常の変動幅の期間

ア 空間放射線

5年を限度とし、調査年度に近い時期を用いる。また、測定地点周辺における工事などにより、測定地点のバックグラウンドレベルに大きな変化があった場合は、それ以前のデータは参考値として扱い、1年以上経過した時点で改めて設定する。

イ 環境試料中の放射能濃度等

調査を開始した年度から調査年度の前年度までとする。

## 2. 測定結果の評価

### (1) 空間放射線の測定結果の評価

空間放射線の測定結果については、測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかを確認する。測定値が平常の変動幅を外れた場合は以下の項目について調査を行い、原因を明らかにする。

- ① 計測系及び伝送処理系の健全性
- ② 降雨等による自然放射線の増加による影響
- ③ 地形、地質等の周辺環境状況の変化
- ④ 医療・産業用放射性同位元素等の影響
- ⑤ 核爆発実験等の影響
- ⑥ 県内外の原子力施設からの影響

また、測定値が平常の変動幅を下回る場合は、積雪の影響のほか、機器の故障が考えられるので点検する。

### (2) 環境試料中の放射能濃度等の測定結果の評価

環境試料中の放射能濃度等の測定結果についても、空間放射線と同様に、測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかを確認する。測定値が平常の変動幅を外れた場合は、以下の項目について調査を行い、原因を明らかにする。

- ① 試料採取の状況
- ② 前処理、分析・測定の妥当性
- ③ 核爆発実験等の影響
- ④ 県内外の原子力施設からの影響

### (3) 施設寄与の有無の判断

測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかにかかわらず、原子燃料サイクル施設からの寄与の有無を次の事項を踏まえて判断し、測定結果に基づく線量の推定・評価に資する。

- ① 施設の操業・運転状況（放出源情報等）
- ② 気象・海象
- ③ 過去の測定値の変動状況
- ④ 空間放射線量率についてはγ線のエネルギー情報、環境試料中の放射性核種については安定元素との比や他の核種との比など

### (4) 測定結果に基づく線量の推定・評価

測定結果に施設寄与が認められた場合には、1年間の外部被ばくによる実効線量と内部被ばくによる預託実効線量とに分けて別々に算出し、その結果を総合することで施設起因の線量の推定・評価を行う。

測定結果に基づく線量の推定・評価は原則として年度ごとに行う。具体的な算出方法は、「測定結果に基づく線量算出要領（平成28年3月 青森県）」に基づくものとする。

### (5) 蓄積状況の把握

長期にわたる蓄積状況の把握は、主として河底土、湖底土、表土及び海底土の核種分析結果から、有意な差が見られるかどうかを判定するものとする。

### (6) 放出源情報に基づく線量の推定・評価

放出源情報に基づく実効線量の計算は、施設からの年間放出実績をもとに「再処理事業所 再処理事業指定申請書及びその添付書類（平成23年2月14日許可）」に示されるものと同様の計算モデル及びパラメータを用いて行う。

### (7) 総合評価

以上の測定結果及び線量評価結果を、青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議において、総合的に評価し、モニタリングの基本目標である、原子燃料サイクル施設周辺住民等の健康と安全を守るため、環境における同施設に起因する放射性物質又は放射線による周辺住民等の線量が、法令に定める周辺監視区域外の線量限度（実効線量について年間1ミリシーベルト）を十分下回っていることを確認する。

## 3. その他

本評価方法については、今後、必要に応じ適宜検討を加える。

[解 説]

1. 〔平均値±（標準偏差の3倍）〕

連続モニタから、よく管理された条件のもとで測定値が得られる場合には、個々の数値の99.73%がこの範囲に納まることを意味する。

2. 有意な差

測定値に変動が見られた場合、その変動が単なる統計上のばらつきではなく、実際に測定対象が変動していると考えられること。

3. 実効線量

人体の各組織は放射線に対する感受性がそれぞれ異なる。その違いを考慮して定められた係数（組織加重係数）を各組織が受けた線量にかけて加え合わせたものが実効線量であり、防護の目的で放射線のリスクを評価する尺度である。

4. 預託実効線量

人体内に取り込まれた放射性核種がある期間体内に残留することを考慮し、成人については摂取後50年間、子供では摂取した年齢から70歳までに受ける実効線量を積算したものが預託実効線量である。

別表 環境試料の種類区分

試料の種類			
陸上試料	大気浮遊じん		
	大気(気体状)		
	大気		
	大気(水蒸気状)		
	雨		
	降下物		
	河川水		
	湖沼水		
	水道水		
	井戸水		
	河底土		
	湖底土		
	表土		
	牛乳(原乳)		
	精米		
	野菜	ハクサイ、キャベツ	
		ダイコン	
		ナガイモ、パレイショ	
	牧草		
	デントコーン		
	淡水産食品	ワカサギ	
シジミ			
指標生物	松葉		
海洋試料	海水		
	海底土		
	海産食品	ヒラメ、カレイ	
		イカ	
		ホタテ、アワビ	
		ヒラツメガニ	
		ウニ	
		コブ	
	指標生物	チガイソ	
ムラサキイガイ			
比較対照 (青森市)	大気浮遊じん		
	大気(気体状)		
	大気		
	大気(水蒸気状)		
	表土		
	精米		
	指標生物	松葉	

## 2. 東通原子力発電所に係る 環境放射線モニタリング結果の評価方法

# 東通原子力発電所に係る 環境放射線モニタリング結果の評価方法

平成15年2月策定  
平成18年4月改訂  
平成28年3月改訂

東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング結果の評価については、「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング基本計画」の考え方に基づくほか、「環境放射線モニタリングに関する指針（平成20年3月策定、平成22年4月一部改訂 原子力安全委員会）」等に準拠して、以下のとおり適正な評価を行うものとする。

## 1. 測定値の取り扱い

### (1) 測定値の変動と平常の変動幅

空間放射線及び環境試料中の放射能の測定結果は、

- ① 試料採取方法・処理方法、測定器の性能、測定方法等の測定条件の変化
- ② 降雨、降雪、逆転層の出現等の気象要因、及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化
- ③ 核爆発実験等の影響
- ④ 原子力施設の運転状況の変化

などにより、変動を示すのが普通である。これらの要因のうち③は別として、測定条件がよく管理されており、かつ原子力施設が平常運転を続けている限り、測定値はある幅の中に納まる確率が高く、これを「平常の変動幅」と呼ぶこととする。この平常の変動幅は、分析測定上の問題、環境の変化、施設からの予期しない放出などの原因調査が必要な測定値（データ）をふるい分けるために用いる。

### (2) 平常の変動幅の決定

空間放射線（空間放射線量率、積算線量）、環境試料中の放射能濃度についてそれぞれ平常の変動幅を次のように定める。

#### ① 空間放射線量率

連続モニタの測定値については、過去の測定値の〔平均値±(標準偏差の3倍)〕を平常の変動幅とする。

#### ② 積算線量

蛍光ガラス線量計（RPLD）測定値の91日換算値については、過去の測定値の最小値～最大値を平常の変動幅とする。



③ 環境試料中の放射能濃度

環境試料中の放射能濃度については、過去の測定値の最小値～最大値を平常の変動幅とし、環境試料の種類区分は別表のとおりとする。

④ 平常の変動幅の期間

ア 空間放射線

5年を限度とし、調査年度に近い時期を用いる。また、測定地点周辺における工事などにより、測定地点のバックグラウンドレベルに大きな変化があった場合は、それ以前のデータは参考値として扱い、1年以上経過した時点で改めて設定する。

イ 環境試料中の放射能濃度

調査を開始した年度から調査年度の前年度までとする。

## 2. 測定結果の評価

### (1) 空間放射線の測定結果の評価

空間放射線の測定結果については、測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかを確認する。測定値が平常の変動幅を外れた場合は以下の項目について調査を行い、原因を明らかにする。

- ① 計測系及び伝送処理系の健全性
- ② 降雨等による自然放射線の増加による影響
- ③ 地形、地質等の周辺環境状況の変化
- ④ 医療・産業用放射性同位元素等の影響
- ⑤ 核爆発実験等の影響
- ⑥ 県内外の原子力施設からの影響

また、測定値が平常の変動幅を下回る場合は、積雪の影響のほか、機器の故障が考えられるので点検する。

### (2) 環境試料中の放射能濃度の測定結果の評価

環境試料中の放射能濃度の測定結果についても、空間放射線と同様に、測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかを確認する。測定値が平常の変動幅を外れた場合は、以下の項目について調査を行い、原因を明らかにする。

- ① 試料採取の状況
- ② 前処理、分析・測定の妥当性
- ③ 核爆発実験等の影響
- ④ 県内外の原子力施設からの影響

### (3) 施設寄与の有無の判断

測定値が平常の変動幅の範囲内にあるかどうかにかかわらず、東通原子力発電所から

の寄与の有無を次の事項を踏まえて判断し、測定結果に基づく線量の推定・評価に資する。

- ① 施設の操業・運転状況（放出源情報等）
- ② 気象・海象
- ③ 過去の測定値の変動状況
- ④ 空間放射線量率についてはγ線のエネルギー情報、環境試料中の放射性核種については安定元素との比や他の核種との比など

#### （４）測定結果に基づく線量の推定・評価

測定結果に施設寄与が認められた場合には、1年間の外部被ばくによる実効線量と内部被ばくによる預託実効線量とに分けて別々に算出し、その結果を総合することで施設起因の線量の推定・評価を行う。

測定結果に基づく線量の推定・評価は原則として年度ごとに行う。具体的な算出方法は、「測定結果に基づく線量算出要領（平成28年3月 青森県）」に基づくものとする。

#### （５）蓄積状況の把握

長期にわたる蓄積状況の把握は、主として表土及び海底土の核種分析結果から、有意な差が見られるかどうかを判定するものとする。

#### （６）放出源情報に基づく線量の推定・評価

放出源情報に基づく評価は、「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針（昭和50年5月決定 原子力委員会、平成13年3月改訂 原子力安全委員会）」に定める線量目標値（実効線量について年間50マイクロシーベルト）と比較して行う。

放出源情報に基づく実効線量の計算は、施設からの年間放出実績をもとに「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針（昭和51年9月決定 原子力委員会、平成13年3月改訂 原子力安全委員会）」に準拠して行う。

#### （７）総合評価

以上の測定結果及び線量評価結果を、青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議において、総合的に評価し、モニタリングの基本目標である、東通原子力発電所周辺住民等の健康と安全を守るため、環境における同発電所に起因する放射性物質又は放射線による周辺住民等の線量が、法令に定める周辺監視区域外の線量限度（実効線量について年間1ミリシーベルト）を十分下回っていることを確認する。

### 3. その他

本評価方法については、今後、必要に応じ適宜検討を加える。

## [解 説]

### 1. [平均値±(標準偏差の3倍)]

連続モニタから、よく管理された条件のもとで測定値が得られる場合には、個々の数値の99.73%がこの範囲に納まることを意味する。

### 2. 有意な差

測定値に変動が見られた場合、その変動が単なる統計上のばらつきではなく、実際に測定対象が変動していると考えられること。

### 3. 実効線量

人体の各組織は放射線に対する感受性がそれぞれ異なる。その違いを考慮して定められた係数（組織加重係数）を各組織が受けた線量にかけて加え合わせたものが実効線量であり、防護の目的で放射線のリスクを評価する尺度である。

### 4. 預託実効線量

人体内に取り込まれた放射性核種がある期間体内に残留することを考慮し、成人については摂取後50年間、子供では摂取した年齢から70歳までに受ける実効線量を積算したものが預託実効線量である。

別表 環境試料の種類区分

試 料 の 種 類			
陸 上 試 料	大 気 浮 遊 じ ん		
	降 下 物		
	河 川 水		
	水 道 水		
	井 戸 水		
	表 土		
	精 米		
	野 菜	バ レ イ シ ョ	
		ダ イ コ ン	
		ハ ク サ イ 、 キ ャ ベ ツ	
		ア ブ ラ ナ	
	牛 乳 ( 原 乳 )		
	牛 肉		
牧 草			
指 標 生 物	松	葉	
海 洋 試 料	海 水		
	海 底 土		
	海 産 食 品	ヒ ラ メ 、 カ レ イ 、 ウ ス メ バ ル 、 コ ウ ナ ゴ 、 ア イ ナ メ	
		ホ タ テ 、 ア ワ ビ	
		コ ン ブ	
		タ コ	
	ウ ニ		
	指 標 生 物	チ ガ イ ソ	
ム ラ サ キ イ ガ イ			
比 較 対 照 (むつ市川内町)	表 土		
	指 標 生 物	松	葉

### 3. 測定結果に基づく線量算出要領

# 測定結果に基づく線量算出要領

[平成28年3月策定]

## 1. 目的

「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法(平成28年3月改訂 青森県)」及び「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング結果の評価方法(平成28年3月改訂 青森県)」に基づき推定・評価する施設起因の線量の具体的な算出方法を定めるものである。

## 2. 線量の推定・評価

測定結果に基づく施設起因の線量の推定・評価は、測定値が平常の変動幅の範囲内かどうかにかかわらずモニタリング対象施設からの影響が認められた場合、1年間の外部被ばくによる実効線量と内部被ばくによる預託実効線量をそれぞれ算出し、その結果を総合することで行う。

### (1) 外部被ばくによる実効線量

モニタリングステーション及びモニタリングポストにおける実効線量の算出においては、NaI(Tl)シンチレーション検出器による空間放射線量率及び大気中の気体状β放射能濃度を用いることとする。それぞれの測定結果に施設寄与が認められた場合は、地点ごとに空間放射線量率(1時間値)からγ線による実効線量と、大気中の気体状β放射能濃度(1時間値)からβ線による実効線量を算出し、両者を合計する。ただし、β線による実効線量の算出は、原子燃料サイクル施設に係るモニタリングステーションを対象とする。

モニタリングポイントにおいてRPLDによる積算線量の測定結果に施設寄与が認められた場合は、地点ごとに積算線量から実効線量を算出する。

外部被ばくによる実効線量は、上記の地点ごとの実効線量のうち最も高い値とする。

### 1) γ線による実効線量

#### ① NaI(Tl)シンチレーション検出器の測定結果に基づく算出

空間放射線量率については、SCA 弁別法<sup>注1</sup>を用いて求めた人工放射性核種による線量率(以下「推定人工線量率」という。)に測定時間(1h)を乗じて1年間分すべて積算し、換算係数0.8<sup>注2</sup>を乗じて実効線量を算出する(式(1))。

$$\text{実効線量(mSv)} = \underbrace{\sum(\text{推定人工線量率(nGy/h)} \times 1(\text{h}))}_{\text{正負すべての積算値(nGy)}} \times 0.8(\text{Sv/Gy}) / 10^6(\text{nSv/mSv}) \cdots \text{式(1)}$$

#### ※SCA 弁別法による推定人工線量率算出方法

空間放射線量率を目的変数、SCA(Bi)及び SCA(Tl)を説明変数とする重回帰分析を行い、得られた重回帰式(式(2))から自然放射性核種寄与分の線量率(以下「推定自然線量率」という。)を求め、空間放射線量率から推定自然線量率を差し引いて推定人工線量率を算出する(式(3))。

重回帰式の定数(式(2)の a,b,c)は、使用済燃料のせん断・溶解期間以外で施設寄与を含まない測定値から、原則として四半期ごとに算出する。

$$\text{推定自然線量率(nGy/h)} = a \times \text{SCA(Bi)} + b \times \text{SCA(Tl)} + c \cdots \text{式(2)}$$

$$\left( \begin{array}{l} \text{SCA(Bi): Bi-214 エネルギー領域(1.65~2.5MeV)の計数率(cps)} \\ \text{SCA(Tl): Tl-208 エネルギー領域(2.51~3MeV)の計数率(cps)} \\ \text{a,b,c : 1時間値を用いた重回帰分析により求めた定数} \end{array} \right)$$

$$\text{推定人工線量率(nGy/h)} = \text{空間放射線量率(nGy/h)} - \text{推定自然線量率(nGy/h)} \cdots \text{式(3)}$$

注1 K.Kumagai, H.Ookubo and H.Kimura, "Discrimination between natural and other gamma ray sources from environmental gamma ray dose rate monitoring data" Radiation Protection Dosimetry, **167**,293-297(2015)

注2 環境放射線モニタリング指針(平成20年3月原子力安全委員会)解説I参照

## ② RPLD の測定結果に基づく算出

積算線量については、四半期ごとの測定結果に施設寄与が認められた場合、その測定値から原則として過去5年間の第1～第3四半期の施設寄与が認められない測定値の平均値をバックグラウンドとして差し引き、1年間分積算した値に0.8を乗じて実効線量を算出する(式(4))。ただし、第4四半期については積雪の状況を考慮してバックグラウンドを推定する。

$$\text{実効線量(mSv)} = \Sigma(\text{施設寄与分の積算線量}(\mu\text{Gy})[\text{四半期}]) \times 0.8(\text{Sv/Gy})/10^3(\mu\text{Sv/mSv}) \cdots \text{式(4)}$$

## 2) $\beta$ 線による実効線量

六ヶ所再処理施設の安全審査におけるクリプトン-85からの $\beta$ 線による実効線量の算出方法に準じ、 $\beta$ 線ガスモニタによる大気中の気体状 $\beta$ 放射能濃度(1時間値)を1年間分すべて積算し、これに皮膚の等価線量係数、体表面積の平均化係数及び組織加重係数を乗じて実効線量を算出する(式(5))。気体状 $\beta$ 放射能濃度は、気体状 $\beta$ 放射能計数率からバックグラウンド計数率を差し引き、クリプトン濃度換算係数を乗じて算出する(式(6))。バックグラウンド計数率は、原則として気体状 $\beta$ 放射能計数率の推移のベースラインに相当する1年間の最頻値とする。

$$\text{実効線量(mSv)} = \underbrace{\Sigma(\text{気体状}\beta\text{放射能濃度(kBq/m}^3))}_{\substack{\text{正負すべての} \\ \text{積算値(kBq/m}^3)}} \times A/365(\text{day/y})/24(\text{h/day}) \times 10^3(\text{mSv/Sv}) \times 10^3(\text{Bq/kBq}) \times B \times C \cdots \text{式(5)}$$

$$\text{気体状}\beta\text{放射能濃度(kBq/m}^3) = (\text{気体状}\beta\text{放射能計数率(s}^{-1}) - \text{バックグラウンド計数率(s}^{-1})) \times K \times 10^{-3}(\text{kBq/Bq}) \times 10^6(\text{m}^3/\text{cm}^3) \cdots \text{式(6)}$$

$$\left[ \begin{array}{l} A: \text{クリプトン-85の}\beta\text{線による皮膚等価線量係数}^{\text{注3}} (4.1 \times 10^{-7} (\text{Sv/y})/(\text{Bq/m}^3)) \\ B: \text{体表面積の平均化係数}^{\text{注3}} (1) \\ C: \text{皮膚の組織加重係数}^{\text{注3}} (0.01) \\ K: \text{クリプトン濃度換算係数}(\text{Bq}\cdot\text{cm}^{-3}/\text{s}^{-1}) (\text{測定器ごとにクリプトン-85標準ガスを用いて決定}) \end{array} \right]$$

## (2) 内部被ばくによる預託実効線量

### 1) 対象試料

#### ① 原子燃料サイクル施設

大気浮遊じん、大気、水道水、精米、ハクサイ、キャベツ、ダイコン、ナガイモ、バレイショ、牛乳(原乳)、ワカサギ、シジミ、ヒラメ、コンブ、ホタテ、ヒラツメガニ、イカ、アワビ、ウニ等

#### ② 東通原子力発電所

大気浮遊じん、大気、水道水、井戸水、精米、ハクサイ、ダイコン、キャベツ、バレイショ、アブラナ、牛乳(原乳)、牛肉、ヒラメ、カレイ、アイナメ、ウスメバル、コウナゴ、コンブ、ホタテ、アワビ、タコ、ウニ等

### 2) 対象核種

#### ① 原子燃料サイクル施設

$^{54}\text{Mn}$ 、 $^{60}\text{Co}$ 、 $^{106}\text{Ru}$ 、 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ 、 $^{144}\text{Ce}$ 、 $^3\text{H}$ 、 $^{14}\text{C}$ 、 $^{90}\text{Sr}$ 、 $^{131}\text{I}$ 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、U

#### ② 東通原子力発電所

$^{54}\text{Mn}$ 、 $^{59}\text{Fe}$ 、 $^{58}\text{Co}$ 、 $^{60}\text{Co}$ 、 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ 、 $^3\text{H}$ 、 $^{90}\text{Sr}$ 、 $^{131}\text{I}$

注3

係数A: D.C.Kocher, "Dose-Rate Conversion Factors for External Exposure to Photons and Electrons", NUREG/CR-1918, ORNL/NUREG-79(1981)

係数B: 「発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について」(平成元年3月原子力安全委員会了承、一部改訂平成13年3月原子力安全委員会) 原子炉安全基準専門部会報告書

係数C: "1990 Recommendations of the International Commission on Radiological Protection", ICRP Publication 60 (1991)

各試料の対象核種は、「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング基本計画」及び「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施計画」による。

### 3) 預託実効線量の算出

成人を対象とし、対象試料中の放射性核種測定結果から式(7)及び式(8)により、食品等の種類ごと及び核種ごとに1年間の経口摂取又は吸入摂取による預託実効線量を算出し、それぞれを合算する。この際、測定結果から求めた核種濃度の食品等を1年間継続して摂取したこととする。

$$\text{預託実効線量(mSv)} = \text{年間の核種摂取量(Bq)} \times \text{実効線量係数(mSv/Bq)} \quad \cdots\text{式(7)}$$

$$\begin{aligned} \text{年間の核種摂取量(Bq)} &= \text{施設に起因する核種濃度(食品等の種類ごと)} \\ &\quad \times \text{食品等の1日の摂取量} \times \text{食品等の摂取日数} \quad \cdots\text{式(8)} \end{aligned}$$

食品等の1日の摂取量	: 別表1に示す。
食品等の摂取日数	: 原則として365日とする。
実効線量係数	: 別表2に示す。

### 4) 施設に起因する核種濃度算出方法

環境試料中の放射性核種濃度に施設寄与が認められた場合には、別表1に示す食品等の種類ごとに次の①～⑦のとおり核種濃度を算出する。この際、「ND」は定量下限値として計算に用いる。

#### ① 米、葉菜及び根菜・いも類における核種濃度

これらの食品等に該当する環境試料は、年1回採取していることから、食品等の種類ごとにそれぞれ最も高い測定値を核種濃度として用いる。ただし、トリチウムについては⑥、炭素-14については⑦のとおりとする。

#### ② 海水魚における核種濃度

海水魚に該当する環境試料は、年1回採取していることから、最も高い測定値を核種濃度として用いる。ただし、トリチウムについては⑥のとおりとする。

#### ③ 淡水魚、無脊椎動物(海水産)、無脊椎動物(淡水産)、海藻類及び牛肉における核種濃度

これらの食品等に該当する環境試料は、年1回採取していることから、食品等の種類ごとにそれぞれ最も高い測定値を核種濃度として用いる。

#### ④ 牛乳における核種濃度

牛乳は、年4回採取していることから、四半期ごとの全採取地点の最大値を年間で平均した値を核種濃度として用いる。ただし、トリチウムについては⑥のとおりとする。

#### ⑤ 飲料水及び空気における核種濃度

これらの環境試料は、週1回～年4回採取しており、基本的にその地域で摂取されることから、採取地点ごとに年間平均値を求め、それぞれ最も高い値を核種濃度として用いる。ただし、トリチウムについては⑥のとおりとする。

#### ⑥ 米、葉菜、根菜・いも類、海水魚、牛乳、飲料水及び空気中トリチウム濃度

これらの食品等のトリチウム濃度については、次のア及びイのとおり算出する。

##### ア 米、葉菜、根菜・いも類、海水魚及び牛乳

食品中トリチウムについては、式(9)を用いて核種濃度を算出する。食品中の水素の質量割合は自由水及び有機物を合計したものであり、実効線量係数は数値の大きい有機物の値を用いる。

米、葉菜、根菜・いも類及び牛乳については、大気中水蒸気状トリチウム濃度に施設寄与が認められた場合、これらの環境試料に移行することが考えられるため、環境試料中の自由水及び有機物のトリチウム比放射能が大気中水分の比放射能と等しくなるものと仮定して食品等の



種類ごとに算出する。式(9)のトリチウム濃度は大気中水分のトリチウム測定結果から次のイで求めた年間平均値の最大値を用いる。

海水魚については、ヒラメ等の自由水トリチウムの最も高い測定値を式(9)のトリチウム濃度として用いる。食品中トリチウムの核種濃度は自由水と有機物のトリチウムを合わせたものであり、有機物のトリチウム比放射能が自由水に等しいと仮定して算出する。

$$\begin{aligned} & \text{食品中トリチウムの核種濃度 (Bq/kg)} \\ & = (\text{トリチウム濃度 (Bq/L)} / \text{水 1L 当たりの水素量 (kg/L)}) \\ & \quad \times \text{食品中の水素の質量割合} \quad \dots \text{式(9)} \end{aligned}$$

$$\left[ \begin{array}{ll} \text{水 1L 当たりの水素量} & : 1 \times 2 / 18 = 0.11 \text{ (kg/L)} \\ \text{食品中の水素の質量割合} & : \text{別表 3 に示す。} \end{array} \right]$$

#### イ 飲料水及び空気

これらの環境試料については、採取地点ごとに年間平均値を求め、それぞれ最も高い値をトリチウム濃度として用いる。飲料水中ではほとんどのトリチウムが水の形で存在することから実効線量係数は水の値を用いる。また、空気中のトリチウムの化学形については、主に水、水素及び炭化水素が考えられるが、実効線量係数は最も大きい水の値を用いる。

大気中水蒸気状トリチウムの吸入摂取については、皮膚からの吸収分(呼吸による吸収分の0.5倍)を加算する。

#### ⑦ 米、葉菜及び根菜・いも類中の炭素-14 濃度

炭素-14 については、放射能濃度に比べ比放射能に施設寄与がより明確に認められることから、比放射能の施設寄与分から式(10)により放射能濃度の施設寄与分を求める。食品等の種類ごとに求めた施設寄与分の放射能濃度の最大値を預託実効線量の算出に用いる。

$$\begin{aligned} & \text{施設寄与分の炭素-14 濃度 (Bq/kg)} = \text{放射能濃度測定値 (Bq/kg 生)} \\ & \quad \times (\text{施設寄与分の比放射能 (Bq/g 炭素)} / \text{比放射能測定値 (Bq/g 炭素)}) \dots \text{式(10)} \end{aligned}$$

#### 5) 施設寄与分を見積もるためのバックグラウンドの差し引き

##### ① セシウム-137、ストロンチウム-90、プルトニウム等

過去 3 年間のモニタリング結果に定量下限値以上の測定値がある環境試料については、対象施設からの寄与が認められない測定値の平均値をバックグラウンドとして差し引く。

##### ② 炭素-14

炭素-14 は、比放射能について施設寄与の弁別を行う。過去 3 年間の施設寄与が認められない測定値が得られる場合は、その平均値をバックグラウンドとして差し引く。これが難しい場合は、それ以前の施設寄与が認められない測定値を用いて求めた炭素-14 の減衰曲線から、当該年度の炭素-14 のバックグラウンドを推定し、これを差し引く。

### 3. 実効線量の表示方法

(1) 単位はミリシーベルト (mSv) とする。

(2) 外部被ばくによる実効線量、内部被ばくによる預託実効線量及びこれらを合計した実効線量は、小数第 3 位を四捨五入し小数第 2 位までの値を記載する。

ただし、外部被ばくによる実効線量の下限値及び内部被ばくによる預託実効線量の下限値を 0.01mSv、合計した実効線量の下限値を 0.02mSv とし、算出した実効線量が下限値未満の場合は下限値に「<」を付して記載する。

#### 4. その他

本要領については、今後、必要に応じ適宜検討を加える。

別表1 食品等の1日の摂取量(成人)

食品等の種類	1日の摂取量	該当する環境試料
米	320 g	精米
葉 菜	370 g	ハクサイ、キャベツ、アブラナ
根 菜 ・ い も 類	230 g	ダイコン、ナガイモ、バレイショ
海 水 魚	200 g	ヒラメ、カレイ、アイナメ、ウスメバル、コウナゴ等
淡 水 魚	30 g	ワカサギ
無脊椎動物(海水産)	80 g	ホタテ、ヒラツメガニ、イカ、アワビ、タコ、ウニ等
無脊椎動物(淡水産)	10 g	シジミ
海 藻 類	40 g	コンブ等
牛 乳	0.25 ℓ	牛乳(原乳)
牛 肉	20 g	牛肉
飲 料 水	2.65 ℓ	水道水、井戸水
空 気	22.2 m <sup>3</sup>	大気浮遊じん、大気

- ・「線量評価における食品等の摂取量について」(平成17年度第4回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会(平成18年1月24日開催)提出資料)による。
- ・大気:水蒸気状トリチウムの場合は、ICRP Publication 71により、皮膚からの吸収分(呼吸による吸収分の0.5倍)を加算する。

別表2 1 Bqを経口又は吸入摂取した場合の成人の実効線量係数 (単位:mSv/Bq)

核種	経口摂取	吸入摂取	備考
<sup>54</sup> Mn	$7.1 \times 10^{-7}$	$1.5 \times 10^{-6}$	
<sup>59</sup> Fe	$1.8 \times 10^{-6}$	$4.0 \times 10^{-6}$	
<sup>58</sup> Co	$7.4 \times 10^{-7}$	$2.1 \times 10^{-6}$	
<sup>60</sup> Co	$3.4 \times 10^{-6}$	$3.1 \times 10^{-5}$	
<sup>106</sup> Ru	$7.0 \times 10^{-6}$	$6.6 \times 10^{-5}$	
<sup>134</sup> Cs	$1.9 \times 10^{-5}$	$9.1 \times 10^{-6}$	
<sup>137</sup> Cs	$1.3 \times 10^{-5}$	$9.7 \times 10^{-6}$	
<sup>144</sup> Ce	$5.2 \times 10^{-6}$	$5.3 \times 10^{-5}$	
<sup>3</sup> H	$1.8 \times 10^{-8}$ (水)	$1.8 \times 10^{-8}$ (水)	飲料水及び空気
	$4.2 \times 10^{-8}$ (有機物)		米、葉菜、根菜・いも類、海水魚及び牛乳
<sup>14</sup> C	$5.8 \times 10^{-7}$		
<sup>90</sup> Sr	$2.8 \times 10^{-5}$	$3.6 \times 10^{-5}$	
U	$4.9 \times 10^{-5}$	$9.4 \times 10^{-3}$	
<sup>239+240</sup> Pu	$2.5 \times 10^{-4}$	$5.0 \times 10^{-2}$	
<sup>131</sup> I	$1.6 \times 10^{-5}$	$1.5 \times 10^{-5}$	

- <sup>134</sup>Cs、<sup>137</sup>Cs、<sup>90</sup>Sr及び<sup>239+240</sup>Puの吸入摂取については、ICRP Publication 72に示されているものうち、タイプMの値を用いた。
- Uの経口摂取及び吸入摂取については、ICRP Publication 72に示されている<sup>234</sup>U、<sup>235</sup>U、<sup>238</sup>Uのうち、最も大きな値を用いた。
- 上記以外の値は「環境放射線モニタリング指針(平成20年3月 原子力安全委員会)」による。
- ただし、分析方法等から化学形等が明らかでない場合には、原則としてICRP Publication 72などから当該化学形等に相当する実効線量係数を使用する。

別表3 食品等の水素の質量割合

食品等の種類	該当する環境試料	水素の質量割合
米	精米	0.066
葉菜	ハクサイ、キャベツ、アブラナ	0.11
根菜・いも類	ダイコン、ナガイモ、バレイショ	0.10
海水魚	ヒラメ等	0.10
牛乳	牛乳(原乳)	0.11

- 水素の質量割合は、「再処理事業所 再処理事業変更許可申請書及びその添付書類」(平成17年9月29日許可)から引用した。ただし、海水魚については、調査研究事業で実施したヒラメの組織自由水量と燃焼水量の実測値から算出した20検体分(平成22年度～平成26年度)の平均値を用いた。



#### 4. 自然放射線等による線量算出要領

## ま え が き

青森県では、六ヶ所再処理工場における使用済燃料を用いた総合試験（アクティブ試験）の開始を前に、平成 17 年度第 4 回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議において「六ヶ所再処理工場の操業と線量評価について」等の議案が審議され、施設起因の線量を推定・評価するための県の基本的な考え方について了承された。

その中で、これまで本要領に基づき算出してきた自然放射線等による実効線量については、施設起因の線量の比較参考データとして引き続き算出していくこととしており、また、平成 17 年 12 月に営業運転を開始した東通原子力発電所についても、同様に自然放射線等による実効線量を算出することとしている。

これらを踏まえ、東通原子力発電所に係る対象核種を追加するとともに、本要領に基づき自然放射線等による実効線量の算出を行うことを明確にするため、本要領の名称を「自然放射線等による線量算出要領」に変更した。

また、県が平成 15～16 年度に六ヶ所村、東通村及びその周辺市町村において実施した食品摂取量調査結果等をもとに、食品等の 1 日の摂取量の見直しを行うとともに、原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリングにおいて、積算線量の測定を平成 17 年度に熱ルミネセンス線量計（TLD）から蛍光ガラス線量計（RPLD）に変更したことから、併せて所要の改訂を行った。

平成 18 年 4 月 青森県原子力センター

## 平成 13 年度版

# ま え が き

「環境放射線モニタリングに関する指針」（以下「モニタリング指針」という。）は、平成 12 年 8 月に、「必要に応じてウラン又はプルトニウムによる骨表面又は肺の等価線量を算定する」等、原子力緊急事態の発生への対応、研究炉、核燃料関連施設における事故への対応等に留意した改訂が行われ、平成 13 年 3 月には、国際放射線防護委員会（ICRP）1990 年勧告の取入れに伴う関係法令の改正に合わせ「線量当量」から「線量」に変更するなどの用語の変更とともに、内部被ばくに係る線量係数（Sv/Bq）の変更に伴う改訂等が行われた。

以上をふまえ、「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法」及び「測定結果に基づく線量当量算出要領」を改訂した。

平成 13 年 7 月 原子力安全対策課

## 平成6年度版

### ま え が き

第1回原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等監視連絡会議\*（平成元年8月10日開催）において、「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング構想、基本計画及び実施要領（平成元年3月策定（平成5年3月改訂）、青森県）」の考え方に基づく「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法」（以下、「評価方法」という。）の審議を始め、その後検討を重ねた結果、第4回会議（平成2年4月24日開催）において、「評価方法」が決定された。また、外部への分析委託のなくなる平成5年度からの適用をめざして、定量下限値（試料、核種ごとに分析の精度を担保するために定めた定量の下限値）が、第15回会議（平成5年2月15日開催）にて決定された。

そこで、「評価方法」に基づく線量当量を算出するにあたって更に具体的事項を整理して、ここに「測定結果に基づく線量当量算出要領」としてまとめたものである。

なお、原子燃料サイクル施設のうちウラン濃縮工場及び低レベル放射性廃棄物埋設センターは、平常時運転において放射性物質を放出する可能性が極めて小さい施設であり、環境放射線等モニタリングの測定結果により、これを確認し評価してきている。したがって、これら施設に起因する実効線量当量を評価する必要はない。一方、再処理施設や原子力発電所は、平常時運転において、ごくわずかであるが、放射性物質を放出する施設であることから、これら施設に起因する公衆の実効線量当量を推定・評価し、自然放射線等による実効線量当量と比較検討することは意義のあることである。

以上の観点から、今後、本要領により、自然放射線等による実効線量当量を算出していくこととする。

平成6年4月 青森県環境保健部原子力環境対策室

---

\* 組織の拡充に伴い、平成2年8月10日に「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等監視評価会議」に名称を変更した。



# 自然放射線等による線量算出要領

平成 6年 4月策定  
平成 13年 7月改訂  
平成 18年 4月改訂

## 1. 目 的

『原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング結果の評価方法』及び『東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング結果の評価方法』に基づき推定・評価する施設起因の線量と比較するため、自然放射線等による線量を算出することとし、その算出方法を定めるものである。

## 2. 外部被ばくによる実効線量

- (1) 評価対象期間中の蛍光ガラス線量計（RPLD）による積算線量測定結果から、地点毎に年間積算線量（Gy）を求める。
- (2) 年間積算線量から対照用 RPLD の年間積算線量（宇宙線成分及び RPLD の自己照射の寄与分に相当）を差し引く。
- (3) 対照用 RPLD の測定結果に欠測があった場合は、適切な過去の測定結果を用いる。
- (4) その結果に、換算係数 0.8（Sv/Gy）を乗じて、地点毎の実効線量を算出する。

## 3. 内部被ばくによる預託実効線量

### (1) 対 象 試 料

#### ① 原子燃料サイクル施設

大気浮遊じん、大気、水道水、農畜産物（精米、野菜、牛乳）、淡水産食品（ワカサギ、シジミ等）、海産食品（ヒラメ、コンブ、ホタテ、ヒラツメガニ、イカ、アワビ、ウニ等）

#### ② 東通原子力発電所

大気浮遊じん、大気、水道水、井戸水、農畜産物（精米、野菜、牛乳、牛肉）、海産食品（ヒラメ、ウスメバル、コンブ、ホタテ、アワビ、タコ、ウニ等）

### (2) 対 象 核 種

#### ① 原子燃料サイクル施設

$^{54}\text{Mn}$ 、 $^{60}\text{Co}$ 、 $^{106}\text{Ru}$ 、 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ 、 $^{144}\text{Ce}$ 、 $^3\text{H}$ 、 $^{14}\text{C}$ 、 $^{90}\text{Sr}$ 、 $^{131}\text{I}$ 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、U

#### ② 東通原子力発電所

$^{54}\text{Mn}$ 、 $^{59}\text{Fe}$ 、 $^{58}\text{Co}$ 、 $^{60}\text{Co}$ 、 $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ 、 $^3\text{H}$ 、 $^{90}\text{Sr}$ 、 $^{131}\text{I}$

ただし、各試料に対する対象核種は、「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング基本計画(平成元年 3月策定(平成 17年 10月改訂)、青森県)」及び「東通原子力発電所に係る環境放射線モニタリング実施計画(平成 15年 2月策定(平成 17年 10月改訂)、青森県)」による。

上記以外の人工放射性核種が検出された場合は、当該人工放射性核種も対象とする。

### (3) 預託実効線量の算出

成人を対象とし、当該年度における対象試料中の放射性核種測定結果及び実効線量係数から別式により、測定結果の平均値を用いて食品等の種類毎及び核種毎に 1 年間の経口摂取又は吸入摂取による預託実効線量を算出し、それぞれを合算する。

(注) 必要があれば放射性ヨウ素による甲状腺の等価線量、ウラン又はプルトニウムによる骨表面又は肺の等価線量を算出する。

## 4. 実効線量の表示方法及び集計方法

- (1) ミリシーベルト単位（mSv）で外部被ばくによる実効線量については小数第 4 位を四捨五入し、小数第 3 位までの値を、内部被ばくによる預託実効線量については小数第 5 位を四捨五入し、小

数第4位までの値をそれぞれ記載する。

- (2) 内部被ばくによる預託実効線量についての計算結果が、0.00005 ミリシーベルト未満の場合は、「NE」と表示する。
- (3) 対象期間内の測定結果の平均値が「ND」（定量下限値未満）の場合の預託実効線量は、「NE」と表示する。
- (4) 内部被ばくによる預託実効線量の計を求める場合は、「NE」を加算しない。  
(注)放射性ヨウ素による甲状腺の預託等価線量、ウラン又はプルトニウムによる骨表面又は肺の預託等価線量についても同様とする。

(別 式)

$$\text{預託実効線量 (mSv)} = [\text{年間の核種摂取量 (Bq)}] \times [\text{実効線量係数 (mSv/Bq)}]$$

$$\begin{aligned} \text{年間の摂取量(Bq)} = & [\text{対象期間内の測定結果の平均値(食品等の種類毎)}] \\ & \times [\text{食品等の1日の摂取量}] \times [\text{対象期間内摂取日数}] \end{aligned}$$

対象期間内の測定結果の平均値

食品等の種類毎に対象核種毎の測定値を単純平均する。測定値に「ND」が含まれる場合は、「ND」を定量下限値として算出する。

ただし、全ての測定値が「ND」場合の平均値は「ND」とする。

食品等の1日の摂取量；別表1に示す。

摂取期間内摂取日数；原則として「365」日とする。

実効線量係数：別表2に示す。

(甲状腺の等価線量に係る線量係数は別表3に示す。なお、ウラン又はプルトニウムによる骨表面又は肺の等価線量を算出する場合に必要な線量係数は、ICRP Publication 71などを参考とする)

別表1 食品等の1日の摂取量（成人）

食品等の種類	1日の摂取量	該当する環境試料	備考
米	320 g	精 米	
葉 菜	370 g	ハクサイ、キャベツ、アブラナ等	
根 菜 ・ い も 類	230 g	ダイコン、ナガイモ、バレイショ等	
海 水 魚	200 g	ヒラメ、ウスメバル、コウナゴ等	
淡 水 魚	30 g	ワカサギ等	
無脊椎動物(海水産)	80 g	ホタテ、ヒラツメガニ、イカ、アワビ、ウニ、タコ等	
無脊椎動物(淡水産)	10 g	シジミ等	
海 藻 類	40 g	コンブ等	
牛 乳	0.25 ㍓	牛 乳 (原乳)	
牛 肉	20 g	牛 肉	
飲 料 水	2.65 ㍓	水道水、井戸水	
空 気	22.2 m <sup>3</sup>	大気浮遊じん、大 気	

- ・ 「線量評価における食品等の摂取量について」（平成17年度第4回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会（平成18年1月24日開催）提出資料）による。
- ・ 大気：水蒸気状トリチウムの場合は、ICRP Publication 71により、皮膚からの吸収分（呼吸による吸収分の0.5倍）を加算する。

別表2 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の実効線量係数 (単位：mSv/Bq)

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取	備 考
<sup>54</sup> Mn	$7.1 \times 10^{-7}$	$1.5 \times 10^{-6}$	
<sup>59</sup> Fe	$1.8 \times 10^{-6}$	$4.0 \times 10^{-6}$	
<sup>58</sup> Co	$7.4 \times 10^{-7}$	$2.1 \times 10^{-6}$	
<sup>60</sup> Co	$3.4 \times 10^{-6}$	$3.1 \times 10^{-5}$	
<sup>106</sup> Ru	$7.0 \times 10^{-6}$	$6.6 \times 10^{-5}$	
<sup>134</sup> Cs	$1.9 \times 10^{-5}$	$9.1 \times 10^{-6}$	
<sup>137</sup> Cs	$1.3 \times 10^{-5}$	$9.7 \times 10^{-6}$	
<sup>144</sup> Ce	$5.2 \times 10^{-6}$	$5.3 \times 10^{-5}$	
<sup>3</sup> H	$1.8 \times 10^{-8}$	$1.8 \times 10^{-8}$	
<sup>14</sup> C	$5.8 \times 10^{-7}$		
<sup>90</sup> Sr	$2.8 \times 10^{-5}$	$3.6 \times 10^{-5}$	
U	$4.9 \times 10^{-5}$	$9.4 \times 10^{-3}$	
<sup>239+240</sup> Pu	$2.5 \times 10^{-4}$	$5.0 \times 10^{-2}$	
<sup>131</sup> I	$1.6 \times 10^{-5}$	$1.5 \times 10^{-5}$	

- ・ <sup>134</sup>Cs、<sup>137</sup>Cs、<sup>90</sup>Sr 及び <sup>239+240</sup>Pu の吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、タイプ M の値を用いた。
- ・ <sup>3</sup>H の経口摂取、吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されているもののうち、水に対応する値を用いた。
- ・ U の経口摂取、吸入摂取については、ICRP Publication 72 に示されている <sup>234</sup>U、<sup>235</sup>U、<sup>238</sup>U のうち、最も大きな値を用いた。
- ・ 上記以外の値は「環境放射線モニタリングに関する指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」による。
- ・ ただし、分析方法等から化学形等が明らかな場合には、原則として ICRP Publication 72 などから当該化学形等に相当する実効線量係数を使用する。

別表3 1 Bq を経口又は吸入摂取した場合の成人の甲状腺の等価線量に係る線量係数 (単位：mSv/Bq)

核 種	経 口 摂 取	吸 入 摂 取	備 考
<sup>131</sup> I	$3.2 \times 10^{-4}$	$2.9 \times 10^{-4}$	

- ・ 「環境放射線モニタリングに関する指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」による。

参考 定量下限値を用いて算出した場合の成人の預託実効線量

定量下限値を用いて食品の種類毎及び核種毎に1年間の経口摂取又は吸入摂取による預託実効線量を算出した結果を下表に示す。

各々の算出結果及び合計した値は法令で定める周辺監視区域外線量限度 1 mSv/年（実効線量）を十分下回っている。

(1) 原子燃料サイクル施設

(mSv)

食品等の種類	<sup>54</sup> Mn	<sup>60</sup> Co	<sup>106</sup> Ru	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>144</sup> Ce	<sup>3</sup> H	<sup>14</sup> C	<sup>90</sup> Sr	<sup>239+240</sup> Pu	U	<sup>131</sup> I	備考
米	NE	0.0002	0.0033	0.0009	0.0006	0.0009	—	0.0001	0.0001	0.0001	0.0001	—	
葉菜	NE	0.0002	0.0038	0.0010	0.0007	0.0011	—	0.0002	0.0002	0.0001	0.0001	—	
根菜・いも類	NE	0.0001	0.0024	0.0006	0.0004	0.0007	—	0.0001	0.0001	NE	0.0001	—	
海水魚	NE	0.0001	0.0020	0.0006	0.0004	0.0006	NE	—	0.0001	NE	—	—	
淡水魚	NE	NE	0.0003	0.0001	0.0001	0.0001	—	—	NE	NE	NE	—	
無脊椎動物(海水産)	NE	NE	0.0008	0.0002	0.0002	0.0002	—	—	NE	NE	—	—	
無脊椎動物(淡水産)	NE	NE	0.0001	NE	NE	NE	—	—	NE	NE	—	—	
海藻類	NE	NE	0.0004	0.0001	0.0001	0.0001	—	—	NE	NE	—	—	
牛乳	NE	0.0001	0.0026	0.0007	0.0005	0.0007	—	—	0.0001	—	0.0001	—	
飲料水	NE	NE	0.0004	0.0001	0.0001	0.0002	NE	—	NE	NE	—	—	
空気	NE	NE	0.0001	NE	NE	NE	NE	—	NE	0.0001	NE	NE	
計	NE	0.0007	0.0162	0.0043	0.0031	0.0046	NE	0.0004	0.0006	0.0003	0.0004	NE	

合計 0.0306 mSv

(2) 東通原子力発電所

(mSv)

食品等の種類	<sup>54</sup> Mn	<sup>59</sup> Fe	<sup>58</sup> Co	<sup>60</sup> Co	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>3</sup> H	<sup>90</sup> Sr	<sup>131</sup> I	備考
米	NE	0.0002	NE	0.0002	0.0009	0.0006	—	0.0001	—	
葉菜	NE	0.0002	NE	0.0002	0.0010	0.0007	—	0.0002	0.0009	
根菜・いも類	NE	0.0001	NE	0.0001	0.0006	0.0004	—	0.0001	—	
海水魚	NE	0.0001	NE	0.0001	0.0006	0.0004	—	0.0001	—	
無脊椎動物(海水産)	NE	NE	NE	NE	0.0002	0.0002	—	NE	—	
海藻類	NE	NE	NE	NE	0.0001	0.0001	—	NE	0.0001	
牛乳	NE	0.0001	NE	0.0001	0.0007	0.0005	—	0.0001	0.0006	
牛肉	NE	NE	NE	NE	0.0001	NE	—	NE	—	
飲料水	NE	NE	NE	NE	0.0001	0.0001	NE	—	—	
空気	NE	NE	NE	NE	NE	NE	—	—	0.0024	
計	NE	0.0007	NE	0.0007	0.0043	0.0030	NE	0.0006	0.0040	

合計 0.0133 mSv

# 原子力施設環境放射線調査報告書

(平成28年度第3四半期報)

平成29年6月 発行

編集・発行 青森県原子力センター  
〒039-3215 青森県上北郡六ヶ所村大字倉内字笹崎400番地1  
電話 0175-74-2251

ホームページURL

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kikikanri/genshisenta/center-home.html>